



LEICA D-LUX 8

取扱説明書

はじめに

お客様へ

このたびはライカ D-Lux 8をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、末永くご愛用ください。本製品について詳しくは、<https://leica-camera.com>をご覧ください。

ライカカメラジャパン株式会社

付属品

カメラをご使用になる前に、下記の付属品*がすべてそろっていることをご確認ください。

- ライカ D-Lux 8
- 充電式リチウムイオンバッテリー（ライカ BP-DC15）
- フラッシュユニット
- 紛失・落下防止ストラップ付きレンズキャップ
- ハンドストラップ
- クイックスタートガイド

* 本書で説明する製品のデザインや仕様などは予告なく変更される場合があります。

スペアアクセサリ/アクセサリ

スペアアクセサリ、アクセサリに関して、詳しくはライカのホームページをご覧ください。

<https://leica-camera.com/ja-JP/photography/accessories>

本製品使用時の事故や怪我、または故障を防ぎ、各種リスクを軽減するため、本製品をお使いになる前に、「法律に関しての事項」、「注意事項」、「本製品の取り扱いについて」を必ずお読みください。

本書またはライカで指定したアクセサリ以外は使用しないでください。指定された以外のアクセサリを使用すると、故障や事故の原因となります。

法律に関する事項

著作権について

- カメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気をつけください。本製品に付属するすべてのソフトウェアの著作権その他一切の権利は、正当な権限を有する第三者に帰属します。
- 本製品は、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、以下に記載する行為にかかわるお客様の個人的または非営利目的の使用を除いてはライセンスされておりません。(i) 画像情報をAVC規格に準拠して(以下、AVCビデオ)記録すること。(ii) 個人的活動に従事する消費者によって記録されたAVCビデオ、または、ライセンスを受けた提供者から入手したAVCビデオを再生すること。営利目的でのAVCビデオ提供など、その他の使用にはMPEG LA, L.L.C.から別途ライセンスを取得する必要があります。詳細についてはMPEG LA, L.L.C. ホームページ (<http://www.mpegla.com>) をご覧ください。
- SD, SDHC, SDXC, microSDHCのマークおよびロゴは、SD-3C, LLCの登録商標です。

本書について

著作権

著作権はライカカメラAGが保有しています。

本書内のすべてのテキスト・画像・グラフィックは知的財産の保護に関する著作権法およびその他の法律の対象となります。ライカカメラAGの許可なく取扱説明書の内容の一部または全部を複製、改変、商業的に使用または転載することを禁じます。

テクニカルデータ

製品およびサービスの変更が行われることがあります。ライカカメラAGは必要な場合に限り、デザイン・形状・カラー等の変更、付属品またはサービス内容の変更を行う権利を留保します。ライカカメラAGは、テキスト内容等に間違いがある場合など、その内容を変更する権利を留保します。画像には、付属品に含まれていないアクセサリや、サービス範囲外のアイテム等が含まれている場合があります。国によっては使用できない機能やサービスについて記載されている場合があります。

商標・ロゴマーク

本書で使用されている商標・ロゴマークは、登録商標です。ライカカメラAGの事前承諾なしに、これらの商標・ロゴマークを使用することを禁止します。

ライセンス

ライカカメラAGは常によりよいものを提供したいと考えています。本書はライカカメラAGの著作権、特許権、商標権等の知的財産権に基づきいかなる権利をも許諾もしくは付与するものではありません。皆様のご理解をお願いいたします。

カメラ情報について

本製品の製造日は、保証書または製品/パッケージに貼付しています。
表示形式：年/月/日

認証情報

本製品の認証情報は、設定メニューから確認できます。

- メインメニューで**カメラ情報**を選択する。
- **カメラ情報**を選択する。

ライセンス情報

本製品のライセンス情報は、設定メニューから確認できます。

- メインメニューで**カメラ情報**を選択する。
- **ライセンス情報**を選択する。

CEマーク

本製品に貼付されているCEマークは、EC指令に適合していることを示しています。

日本語

適合宣言書 (DoC)

「Leica Camera AG」は、本製品が2014/53/EUの基本要件およびその他の関連規定に適合していることをここに示します。

お客様は、当社の無線機器製品へのオリジナル適合宣言書を当社のDoCサーバーからダウンロードすることができます。

<https://cert.leica-camera.com>

ご不明な点がございましたら、Leica Camera AG (Am Leitz-Park 5, 35578 Wetzlar, Germany) までお問い合わせください。

使用可能な周波数帯/使用上の制限事項：

テクニカルデータをご参照ください。

電気・電子機器の廃棄について

(EU諸国および分別廃棄を実施するその他のヨーロッパ諸国のみ)



この装置には電気・電子部品が含まれているため、一般家庭廃棄物として廃棄することはできません。お住まいの自治体のリサイクル協力店にご相談ください。

回収は無料となっています。電池や充電電池を使用する装置を廃棄する場合は、電池や充電電池を取り外してから回収場所にお持ちいただくか、必要に応じてお住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

廃棄についての詳しい情報は、お住まいの自治体、お近くの廃棄物回収業者、またはご購入店にお問い合わせください。

WLAN/BLUETOOTH®の使用に関する注意事項

- ワイヤレスデバイスより信頼性の高いセキュリティを要求されるデバイスまたはコンピューターシステムを使用する場合、有害なアクセスに対するセキュリティや処置を万全にしてから、接続してください。
- ワイヤレスLAN機器としての用途以外でカメラを使用した場合、それによって生じたいかなる損害に対してもLeica Camera AGは一切責任を負いません。
- ワイヤレスLAN機能の使用は本製品が販売されている国での使用を想定しています。販売されていない、または販売を禁じられている国で使用した場合、本製品が当該国の電波関連規制等に違反するおそれがあります。そのような違反が発生してもLeica Camera AGは一切責任を負いません。
- 無線通信で送受信された画像は、第三者に傍受されるおそれがありますのでお気をつけください。情報セキュリティ確保のため、ワイヤレスアクセスポイントで暗号化を設定することを強くおすすめします。
- 電子レンジの近くなど、磁気、静電気、電波障害が発生する場所では使用しないでください。そのような環境下で使用した場合、カメラの無線通信が正常に行えない場合があります。
- 2.4GHz帯の電波を使用する電子レンジやコードレス電話などの近くで使用すると、機器の性能が低下することがあります。
- 利用権限のないワイヤレスネットワークには接続しないでください。
- ワイヤレスLAN機能を有効にすると、カメラがワイヤレスネットワークを自動検索します。検索結果に利用権限のないネットワーク（SSID：ワイヤレスLANの表示名）が表示される場合があります。不正アクセスとみなされるおそれがあるためそのようなネットワークには接続しないでください。
- 航空機内ではワイヤレスLAN機能をオフにすることをおすすめします。
- 5150 MHz～5350 MHzのワイヤレスLAN周波数帯域は、屋外での使用は禁止されています。
- Leica FOTOSの機能について詳しくは、p.188をご確認ください。

一般的な取り扱いについて

- 強い磁気、静電気、電磁波を発生する機器（電磁調理器、電子レンジ、テレビ、パソコンのモニター、ゲーム機、携帯電話、無線機など）の近くで使用しないでください。磁気により記録データが影響を受けることがあります。
- スピーカーや大型の電動モーターなどの強い磁気により、保存した画像データが破損することがあります。
- 電磁波の影響で、本製品が正常に動作しなくなった場合は、バッテリーを入れ直してから再度電源を入れてください。
- 無線送信機や高圧線の近くで使用しないでください。磁気により記録データが影響を受けることがあります。
- 小さな付属品（アクセサリ・シューカバーなど）を保管するときは、次の点にお気をつけください。
 - 乳幼児の手の届くところに置かない。
 - 製品パッケージの所定の位置など、紛失しない場所に保管する。
- 電子機器は、人体に帯電した静電気の影響で不具合を起こす場合があります。合成繊維のカーペットの上を歩くなどすると、人体に大量の静電気が帯電します。導電性があるものの上に本製品が置かれていた場合は、本製品に触れると静電気放電が起こります。静電気が電子回路内に入らなければ、問題ありません。本製品は安全回路を装備していますが、安全のためアクセサリ・シューなどの端子部には手を触れないでください。
- レンズマウントのレンズ検出センサーを傷つけないでください。また、マウント部を傷つけるおそれがあるため、砂などがマウント部に入り込まないようにお気をつけください。お手入れの際は、これらの部分を絶対にぬらさないでください。（システムカメラ使用時）
- 端子部をお手入れする際は、綿やリネンの布をご使用ください。レンズ用のマイクロファイバークロス（合成繊維）は使用しないでください。お手入れの前には、水道管などに触れて静電気を放電してください。また、端子部の汚れやさびつきを防ぐために、レンズキャップやアクセサリ・シューカバーを取り付けて、乾いた場所で保管してください。（システムカメラ使用時）

- 指定されたアクセサリ以外は使用しないでください。故障、感電、ショートの原因になります。
- 本製品を分解・改造しないでください。修理は、ライカ指定のサービスセンターにて専門の修理担当者にご依頼ください。
- 殺虫剤などの強い化学薬品をかけないようにしてください。お手入れの際は、軽油、シンナー、アルコールも使用しないでください。薬品や溶剤によっては、本体表面が変質したり、表面の加工が剥離することがあります。
- ゴム製品やビニール製品は、強い化学物質を発生することがありますので、長期間接触させたままにしないでください。
- 雨や雪の中、または浜辺などで使用するとき、内部に水滴や砂、ほこりなどが入り込まないようにお気をつけください。レンズ交換（システムカメラ使用時）やメモリーカード/バッテリーの出し入れの際は特にお気をつけください。砂やほこりが入り込むと、本製品、メモリーカード、バッテリーの故障の原因となります。水滴が入り込むと、カメラやメモリーカードが正常に動作しなくなったり、修理できなくなったりすることがあります。

レンズ

- レンズの正面に強い太陽光が当たると、レンズがレーベと同じ作用をします。太陽光とレンズの作用により内部が破損しますので、レンズを保護せずに強い太陽光に向けたまま放置しないでください。
- レンズキャップを取り付け、またはケースに収納するなど、強い太陽光が当たらないようにしてください。

バッテリー

- 指定以外のバッテリーを使用したり、本書の説明に従わずに使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- バッテリーを直射日光の当たる場所、高温多湿の場所、濡れた場所に放置しないでください。また、電子レンジや高圧容器に入れないでください。破裂や発火の原因となります。
- 濡れたバッテリーや湿ったバッテリーは、絶対に使用したり充電したりしないでください。
- バッテリーには安全弁が付いています。誤った使い方により内圧が上昇した場合、安全弁によって圧力が低下します。膨張したバッテリーは廃棄規則に従って、すぐに処分してください。爆発するおそれがあります。

- ・バッテリーの端子部は清潔に保ってください。バッテリーがショートするおそれがあるので、端子部をクリップやアクセサリなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- ・バッテリーを落とした場合は、外装や端子部に破損がないか確認してください。破損したバッテリーを使用すると、カメラが故障するおそれがあります。
- ・バッテリーの使用途中や充電中に、異臭、変色、変形、発熱、漏液などの異常に気づいた場合は、カメラやバッテリーチャージャーから直ちに取出してください。そのまま使用や充電を続けると過熱して、破裂や発火の原因となります。
- ・バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。
- ・バッテリーが漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに火気から遠ざけてください。漏れた液に引火するおそれがあります。
- ・指定以外のバッテリーチャージャーを使用すると、バッテリーの故障の原因となるだけでなく、最悪の場合は死亡または重傷を負うおそれがあります。
- ・バッテリーチャージャーを使用するときは、コンセントの周りにほこりがたまっていないか確認してください。
- ・バッテリーおよびバッテリーチャージャーを分解しないでください。修理は、ライカ指定のサービスセンターにご依頼ください。
- ・バッテリーは乳幼児の手の届かないところに置いてください。バッテリーを誤って飲み込んでしまった場合、窒息のおそれがあります。

バッテリーから漏れた液が人体などに付着した場合の処置

- ・液が目に入ると失明の原因となることがあります。目をこすらず、直ちにきれいな水でよく洗い流し、医師の診察を受けてください。
- ・液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に傷害を起こすおそれがあります。直ちにきれいな水でよく洗い流してください。

バッテリーチャージャー

- ・バッテリーチャージャーを無線受信機の近くで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。無線受信機から1 m以上離れてお使いください。
- ・充電中に音がすることがありますが、異常ではありません。
- ・バッテリーを充電していない場合でも、コンセントに差し込んだままにしておくと、微量の電力を使います。使用しないときはコンセントから抜いてください。
- ・端子部は清潔に保ってください。また、絶対にショートさせないでください。
- ・付属の電源コードのみ使用してください。電源コードは、付属のバッテリーチャージャーにのみ使用してください。電源コードやバッテリーチャージャーを他の用途に使用しないでください。

メモリーカード

- ・画像の読み込み中や書き込み中は、メモリーカードを本機から取り出さないでください。また本機の電源を切ったり、本機に振動を与えたりしないでください。
- ・LEDランプが点灯しているときは、カメラがメモリーカードにアクセス中です。バッテリー/メモリーカードスロットカバーを開けたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。メモリーカードに記録したデータが破損したり、カメラが故障したりするおそれがあります。
- ・落としたり曲げたりしないでください。破損して記録データが消失する原因となります。
- ・メモリーカードの裏にある端子部に触れないでください。また、汚れやほこりが付着したり、水でぬらしたりしないようにご注意ください。
- ・メモリーカードは乳幼児の手が届かない場所に保管してください。乳幼児がメモリーカードを飲み込んで窒息するおそれがあります。

撮像素子

- ・宇宙線の影響により（航空機内に持ち込んだ場合など）、画素に異常が生じることがあります。

キャリングストラップ

- ・ キャリングストラップは丈夫な材質によって作られています。乳幼児の手の届かないところに保管してください。首に巻きつくなど、事故につながるおそれがあります。
- ・ キャリングストラップは、カメラまたは双眼鏡を持ち運ぶ目的のみで使用ください。傷害の原因となる可能性があるため、他の用途では絶対に使用しないでください。
- ・ キャリングストラップが引っかかり、首が絞まるおそれがあり危険なため、登山やアウトドアスポーツの際には使用しないでください。

三脚

- ・ 三脚を使用するときは、三脚の強度をご確認の上、カメラ本体ではなく三脚の方を回して取り付けてください。三脚を取り付ける際は、三脚のねじを回しすぎたり、無理な力を加えないようご注意ください。また、カメラを三脚に取り付けたまま持ち運ばないでください。他人を傷つけたりカメラを破損するおそれがあります。

フラッシュ

- ・ 本機に対応していないフラッシュユニットを使用した場合、カメラおよびフラッシュユニットが破損するおそれがありますので、使用前に必ずご確認ください。

USB充電に関する注意事項

- ・ USB-PD規格に準拠した最大出力100W以下のアダプターを使用してください。その際、安全規格IEC62368-1 (ES1、PS2準拠-60V以下、100W以下) に適合していることを確認してください。安全規格に適合しているかどうか不明な場合は、メーカーにお問い合わせください。

本製品の取り扱いについて

その他、詳しくは「お手入れ/保管」をご参照ください。

カメラ/レンズ

- カメラとレンズのシリアルナンバーは、紛失・盗難の際に重要となりますので、書き写して大切に保管してください。
- カメラのシリアルナンバーは、機種によってホットシューまたはカメラ底面に刻印されています。
- ボディキャップやレンズリアキャップを衣類のポケットに入れたままにしないでください。ポケット内側のほこりが付着し、カメラやレンズに取り付けた際に内部にほこりが入り込むことがあります。

モニター

- 寒い場所から暖かい場所に持ち込むと、モニターに結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、乾いた柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。
- 寒い場所で電源を入れた場合、表示が通常よりやや暗いことがあります。カメラが温まるにつれて、明るさは元に戻ります。

バッテリー

- 充電は一定の温度範囲内でのみ行えます。動作条件について詳しくは「テクニカルデータ」の項目 (p.206) をご参照ください。
- リチウムイオンバッテリーは現在のバッテリー残量に関係なくいつでも充電することができます。残量が多い状態で充電すると充電時間は短くなります。
- お買い上げ時バッテリーは満充電されていないので、最初にご使用になる前に充電してください。
- 新しいバッテリーは、満充電してから完全放電させる (カメラに入れて使い切る) というサイクルを、最初に2、3回行うことで、性能を十分に発揮できるようになります。その後もこのサイクルを25回に1回の間隔で行うことをおすすめします。
- バッテリーとチャージャーは充電中に温かくなります。これは異常ではありません。
- 充電開始後にバッテリーチャージャーのLEDが速く (>2Hz) 点滅した場合は、充電異常です (最大充電回数を超えている、温度や電

圧が動作範囲外である、ショートしているなど)。このような場合にはバッテリーチャージャーをコンセントから抜き、バッテリーを取り外してください。周囲の温度が上記に記載された範囲内であることを確認してから、再び充電してください。それでも改善しない場合は、お買い上げの販売店またはライカカスタマーケアまでお問い合わせください。

- 充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは電池寿命が短くなります。バッテリーを長持ちさせるために、夏季や冬の自動車内など、極端に暑い場所や寒い場所に放置しないでください。
- バッテリーには寿命があります。最適な条件のもとで使用し続けても、数百回の充電を重ねると容量が低下し、使用時間が極端に短くなります。
- 本製品はバックアップ電池を内蔵しています。バックアップ電池は、日付と時刻の設定を数週間保存するためのもので、バッテリーを電源としています。バックアップ電池が放電してしまった場合は、バッテリーを入れて充電してください。またバックアップ電池が放電してしまった場合は、日付と時刻の設定が失われますので、再度設定してください。
- 一部の機能では、残量の少ないバッテリーや古いバッテリーを使用していると、メッセージがモニターに表示され、使用が制限されたり使用できなくなったりします。
- カメラを長期間使用しない場合は、バッテリーをカメラから取り出してください。バッテリーを取り出すときは、メインスイッチで電源を切ってください。カメラは電源を切っていても、各種設定の保存に微量の無負荷電流を使用するため、数週間後には多くの電力を消費してバッテリーが過放電状態になります。
- 破損したバッテリーは、廃棄規則に従って適切なリサイクル回収場所にお持ちください。
- 製造年月日はバッテリー表面に記載されています。表示形式: 週/年

メモリーカード

- メモリーカードは非常に多くのメーカーから販売されているため、すべてのカードの動作確認は行っていません。通常はカードの品質が原因で本製品が故障することはありません。しかし低価格の製品にはごくまれに品質基準を満たしていないものもあるため、ライ

力では信頼性の高いメーカーのメモリーカードを使用することをおすすめします。

- データ削除を繰り返すと断片化が生じて空き容量が少なくなりますので、定期的にフォーマット（初期化）することをおすすめします。
- 通常は使用中のメモリーカードをフォーマットする必要はありません。まったくフォーマットされていない、あるいはパソコンなど他の機器でフォーマットしたメモリーカードを使う場合は、必ず本製品でフォーマットしてからご使用ください。
- 電磁波、静電気、カメラ本体やメモリーカードの故障により、メモリーカードのデータが破損・消失することがあります。データをこまめにパソコンに取り込み、バックアップをとることをおすすめします。
- メモリーカードは書き込み防止スイッチを装備していますので、誤って画像を書き込んだり消したりしてしまう心配がありません。このスイッチは、カード本体の角が斜めになっていない側にあります。下側の「LOCK」の方向にスライドさせて書き込み防止にしてください。
- フォーマットするとすべてのデータが削除されます。元に戻すことはできませんのでお気をつけください。フォーマットすると、マークのついた画像も削除されます。

撮像素子

- ほこりなどの粒子が撮像素子表面のカバーガラスに付着すると、画像上に黒い点やシミのように写ることがありますのでお気をつけください（システムカメラ使用時）。ライカカスタマーケア（p.210）ではセンサークリーニングサービスをご利用いただけます。クリーニングサービスは保証の対象外となり、有料とさせていただきます。

画像データ

- 本機が不適切な取り扱いにより故障した結果、記録したデータが破壊されたり、消滅したりすることがあります。
- 記録したデータの消滅による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

ファームウェアのアップデート

ライカは、ライカ D-Lux 8 の機能の向上や不具合の改善に継続的に取り組んでいます。デジタルカメラでは多くの機能がファームウェアで制御されており、お買い上げの後でも機能を追加したり不具合を改善したりできます。機能を追加したり不具合を改善したりするために、ライカは最新のファームウェアを随時提供しています。通常ではカメラが工場から出荷される際に最新のファームウェアがインストールされますが、お客様ご自身でもライカのホームページから最新のファームウェアをダウンロードし、カメラを簡単にアップデートすることが可能です。お手持ちの製品のユーザー登録をされたお客様には、最新ファームウェアのリリース情報をお知らせするニュースレターをお届けします。ファームウェアのアップデート情報、アップデートに伴う改善内容や追加機能、およびカスタマー登録についての詳細は、ライカカスタマーサイト (<https://club.leica-camera.com>) からご覧いただけます。

ライカカメラAGの保証条件について

ライカカメラAGの保証条件について

このたびは弊社の製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

販売店に対する法律に準じた保証の請求権に併せ、Leica Camera AG (「LEICA」)は以下の「ライカ保証」の規定に基づき、ライカ製品の製品保証を行っております。「LEICA」が提供する保証は、国内法に基づくお客様の消費者としての法的権利ならびにお客様と販売店との販売契約に基づいた権利を制限するものではありません。

ライカカメラAG

ライカ保証

本製品は、長年の経験を有する技術者が個々の工程で検査を行いながら、非常に高い品質基準に沿って製造されています。本製品の保証内容は以下の通りです。

保証範囲

保証期間中に、設計上または製造上の問題により保護製品に故障が発生した場合は、弊社の判断に基づき、修理ならびに故障部品の交換もしくは製品の交換を無料で行います。

これらに該当しない故障につきましては、いかなる保証も致しかねます。

保証対象外

アイカップ、レーザー外装、キャリングストラップ、補強材などの消耗箇所、アクセサリ、また表面の損傷は保証の対象外です。

補償請求が無効となる場合

乱用または取扱説明書記載以外の誤操作等、使用上の誤りによる故障および破損、弊社の認定するサービス窓口以外で行われた修理、改造、分解等による故障および破損、またシリアル番号が不明な場合も保証の対象外です。

補償請求をする場合

補償請求のためには、弊社が認定したライカ販売店（以下「ライカ正規販売店」）からライカ製品を購入したことを証明する書類の写しが必要です。購入証明書には、購入日、ライカ製品名、商品番号、シリアル番号、ライカ正規販売店の詳細が記載されている必要があります。

また、領収書の原本の提示をお願いする場合があります。保証書のコピーをお送りいただくことも可能です。ただし、保証書には必要事項がすべて記入され、ライカ正規販売店を通じて販売されたものでなければなりません。

ライカ製品を購入時のレシートまたは保証書のコピーと苦情の内容を添えて、下記までお送りください。

Leica Camera AG
Customer Care
Am Leitz-Park 5
35578 Wetzlar
Germany

またはご希望のライカ代理店までお問い合わせください。

弊社では、EU圏内のピックアップサービスも行っています。サービスをご希望される場合はcustomer.care@leica-camera.comまたは+49 6441 2080-189にご連絡ください。保証期間内であることを示す書類（保証書やご購入日が明記されている納品書やレシートのコピーなど）も必ず同梱してください。

保証期間

本製品に対する保証は、ライカの正規販売店で販売された日から、以下の条件に沿って適用されます。

ライカ フォト製品	保証期間
すべての製品	2年

目次

はじめに	2
付属品	2
スペアアクセサリ/アクセサリ	3
法律に関する事項	4
注意事項	8
本製品の取り扱いについて	12
ライカカメラAGの保証条件について	14
目次	16
各部名称	22
表示	24
静止画	24
動画	26
使用前の準備	28
紛失・落下防止ストラップを取り付ける	28
ハンドストラップを取り付ける	28
USBケーブルを用いて充電する	29
バッテリーを入れる/取り出す	29
メモリーカードを入れる/取り出す	30
視度を調整する	32
基本的な操作・設定	34
各種ボタン/ダイヤル	34
メインスイッチ	34
シャッターボタン	35
ズームレバー	36
シャッタースピードダイヤル	36
サムホイール	37
サムホイールボタン	37
セレクトボタン/センターボタン	38
PLAYボタン/MENUボタン	38
モニター	39
ファンクションボタン	40
モニター (タッチパネル)	41

メニュー操作 (メニュー内での操作/メニューに関する設定)	42
各種ボタン/ダイヤル	42
メニューの種類	42
静止画モードと動画モードのどちらにも有効な設定	43
メニューを切り替える	44
ホーム画面	45
メインメニュー	47
メニュー内の移動	48
サブメニュー	50
キーパッド/テンキー	50
メニューバー	51
スケール	51
日付/時刻メニュー	52
コンビメニュー (画像のプロパティ)	52
カスタマイズ	54
ショートカット	54
お好みの設定を保存する (ユーザープロファイル)	55
カメラの基本設定	58
表示言語	58
日付/時刻設定	58
省エネモード (スタンバイモード)	59
モニター/ファインダー設定	60
モニター/EVFの使用	60
アイセンサーの感度	61
明るさ	61
モニター	61
色再現	62
モニター	62
EVF	62
LCDフレームレート	62
EVFフレームレート	62
電子音	63
音量	63
電子シャッター音	63
撮影設定	64
記録形式	64
解像度	65
JPG解像度	65

画像のプロパティ	65	撮影モード	84
フィルムモード	66	ズーム	85
ハイライトトーン/シャドウトーン	66	ピント合わせ	86
カラープロファイル	67	AFで撮影する	86
モノクロプロファイル	67	オートフォーカス	86
プロファイルの設定	68	インテリジェントAF	86
画像最適化機能	69	AFs (シングル)	86
ノイズリダクション	69	AFc (コンティニュアス)	86
長時間露光時のノイズリダクション	69	AF測距方式	87
JPG画像のノイズリダクション	70	多点測距	87
手ブレ補正	70	スポット測距/フレーム測距	87
シャドウ部の最適化 (IDR)	71	ゾーン測距	88
ダイナミックレンジ	71	被写体追尾 (トラッキング)	88
iDR機能	71	人物認識 (瞳/顔認識)	89
データ管理	72	AFクイック設定	89
メモリーカードをフォーマット (初期化) する	72	AFクイック設定を呼び出す	89
フォルダー構造	72	AFフレームの大きさを変更する	89
ファイル名を変更する	73	AFアシスト機能	90
位置情報を記録する	73	AF補助光	90
データを転送する	74	AF確定音	90
便利なプリセット (撮影補助機能)	76	AFフレームを移動する	90
タッチAF	76	マニュアルフォーカス (MF)	91
タッチ操作で撮影する (タッチAF+リリース)	77	MFアシスト機能	91
EVF使用時にタッチAFを使用する	77	フォーカスピーキング	91
撮影補助表示	77	MFモード時の拡大表示	92
撮影モード時の撮影情報	78	マクロ機能	93
表示できる設定内容	78	ISO感度	93
情報表示バー	78	固定ISO感度	93
グリッド	79	オート	94
フォーカスピーキング	79	ISO感度の設定範囲を制限する	94
水準器	80	ホワイトバランス	95
クリッピング	81	オート/プリセット	95
ヒストグラム	81	マニュアル設定	96
各機能を一時的に表示する/非表示にする	82	色温度を設定する	96
AFアシスト機能	82	露出	97
AF補助光	82	シャッタータイプ	97
		測光方式	98
		露出モード	99
		露出モードを選択する	99

オート露出設定 (P)	100	画像を選択する/スクロールする	122
プログラムAE (P)	100	再生モード時の情報表示	123
プログラムシフト	100	連写画像の再生 (インターバル撮影)	124
オート露出設定 (A/S)	101	グループ内の他の画像へ移動する	125
絞り優先AE (A)	101	再生を続行する	125
シャッター優先AE (S)	101	連写画像を1枚ずつめくる	125
マニュアル露出設定 (M)	102	拡大倍率	126
シャッタースピードを設定する	103	一覧表示	127
長時間露光	104	画像をお気に入りにマークする	129
固定シャッタースピード	104	画像を削除する	129
タイム撮影	104	1コマずつ削除する	130
ノイズリダクション	105	複数の画像を削除する	131
露出設定	106	マークされていない画像を削除する	132
露出プレビュー	106	連写画像を消去する	132
AEロック/AFロック	106	直前に撮影された画像のプレビュー	133
露出補正	108	フィルタリングして再生する	133
撮影モード	109	動画設定	134
連続撮影	109	記録形式	134
インターバル撮影	110	動画形式	134
オートブラケット撮影	111	MP4	134
セルフタイマー撮影	113	使用できる解像度	135
その他の撮影機能	113	使用できるフレームレート	135
シーンプログラム	113	動画形式を設定する	135
フラッシュ撮影	114	画像のプロパティ	136
対応フラッシュユニット	114	動画モード	136
フラッシュ撮影の測光方式 (TTL測光)	115	カラープロファイル	137
フラッシュユニットでの設定	116	モノクロプロファイル	137
フラッシュモード	116	動画プロファイルの設定	138
オート発光	116	音声設定	138
強制発光	116	マイク	138
遅いシャッタースピード使用時のオート発光 (スローシンクロ)	116	風切音低減	139
フラッシュ制御	117	画像最適化機能	139
同調タイミング	117	手ブレ補正 (動画撮影時)	139
フラッシュ発光量調整	118	シャドウ部の最適化 (iDR)	140
再生モード (静止画)	120	ダイナミックレンジ	140
再生モード時に使用する各種ボタン/ダイヤル	120	iDR機能	140
再生モード時のショートカット機能	121	データ管理	141
モニター上アイコンの操作	121	メモリーカードをフォーマット (初期化) する	141
画像を再生する/再生を終了する	122		

フォルダー構造.....	141	ホワイトバランス	163
ファイル名を変更する.....	142	オート/プリセット	163
データを転送する	142	マニュアル設定	164
便利なプリセット（撮影補助機能）	144	色温度を設定する	165
タッチAF	144	露出モード	166
EVF使用時にタッチAFを使用する	145	露出モードを選択する	167
撮影補助表示.....	145	オート露出設定 (P)	167
表示できる設定内容	146	プログラムAE (P)	167
情報表示バー	146	プログラムシフト	168
グリッド	146	オート露出設定 (A/S)	168
ゼブラ	147	マニュアル露出設定 (M)	169
フォーカスピーキング	147	シャッタースピードを設定する	170
水準器	148	露出補正	170
ヒストグラム	149	その他の撮影機能	171
各機能を一時的に表示する/非表示にする	150	再生モード（動画）	172
AFアシスト機能.....	150	再生モード時に使用する各種ボタン/ダイヤル	172
AF確定音	150	再生モード時のショートカット機能	173
動画を撮影する	152	動画を再生する/再生を終了する	174
動画モードを開始する/終了する	153	動画を選択する/スクロールする	174
撮影を開始/終了する	153	再生モード時の情報表示	175
ピント合わせ	154	一覧表示	176
AFモード	154	動画をお気に入りマークする	177
オートフォーカスを制御する	155	動画を削除する	178
タッチAF	155	1本ずつ削除する	178
コンティニユスAF	155	複数の動画を削除する	179
AF測距方式	156	マークされていない動画を削除する	180
人物認識（瞳/顔認識）	157	動画を再生する	181
AFクイック設定	158	その他の機能	184
AFクイック設定を呼び出す	158	初期設定に戻す（すべての設定をリセットする）	184
AFフレームの大きさを変更する	158	ファームウェア アップデート	185
AFフレームを移動する	159	ファームウェアをアップデートする	186
マニュアルフォーカス (MF)	159	LEICA FOTOS	188
MFアシスト機能	160	接続 (iPhone使用者)	188
フォーカスピーキング	160	新しい端末に接続する	188
MFモード時の拡大表示	160	登録済み端末に接続する	189
マクロ機能	161		
ISO感度	162		
固定ISO感度	162		
オート	162		

接続 (Android使用者)	189
新しい端末に接続する	189
登録済み端末に接続する	190
ファームウェアをアップデートする	190
お手入れ/保管	192
FAQ.....	194
メニュー項目一覧	200
テクニカルデータ	206
ライカ カスタマーケア	210
ライカ アカデミー	210

本文中の説明について

メモ

補足的な説明や情報を記載しています。

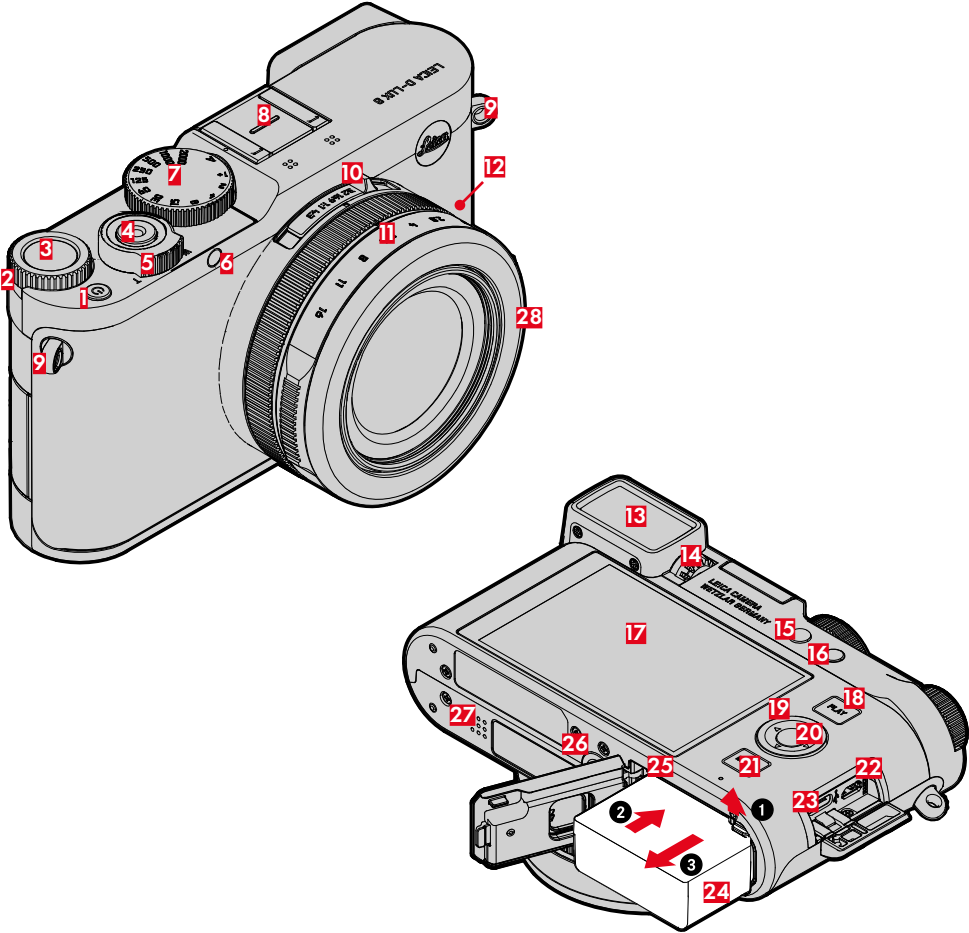
注意

この内容を守らず誤った取り扱いをすると、カメラ本体やアクセサリーの故障、画像データ破損のおそれがあります。

警告

この内容を守らず誤った取り扱いをすると、重傷を負うおそれがあります。

各部名称



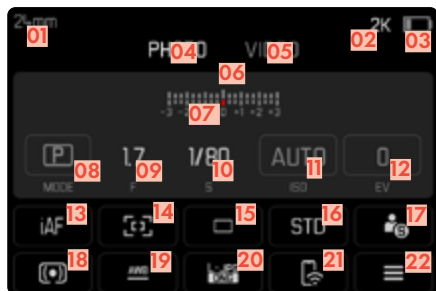
- 1 メインスイッチ
- 2 サムホイル
- 3 サムホイルボタン
- 4 シャッターボタン
- 5 ズームレバー
- 6 セルフタイマーランプ/AF補助光ランプ
- 7 シャッタースピードダイヤル
- 8 ホットシュー
- 9 ストラップ取り付け部
- 10 画像フォーマット切替スイッチ
- 11 絞りリング
- 12 フォーカスモード設定リング
- 13 ファインダー
- 14 視度調整ダイヤル
- 15 ファンクションボタン1
- 16 ファンクションボタン2
- 17 モニター
- 18 **PLAY**ボタン
- 19 セレクターボタン
- 20 センターボタン
- 21 **MENU**ボタン
- 22 HDMIポート
- 23 USB Type-C端子
- 24 バッテリースロット
- 25 メモリーカードスロット
- 26 三脚用ねじ穴
- 27 スピーカー

表示

ファインダー内は、モニター上と同様に各種情報が表示されます。

静止画

ホーム画面



静止画撮影時

設定されている内容/値が表示されます。

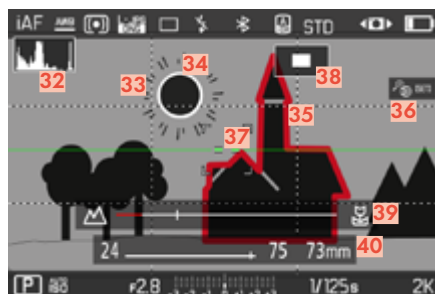


静止画再生時

表示画像撮影時の設定内容/値が表示されます。



撮影アシストを設定時

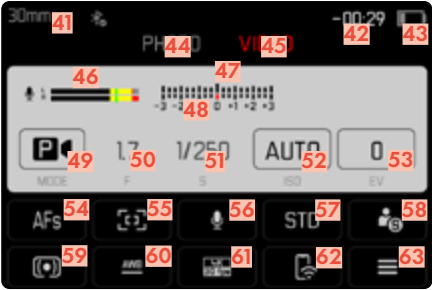


01 焦点距離
02 メモリーカード残量
03 バッテリー残量
04 静止画メニュー
05 動画メニュー
06 露出インジケーター
07 露出補正目盛
08 露出モード
09 絞り値
10 シャッタースピード
11 ISO感度
12 露出補正值
13 フォーカスモード
14 AF測距方式
15 撮影モード (ドライブモード)
16 色再現 (フィルムモード)
17 ユーザープロファイル
18 測光方式
19 ホワイトバランス
20 記録形式/圧縮率/解像度
21 Leica FOTOS
22 メインメニュー
23 フラッシュモード/フラッシュ発光量調整
24 iDR
25 手ブレ補正 (オンに設定時)
26 AFフレーム
27 Bluetooth* (Leica FOTOS)
28 位置情報記録
撮影位置情報を自動記録
29 お気に入りマークされた画像
30 ファイル名
31 表示中の画像ファイル番号
32 ヒストグラム
33 グリッド線

34 クリッピング表示: 露出オーバー
35 自動拡大 (マニュアルフォーカス撮影時のアシスト機能、3倍^①または6倍^②)
36 フォーカスピーキング
(合焦エッジ表示)
37 水準器
38  拡大表示の倍率と位置
(拡大箇所表示時のみ)
39 距離目盛 (MFモード時)
40 拡大率

動画

ホーム画面



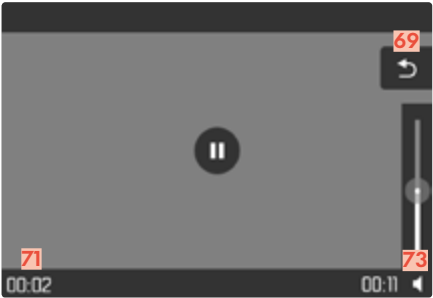
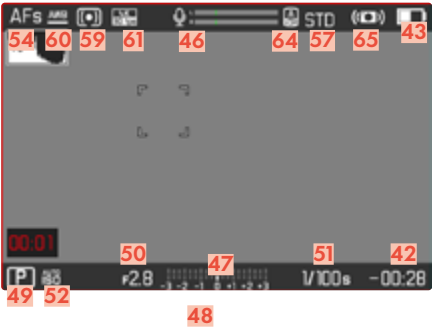
動画再生時

表示画像撮影時の設定内容/値が表示されます。



動画撮影時

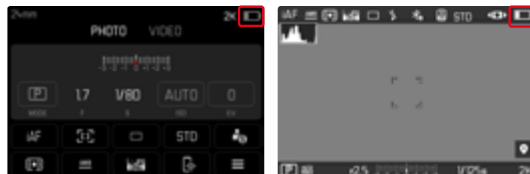
設定されている内容/値が表示されます。



- 41 焦点距離
- 42 メモリーカード残量
- 43 バッテリー残量
- 44 静止画メニュー
- 45 動画メニュー
- 46 マイクの録音レベル
- 47 露出インジケータ
- 48 露出補正目盛
- 49 露出モード
- 50 絞り値
- 51 シャッタースピード
- 52 ISO感度
- 53 露出補正值
- 54 フォーカスモード
- 55 AF測距方式
- 56 マイクの感度 (マイク感度)
- 57 色再現 (動画モード)
- 58 ユーザープロファイル
- 59 測光方式
- 60 ホワイトバランス
- 61 解像度/フレームレート
- 62 Leica FOTOS
- 63 メインメニュー
- 64 iDR
- 65 手ブレ補正 (オンに設定時)
- 66 動画撮影中サイン
- 67 録画時間
- 68 お気に入りにマークされた動画
- 69 動画再生終了アイコン
- 71 動画再生時間
- 73 ボリュームバー

バッテリー残量表示 (モニター)

バッテリー残量はホーム画面またはヘッダーの右上に表示されます。



表示	バッテリー残量
	約75%以上
	約74～50%
	約49～25%
	約24%以下
	約0% バッテリーを交換または充電してください。

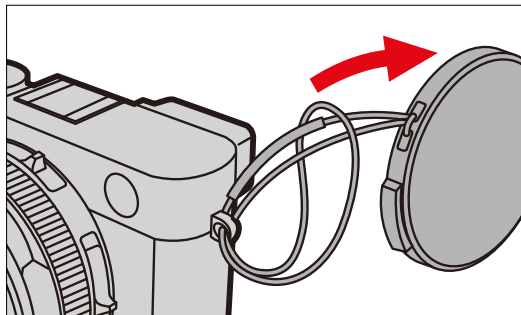
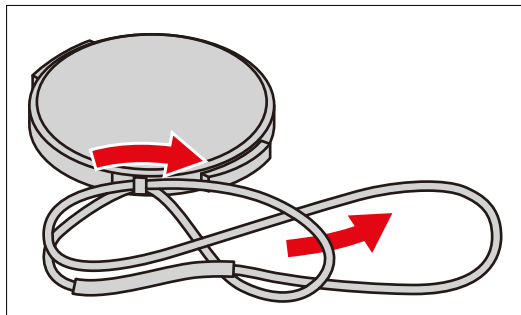
メモ

- 表示されるバッテリー充電レベルはおおよその値です。正確な充電状態は、環境や使用条件によって異なります。

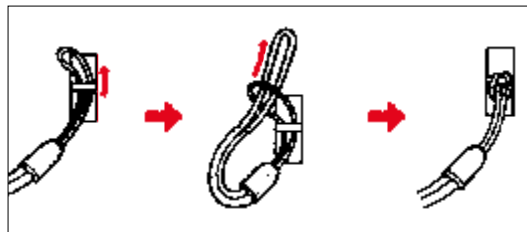
使用前の準備

本製品使用時の事故や怪我、または故障を防ぎ、各種リスクを軽減するため、本製品をお使いになる前に、「法律に関する事項」、「注意事項」、「本製品の取り扱いについて」を必ずお読みください。

紛失・落下防止ストラップを取り付ける



ハンドストラップを取り付ける



警告

- カメラの落下を防ぐため、ハンドストラップがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

USBケーブルを用いて充電する

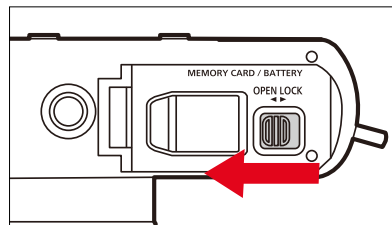
USBケーブルを使用してカメラをコンピューターまたは適切な電源に接続すると、カメラに挿入されたバッテリーは自動的に充電されます。

メモ

- カメラの電源をオフにしたとき、充電は自動的に開始されます。

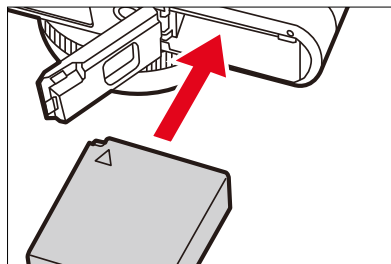
バッテリーを入れる/取り出す

→ カメラの電源が切れていることを確認する。(p.34)



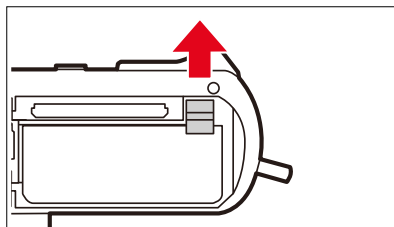
→ バッテリースロットロックレバーを**OPEN**にする。

- ・ バッテリースロットが開きます。



→ バッテリーをマークがついた側を上にしてバッテリースロットに入れる。

- ・ バッテリー取り外しレバーがカチッ音が生じて閉まります。



- バッテリー取り外しレバーを上側に押す。
 - ・ わずかにバッテリーが押し出されます。
- バッテリーを取り出す。

注意

- ・ カメラの電源を入れたままバッテリーを取り出すと、設定内容が消えたりメモリーカードに保存したデータが破損したりするおそれがあります。

メモリーカードを入れる/取り出す

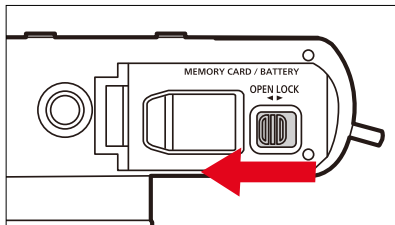
本機では、SDカード、SDHCカード、SDXCカードが使用できます（本書では「メモリーカード」と表記しています）。

メモ

- ・ メモリーカードは、各メーカーからさまざまな容量・転送速度のカードが販売されています。大容量かつ転送速度の速いメモリーカードを使用すると、すばやく書き込み/読み込みを行います。
- ・ メモリーカードを本機で最初に使用する際には、フォーマットする必要があります（p.72）。カードの容量によっては、本機で使用できない場合があります。その際、モニターにメッセージが表示されます。使用できるメモリーカードに関しては、「テクニカルデータ」の項目をご参照ください。
- ・ メモリーカードがうまく入らない場合は、挿入方向を確認してください。
- ・ その他の情報に関しては、p.9/12をご参照ください。
- ・ 動画を撮影するときは、書き込み速度が速いメモリーカードをお使いください。

→ カメラの電源が切れていることを確認する。(p.34)

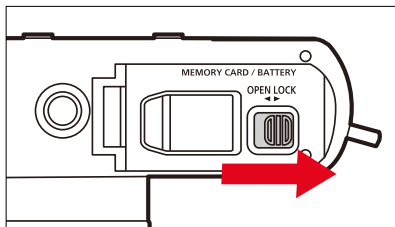
バッテリースロットを開ける



→ バッテリースロットロックレバーを**OPEN**にする。

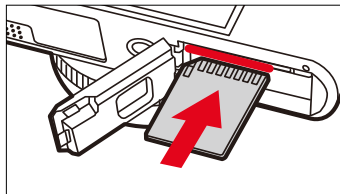
- ・ バッテリースロットが開きます。

バッテリースロットを閉じる



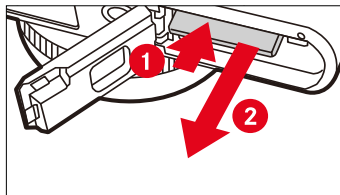
→ カバーをたおし、そのままバッテリースロットロックレバーを**LOCK**にする。

入れる



→ メモリーカードの接点をモニター側に向け、カチッと音がするまで押し込む。

取り出す



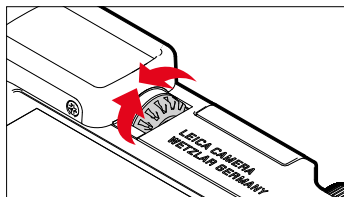
→ 軽くカチッと音がするまでメモリーカードを押し込む。

- ・ わずかにメモリーカードが押し出されます。

→ メモリーカードを取り出す。

視度を調整する

眼鏡をかけずに撮影する際などに、ファインダーの視度を $-4\sim+2$ dptの範囲に調整すること（視度調整）ができます。



- ファインダーをのぞき、撮影したい被写体にピントを合わせる。
- 表示されている画像や情報がくっきり見えるまでダイヤルを回す。

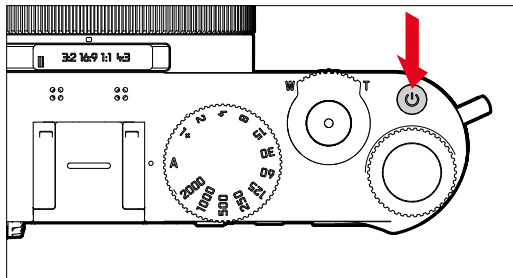
基本的な操作・設定

各種ボタン/ダイヤル

メインスイッチ

電源のオン/オフはメインスイッチで行います。

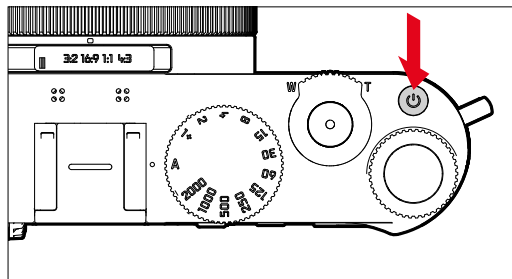
カメラの電源を入れる



メモ

- 電源を入れてから約1秒後にカメラが使用できる状態になります。
- 電源が入るとLEDが数秒間点灯し、ファインダー内の表示が現れます。

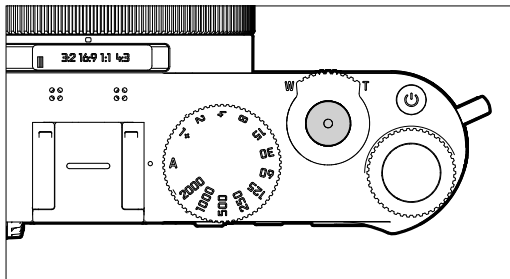
カメラの電源を切る



メモ

- オートパワーオフ** (p.59) 機能をオンに設定すると、一定時間操作をしない場合に、自動的に電源を切ることができます。オートパワーオフ機能が**オフ**に設定されていて長時間カメラを使用しない場合は、誤ってシャッターボタンを押したり、バッテリーの放電が起こるのを防ぐため、必ずメインスイッチで電源を切ってください。

シャッターボタン



シャッターボタンの作動ポイントは2段階です。

1. 半押し（最初の作動ポイントまで軽く押す）

- カメラを再起動する。
- AE/AFロック（測定/ロック）：
 - AFモード：測距（AF-L）
 - P/A/Sモード：測光（AE-L）
- カウントダウン（セルフタイマー）の中断
- 撮影モードに戻る。
 - 再生モードから
 - メニュー操作から

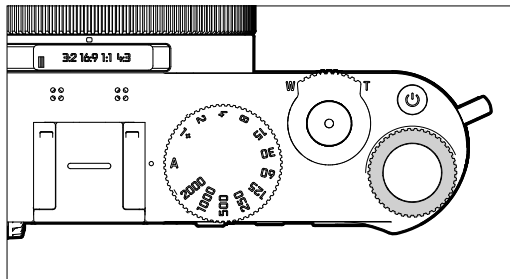
2. 全押し

- シャッターを切る。
 - データがすぐにメモリーカードに自動転送されます。
- 動画撮影を開始する。
- あらかじめメニューで設定したセルフタイマーを開始する。
- 連続撮影/インターバル撮影を開始する。

メモ

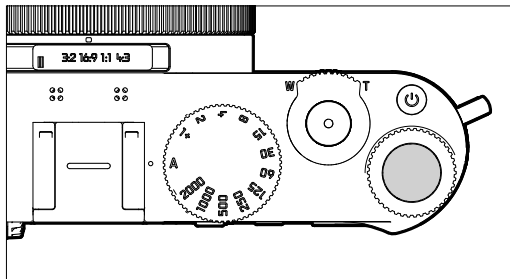
- プレを防ぐため、シャッターボタンは強く押さず、そっと押し込んでください。
- 以下の場合にはシャッターが切れません。
 - メモリーカードまたはバッファメモリーが両方ともいっぱい有的时候
 - バッテリーが使用できなくなったとき（残量がなくなる、動作環境外にある、寿命に達するなど）
 - メモリーカードがプロテクトされているときや破損しているとき
 - イメージセンサーの温度が高すぎる時

サムホイール



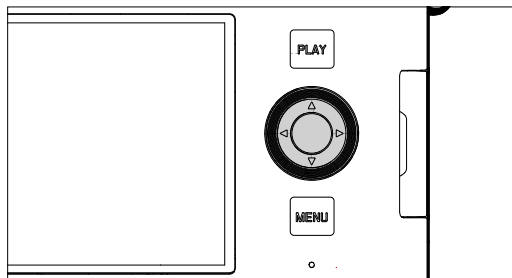
- メニュー内の移動
- 露出補正値の設定
- ISO値の設定
- 表示中の画像の拡大/縮小
- 選択したメニュー項目/機能の設定
- プログラムシフトの設定

サムホイールボタン



- 選択の確定
- メニュー機能のショートカット
- サブメニューの呼び出し

セレクトボタン/センターボタン



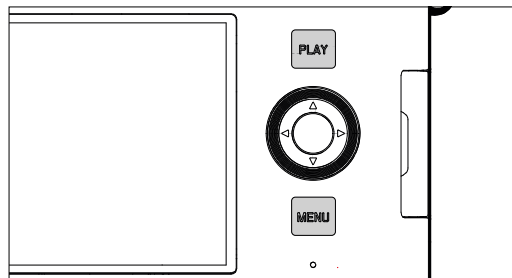
セレクトボタン

- メニュー内の移動
- 選択したメニュー項目/機能の設定
- 再生モード時の一覧表示画面のスクロール
- フレームの移動

センターボタン

- 情報表示画面の呼び出し
- サブメニューの呼び出し
- 選択の確定
- 撮影時、設定内容の表示
- 再生時、撮影データの表示
- 動画の再生
- メッセージの確定
- メニュー機能のショートカット

PLAYボタン/MENUボタン



PLAYボタン

- 再生モード↔撮影モードの切り替え
- 全画面表示へ戻る

MENUボタン

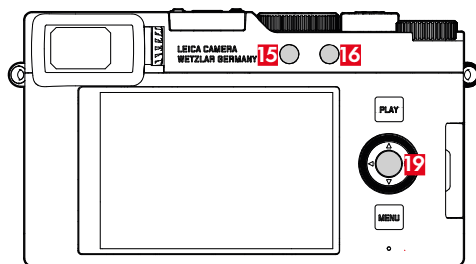
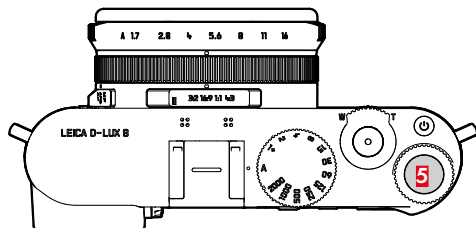
- 各種メニューの呼び出し（ホーム画面含む）
- 再生モードメニューの呼び出し
- 表示されているメニュー/サブメニューの終了
- メインメニューをページごとに移動

モニター



- 撮影時の設定の表示
- メニュー設定にショートカット
- タッチ操作

ファンクションボタン



各種メニュー/機能へのショートカットすべてのファンクションボタンは、個別にカスタマイズ設定できます (p.54)。

初期設定	
撮影モード時	再生モード時
ファンクションボタン1 (15)	
EVF <> LCD	
ファンクションボタン2 (16)	
撮影モードの切り替え (静止画 ↔動画)	1コマ消去
サムホイルボタン (5)	
ISO設定	画像にマーク  をつける
センターボタン (19)	
情報画面切換 (静止画)	情報画面切換

(p.200)

モニター（タッチパネル）

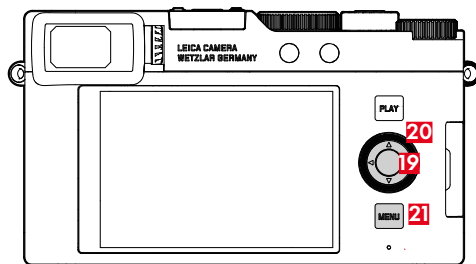
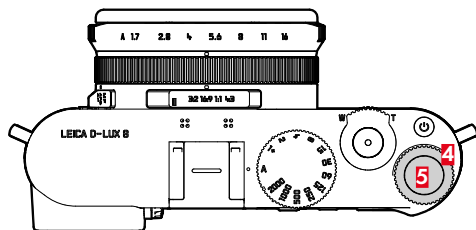
タッチ操作*		撮影モード時	再生モード時
	「タップ」	AFフレームの移動、ピント合わせ (タッチAFに設定時)	画像の選択
	「ダブルタップ」		表示中の画像の拡大/縮小
	「スワイプ」	AFモード、MFモードにてAFフレームを移動する	再生モード時の一覧表示画面のスクロール 拡大表示箇所の移動
	「スワイプ（水平方向）」 (全域)	撮影モードの切り替え（静止画↔動画）	再生モード時の一覧表示画面のスクロール
	「ロングタップ（ホールド）」	AFクイック設定の呼び出し	
	「ピンチイン」 「ピンチアウト」	AFフレームのサイズを変更する (特定のAFモードのみ可能)	表示中の画像の拡大/縮小
	「スワイプ&ホールド」 「ホールド&スワイプ」	AFフレームの移動	連続スクロール

*タッチパネルは指で軽く触れるだけで操作できます。強く押す必要はありません。

メニュー操作 (メニュー内での操作/メニューに関する設定)

各種ボタン/ダイヤル

メニュー操作には以下のボタン/ダイヤルを使用します。



- 4** サムホイール
- 5** サムホイールボタン
- 19** センターボタン
- 20** セレクターボタン
- 21** MENUボタン

メニューの種類

メニューの種類: ホーム画面と**メインメニュー**

ホーム画面:

- すばやく各種設定を確認したり、重要な項目にアクセスできます。

メインメニュー:

- すべてのメニュー項目 (各種サブメニューを含む) にアクセスできます。

選択中の撮影モード (静止画モードまたは動画モード) はメニュー項目の背景色で確認ができます。

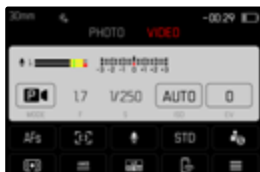
メニュー	静止画	動画
ホーム画面	濃いグレーの背景	薄グレーの背景
メインメニュー	濃いグレーのヘッダー	薄グレーのヘッダー
メインメニュー サブメニュー		

ホーム画面

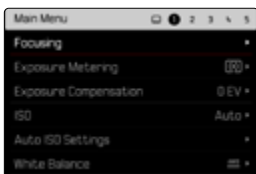
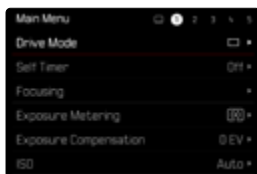
静止画



動画



メインメニュー



静止画モードと動画モードのどちらにも有効な設定

設定中の撮影モード（静止画または動画）によって設定可能な内容が異なります。

- ほぼすべてのメインメニュー、サブメニュー設定内容は撮影モードごとに分けて保存されます。変更された設定内容は、設定中の撮影モードのみに有効です。撮影モードを切り替えるとメニューモードも自動で切り替えられ、フォーカス設定、測光設定、ホワイトバランス設定などの内容が設定中の撮影モードに有効な内容となります。

以下の機能は両モードに有効です。

- ユーザープロファイル
- 撮影アシスト
- 再生モード設定
- モニター設定
- Leica FOTOS
- メモリーカードをフォーマット
- カメラ設定
- カメラ情報
- Language
- 設定リセット

メニューを切り替える

常にホーム画面が最初に表示されます。各種メニューはページごとに構成されており（ホーム画面、メインメニュー）、ヘッダーにてどのページが表示されているかを確認できます。ページ/セクションごとに移動してメニューの種類を切り替えることができます。ホーム画面の最後の項目から、メインメニューにアクセスすることもできます。

次のページへ移動する

→ **MENU**ボタンを押す。

- 最後のページまで進んだ後、ホーム画面に戻ります。

前のページへ移動する

→ セレクターボタンの左を押す。

- ページを戻す場合にはお気に入りメニューまでしか戻れません。ホーム画面に戻りたい場合はMENUボタンを押してください。



ホーム画面

ホーム画面には、頻繁に使用する各種機能/設定が表示されます。そこからそれぞれの機能へすばやくアクセスすることができます。ホーム画面ではタッチ操作が便利です。



- A** モード：静止画/動画 (p.153)
- B** 露出設定 (p.97/166)
- C** メニュー項目
- D** メインメニューへのアクセス

メモ

- EVFモードなど、タッチ操作が不可能または望ましくない場合、セレクトボタン、センターボタンおよびサムホイールボタンでホーム画面を操作することもできます。
- 設定はすぐに有効となります。
- 枠で囲まれた項目は選択できます。枠で囲まれていない設定/内容は自動的に設定されたもので、選択できません（設定中の露出モードによる）。
- 設定可能なメニュー項目は、静止画と動画モードでは異なります。詳しくは、p.24/26をご参照ください。

設定方法

ホーム画面からは様々な方法で各種設定ができます。設定方法はメニューの種類によって異なります。

→ 希望する項目をタップする。

- ・ その項目/設定に応じたメニューが表示されます。

直接設定する

ホーム画面下部にメニューバーが表示されます (p.51)。



→ 希望する機能を直接選択し、スワイプする。

サブメニューを呼び出して設定する

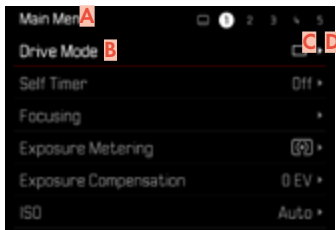
この場合、メインメニューから呼び出されたときと同様に操作します (p.48)。そのため、タッチ操作はできません。設定後は、1つ前のメインメニュー/サブメニューのページに戻らずに、ホーム画面に戻ります。



→ 希望する設定を選択する。

メインメニュー

メインメニューからは、すべての設定/項目にアクセスすることができます。ほとんどのメインメニューにはサブメニューがあります。



A メニューの種類:メインメニュー

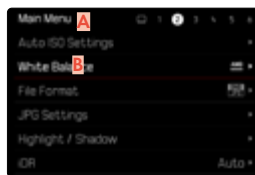
B メニュー項目名

C メニュー項目の設定内容

D サブメニューアイコン (サブメニューがあることを示す)

サブメニュー

サブメニュー内にはいくつかの異なる構成があります。各種操作方法については次項目をご覧ください。

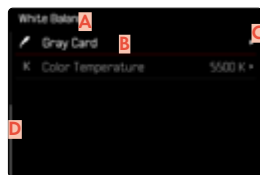


A 設定中のメニュー項目

B サブメニュー項目

C サブメニューアイコン (サブメニューがあることを示す)

D スクロールバー



メニュー内の移動

ページを移動する場合

次のページへ移動する

→ MENUボタンを押す。

- 最後のページまで進んだ後、ホーム画面に戻ります。

前のページへ移動する

→ セレクターボタンの左を押す。

- ページを戻す場合にはお気に入りメニューまでしか戻れません。ホーム画面に戻りたい場合はMENUボタンを押してください。

行を移動する場合

(機能/表示された選択肢の選択)

→ セレクターボタンの上または下を押す。

または

→ サムホイールを回す。

(右=下へ移動、左=上へ移動)

- 各ページの最初または最後のメニュー項目まで進んだ後、もう一度左または右に回すと、自動的に前または次のページに進みます。その際、現在のメニューエリア(お気に入り、メインメニュー)からは移動できません。

メモ

- いくつかの設定条件では、一部のメニュー項目を呼び出すことができません。設定できない項目がある場合は、その項目の文字が濃いグレーで表示されます。

サブメニューを表示する

→ センターボタンまたはサムホイールボタンを押す。

または

→ セレクターボタンの右を押す。

確定する

→ センターボタンまたはサムホイールボタンを押す。

- ・ モニターが現在のメニュー項目を含む一覧に戻ります。該当するメニュー項目の右に、新しく設定された内容が表示されます。

メモ

- ・ **オン**または**オフ**を選択する項目では、決定をする必要はありません。いずれかを選択すると自動的に設定されます。

戻る

(1つ前の画面に戻る)

→ セレクターボタンの左を押す。

- ・ この方法は、リスト形式で表示されているサブメニューでのみ有効です。

最初のページに戻る

→ **MENU**ボタンを1回押す。

- ・ 現在開いているメニューのメインメニューリストに戻ります。

メニューを終了する

メニューやサブメニュー内で、設定/変更をするしないにかかわらず、メニューを終了することができます。

撮影モードへ切り替える

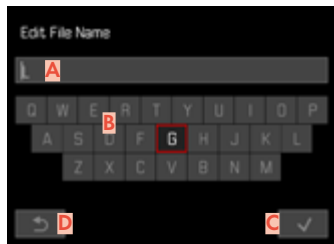
→ シャッターボタンを半押しする。

再生モードへ切り替える

→ **PLAY**ボタンを押す。

サブメニュー

キーパッド/テンキー



- A** 入力行
- B** キーパッド
- C** 「確定」ボタン
- E** 戻るボタン (1つ前の画面へ戻る)

ボタン (文字/ファンクションボタン) を選択する

ボタン操作で行う場合

- セレクターボタンで希望する方向に移動させる。
 - ・ 現在選択されているボタンがマークされます。
- センターボタンまたはサムホイールボタンを押す。

または

- サムホイールを回す。
 - ・ 現在選択されているボタンがマークされます。
 - ・ 行の一番端まで移動したあとは、前または後の行へ移動します。
- センターボタンまたはサムホイールボタンを押す。

タッチ操作で行う場合

- 希望するボタンを直接選択する。

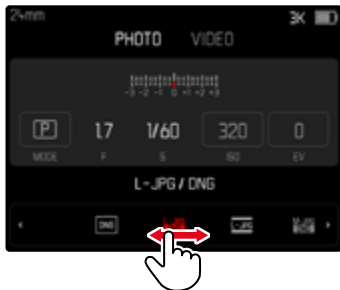
保存する

- **C**を選択する。

中止する

- **D**を選択する。

メニューバー



ボタン操作で行う場合

→ セレクターボタンの左または右を押す。

または

→ サムホイールを回す。

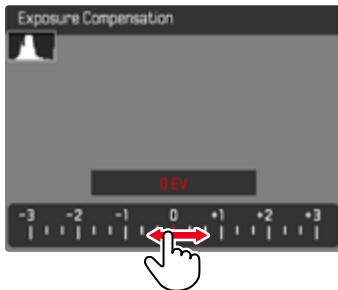
タッチ操作で行う場合

→ 希望する機能を直接選択し、スワイプする。

メモ

- ・ 設定されている値は赤で表示されています。
- ・ 設定された値がスケール/メニューバー上に表示されます。
- ・ ショートカット使用時は、設定変更は直ちに有効になるため、改めて保存する必要はありません。

スケール



ボタン操作で行う場合

→ セレクターボタンの左または右を押す。

または

→ サムホイールを回す。

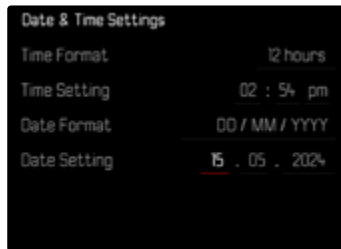
タッチ操作で行う場合

→ 希望する設定を直接選択し、スワイプする。

メモ

- ・ 設定されている値は赤で表示されています。
- ・ 設定された値がスケール/メニューバー上に表示されます。

日付/時刻メニュー



次の入力エリアに移動するには

→ セレクターボタンの左または右を押す。

数字を入力するには

→ セレクターボタンの上または下を押す。

または

→ サムホイールを回す。

保存して1つ前のメニュー項目に戻るには

→ センターボタンを押す。

コンビメニュー（画像のプロパティ）



A 「戻る」ボタン
(保存せずに終了)

B 「パラメーター」ボタン

C 「設定値」ボタン

D 「確定」ボタン
(保存して終了)

ボタン操作またはタッチ操作によって設定の操作方法が異なります。
ライブビュー画像は、各種設定中も表示されます。そのため設定の効果
をすぐに確認できます。



ボタン操作で行う場合

各種ボタン間を移動するには

- セレクターボタンの左または右を押す。
 - ・ 選択中のボタンは赤枠で表示されます。

設定するには

- セレクターボタンの上または下を押す。
 - ・ すぐに選択肢が切り替わります。

または

- センターボタンを押す。
 - ・ 設定可能な選択肢が表示されます。
 - ・ 「パラメーター」ボタンを押すと、各パラメーターの現在の設定値が表示されます。
- セレクターボタンの上または下を押す。
 - ・ 選択中のボタンは赤枠で表示されます。
- センターボタンを押す。
 - ・ 選択肢は表示されません。



タッチ操作で行う場合

- 希望するボタンをタップする。
 - ・ 「パラメーター」と「設定値」ボタンに選択可能な選択肢が表示されます。
 - ・ 「パラメーター」ボタンを押すと、各パラメーターの現在の設定値が表示されます。
- 希望する選択肢をタップする。

保存する

- 「確定」ボタンを選択する。

中止する

- 「戻る」ボタンを選択する。

カスタマイズ

ショートカット

ショートカット機能を使うと、よく使うメニューを撮影中にすばやく呼び出すことができます。ファンクションボタンから呼び出し可能なショートカットメニューは、選択可能なすべてのメニュー項目からカスタマイズすることができます。

- ファンクションボタン1 (15)
- ファンクションボタン2 (16)
- センターボタン (20)
- サムホイルボタン (3)

静止画モード時と動画モード時のそれぞれで個別に設定します。登録可能な項目に関しては、p.200のリストをご参照ください。初期設定に関して詳しくは、p.40をご参照ください。

メモ

- ・ ショートカットから呼び出されるサブメニューは、メインメニューから呼び出される場合とは異なる形式になっていることがあります。よりすばやく設定するために、メニューバーとして表示されることがあります。
- ・ ボタン操作を使用するか、モニターをタッチ操作して設定することができます。操作方法は、サブメニューの形式ごとに異なります。

割り当てを変更する

- 静止画モードまたは動画モードを選択する。
- ファンクションボタンを長押しする。
- 希望するメニュー項目を、センターボタンで選択する。
 - ・ 選択を決定する必要はありません。変更はすぐに適用されます。

割り当てた機能を呼び出す

- ファンクションボタンを軽く押す。
 - ・ 割り当てられた機能が呼び出されるか、サブメニューが表示されます (p.200)。

サムホイールの割り当て機能

初期設定：オート

サムホイールに割り当てられている機能の初期設定は露出モードにより異なります。しかし、お好みの機能を割り当てすることもできます。

- 静止画モードまたは動画モードを選択する。
- メインメニューでサムホイールを選択する。
- 希望する設定を選択する。

オート設定時は、露出モードによってサムホイールに異なる機能が割り当てられます (p.97/170)。

	オフ	オート	露出補正	ISO
P	－	プログラムシフト	露出補正	ISO
A	－	露出補正	露出補正	ISO
S	－	シャッタースピード	露出補正	ISO
M	－	シャッタースピード	露出補正	ISO

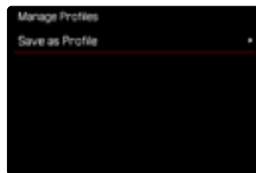
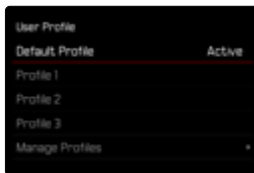
割り当てた機能呼び出す

- サムホイールを左または右に回す。

お好みの設定を保存する (ユーザープロフィール)

メニュー項目の設定状態を、ユーザープロフィールとしてカメラに保存しておくことができます。同じ状況で、あるいは同じ被写体を同じ設定ですばやく撮影したいときなどに便利です。設定中の撮影モード (静止画または動画) 情報も保存されます。

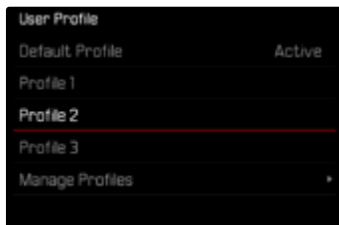
保存できるユーザープロフィールは3つです。それ以外に初期設定のプロファイルもありますが、設定は変更できません (プロフィール初期設定)。



ユーザープロフィールを保存する

各種設定を保存しプロフィールを作成します。

- 各機能をお好みに合わせてメニュー操作で設定する。
- メインメニューで**ユーザープロフィール**を選択する。
- **プロフィール管理**を選択する。
- **プロフィールに保存する**を選択する。
- 希望する保存先を選択する。

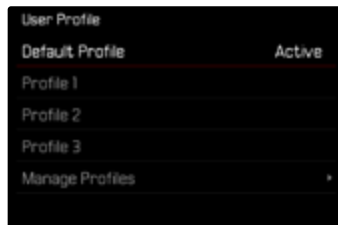


メモ

- 希望する保存先にすでにプロフィールが登録されている場合は、上書きされます。

プロフィールを呼び出す/使用する

初期設定：**プロフィール初期設定**



- メインメニューで**ユーザープロフィール**を選択する。
 - プロフィール名のリストが表示されます。
- 希望するプロフィールを選択する。
 - 選択したプロフィールが**有効**になります。
 - 設定中のプロフィール以外はグレーで表示されます。

カメラの基本設定

カメラの電源を最初に入れた時、初期設定に戻した時 (p.184)、またはファームウェアアップデート時にはLanguage/日付 & 時刻の項目が自動的に表示されます。設定してください。

表示言語

初期設定：英語

使用可能言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、日本語、簡体中国語、繁体中国語、韓国語

- メインメニューでLanguageを選択する。
- 希望する言語を選択する。
 - 一部の項目と略称 (ISOなど) を除き、表示言語が変わります。

日付/時刻設定

表示形式は3種類から選択できます。

- メインメニューでカメラ設定を選択する。
- 日付 & 時刻を選択する。
- 日付 & 時刻設定を選択する。
- 希望する表示形式を選択する。
(12時間、24時間)
- 時刻を設定する。
(12時間表示を選択した場合は、amまたはpmも設定してください。)
- 希望する表示形式を選択する。
(日/月/年、月/日/年、年/月/日)
- 日付を設定する。

タイムゾーン

- メインメニューでカメラ設定を選択する。
- 日付 & 時刻を選択する。
- タイムゾーンを選択する。
- 希望するゾーンまたは現在の滞在地を選択する。
 - 左:グリニッジ標準時との時差
 - 右:タイムゾーン内の主要都市

サマータイム

- メインメニューでカメラ設定を選択する。
- 日付 & 時刻を選択する。
- サマータイムを選択する。
- オンまたはオフを選択する。

省エネモード (スタンバイモード)

バッテリーの消費を防ぐために、一定時間カメラを操作しないと自動的に電源をオフにすることができます。

2段階で消費を防ぐことができます。

- オートパワーオフをオンにする
- 表示のオートパワーオフ

初期設定: 2 min

- メインメニューでカメラ設定を選択する。
- 省エネを選択する。
- オートパワーオフを選択する。
- 希望する設定を選択する。
(オフ、1 min、2 min、5 min、10 min)

メモ

- ・ スリープからの復帰は、シャッターボタンを半押しするか、メインスイッチで電源を入れ直してください。

モニター/ファインダー設定

本機には強度と耐傷性に優れたカバーガラスで保護された大型3.0型液晶モニターが搭載されています。

以下の機能が使用でき、各機能ごとにお好みの設定をすることができます。

- モニター/EVFの使用
- アイセンサーの感度
- 明るさ
- 色再現
- EVFフレームレート
- モニター/EVFのオート/パワーオフ

モニター/EVFの使用

どのような場合にモニターとEVFを使用するかを設定することができます。モニター、EVF共に表示される内容は同一です。

初期設定：**オート**

	EVF	モニター
オート	ファインダーのアイセンサーによって、モニターとファインダーの使用をカメラが自動的に切り替えます。 ・ 撮影 ・ 再生モード ・ メニュー操作	
LCD		・ 撮影 ・ 再生モード ・ メニュー操作
EVF	・ 撮影 ・ 再生モード ・ メニュー操作	

→ メインメニューで**モニター設定**を選択する。

→ **EVF <> LCD**を選択する。

→ 希望する設定を選択する。

メモ

- ・ 暗い場所などでモニターをオフにしなければならない場合、**EVF**を選択してください。

アイセンサーの感度

特にメガネ着用時の切り替えを確実に行うため、アイセンサーの感度を変更することができます。

初期設定：

- メインメニューで**モニター設定**を選択する。
- **アイセンサー感度**を選択する。
- 希望する設定を選択する。

明るさ

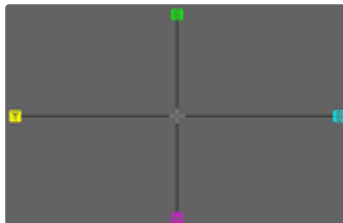
表示内容を見やすくするために、周囲の明るさに応じてモニター表示の明るさを変更することができます。ボタン操作とタッチ操作の両方で設定することができます。

モニター

- メインメニューで**モニター設定**を選択する。
- **LCD輝度**を選択する。
- 希望する明るさ、または**オート**を選択する。
- 確定する。

色再現

モニター/EVFをお好みに合わせた色調に調整することができます。モニターとファインダーは個別に、ボタン操作とタッチ操作の両方で設定することができます。



モニター

- メインメニューで**モニター設定**を選択する。
- **LCDカラー設定**を選択する。
- 希望するカラー設定を選択する。
- 確定する。

EVF

- メインメニューで**モニター設定**を選択する。
- **EVFカラー設定**を選択する。
- ファインダー内で点滅します。
- 希望するカラー設定を選択する。
- 確定する。

LCDフレームレート

モニターのフレームレートを設定することができます。

初期設定：**30 fps**

- メインメニューで**モニター設定**を選択する。
- **LCDフレームレート**を選択する。
- 希望する設定を選択する。
(**30 fps**、**60 fps**)

EVFフレームレート

電子ビューファインダーのフレームレートを設定することができます。

初期設定：**30 fps**

- メインメニューで**モニター設定**を選択する。
- **EVFフレームレート**を選択する。
- 希望する設定を選択する。
(**30 fps**、**60 fps**)

電子音

電子音でいくつかの機能の設定を確認することができます。以下の機能を個別に設定することができます：

- 電子シャッター音
- AF確定音

音量

各種電子音の音量を調節することができます。

初期設定：

- メインメニューでカメラ設定を選択する。
- 電子音を選択する。
- 音量を選択する。
- オフ、またはを選択する。

電子シャッター音

初期設定：オフ

- メインメニューでカメラ設定を選択する。
- 電子音を選択する。
- シャッター音を選択する。
- オンを選択する。

撮影設定

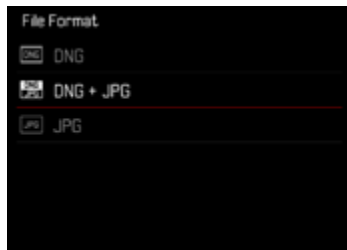
記録形式

JPG形式 **JPG**、および標準のRAWデータ形式 **DNG**（デジタルネガティブ）が選択できます。別々に使用することもできますが、両方の形式で同時に記録することもできます。

JPG画像はカメラがコントラスト、彩度、黒レベル、エッジシャープネスなどの各種パラメーターを自動調整・補正し圧縮して保存します。これにより、最適化された画像がすぐに得られ、プレビューも素早く行えますが、手動による後処理がほとんどできません。そのため後処理には、DNGでの記録が必要です。

DNGファイルには、撮影時にカメラのセンサーが記録したすべてのRAWデータが含まれています。ですからDNG画像として保存し、後に画像加工プログラムAdobe® Photoshop® Lightroom®またはCapture One Pro®を使用して好みの画像に細かく調整、仕上げることをおすすめします

初期設定：**DNG + JPG**



→ メインメニューで**記録形式**を選択する。

→ 希望する形式を選択する。

(**DNG**、**DNG + JPG**、**JPG**)

メモ

- DNG（デジタルネガティブ）とは、RAWファイル形式の標準フォーマットです。撮像素子が記録したデータをそのまま保存します。
- モニターに表示される撮影可能枚数は撮影後すぐに更新されない場合があります。これは記録に必要なデータ容量が被写体によって異なるためです。複雑な絵柄はデータサイズが大きく、均一な絵柄はデータサイズが小さくなります。

解像度

JPG解像度

JPGでは記録画素数をL-JPG、M-JPG、S-JPGの3種類から選択できます。画像の用途やメモリーカード容量に合わせて最適な設定を選んでください。

初期設定：L-JPG

- メインメニューでJPG設定を選択する。
- JPG解像度を選択する。
- 希望する記録画素数を選択する。

画像のプロパティ

デジタル写真には数多くのメリットがありますが、その1つが画質を簡単に調整できることです。本機では、お好みに合わせて設定を個別に調整できるフィルムモードプロファイルを使ってJPG画像を撮影することができます。



フィルムモード

JPG画像のプロパティは様々なパラメーターにより変更が可能です。これらは**フィルムモード**のプロファイルのプリセットにて設定することができます。

コントラスト

明暗差に強弱をつけます。

シャープネス

輪郭強調の強弱を調整します。

彩度

色彩の鮮やかさを調整します。

ハイライトトーン/シャドウトーン

露出設定や被写体もしくは撮影シーンのダイナミックレンジによっては、ハイライト部やシャドウ部のディテールがよく認識できない場合があります。パラメーター**ハイライトトーン**と**シャドウトーン**は、露出オーバー部と露出アンダー部をそれぞれ調整することができます。例えば、被写体の一部が影になっている場合、**シャドウトーン**の設定を高くすることで、その部分が明るくなり、ディテールが見えやすくなります。逆に、既存のシャドウやハイライト部分を、デザイン上の理由でさらに強調することもできます。プラス値に設定するとより明るく、マイナス値はより暗くなります。

カラープロファイル

撮影時には、以下の3つの設定から選択することができます。

初期設定：標準

– STD 標準

– VIV ビビッド

– NAT ナチュラル

→ メインメニューでJPG設定を選択する。

→ フィルムモードを選択する。

→ 希望するプロファイルを選択する。



モノクロプロファイル

モノクロ写真撮影時には、以下の2つの設定から選択することができます。

– B/W Monochrome

– B/W Monochrome High Contrast

→ メインメニューでJPG設定を選択する。

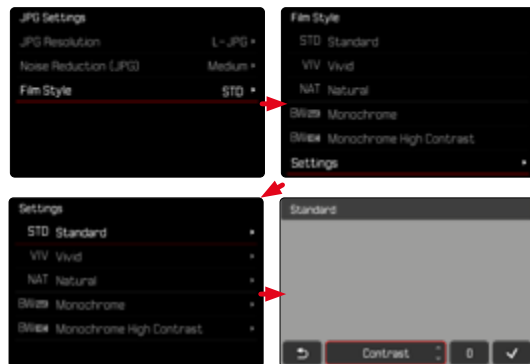
→ フィルムモードを選択する。

→ 希望するプロファイルを選択する。

プロファイルの設定

これらのパラメータはすべてのプロファイルで設定が可能です。モノクローム設定には**彩度**の設定はできません。詳しくはp.52をご覧ください。

- メインメニューで**JPG設定**を選択する。
- **フィルムモード**を選択する。
- **フィルムモード設定**を選択する。
- 希望するプロファイルを選択する。
- **コントラスト**/**ハイライトトーン**/**シャドウトーン**/**シャープネス**/**彩度**を選択する。
- 希望のレベルを選択する。
(**2**、**1**、**0**、**1**、**2**)
- 確定する。



画像最適化機能

ノイズリダクション

長時間露光時のノイズリダクション

デジタル写真では、欠陥画素が発生したり、画像にざらつきが生じたりすることをノイズと呼びます。ISO感度を高めに設定した場合は、暗く均一な被写体でノイズが目立つことがあります。露光時間が長くなると、ノイズが発生することがあります。高感度かつ遅いシャッタースピードで撮影する場合、ノイズを軽減するため、撮影直後に「ブラックピクチャー」（シャッターを閉じて撮影するノイズ画像）を自動的に撮影します。このブラックピクチャーを元の画像に重ね、デジタル処理によって減算を行い、元の画像に生じたノイズを軽減します。その際、メッセージ（例：**ノイズ低減中...**）がモニターに表示されます。

このように露光を2度行うため、遅いシャッタースピードを設定しているときほど、撮影に時間がかかります。ノイズ軽減中はカメラの電源を切らないでください。長時間露光設定で何枚も連続して撮影するためには、ノイズリダクション機能をオフにし、撮影後の画像処理の際に実行することをおすすめします。画像処理を撮影後に行う場合にはRAWデータフォーマット（DNG）で撮影されている必要があります。

初期設定：**オン**

→ メインメニューで**ノイズリダクション(長時間露光)**を選択する。

→ **オン**または**オフ**を選択する。

本機能をオンにした場合には、タイム撮影時、8秒以上の長時間露光時など一定の条件下では常にノイズリダクションが行われます。

それ以外の場合、ISO設定、シャッタースピード、センサー温度の組み合わせなどによりノイズリダクションは行われます。以下の表ではノイズリダクションが行われるシャッタースピード値（センサー温度が25度時）を示しています。

ISO	シャッタースピードが以下の値より遅い場合
100	7秒
200	6.4秒
400	5.9秒
800	5.4秒
1600	4.9秒
3200	4.5秒
6400	4.2秒
≥ 12 500	3.8秒

JPG画像のノイズリダクション

高感度で撮影する場合を除いて、ノイズは無視できる程度しか発生しませんが、JPG画像撮影後のデータ処理の一部としてノイズリダクションが作動します。ただし、ノイズリダクションが行われると画像のシャープネスが変化するため、お好みに合わせてノイズリダクション効果の度合いを選択することができます。

初期設定：

- メインメニューでJPG設定を選択する。
- ノイズリダクション (JPG)を選択する。
- 希望する設定を選択する。
(, , )

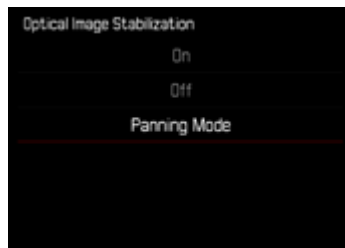
メモ

- この設定はJPG画像にのみ有効です。

手ブレ補正

光学式手ブレ補正機能オンにすると、暗い環境下での撮影時にシャッタースピードをより遅く設定しても、ブレを抑えた画像を撮影することができます。

初期設定：

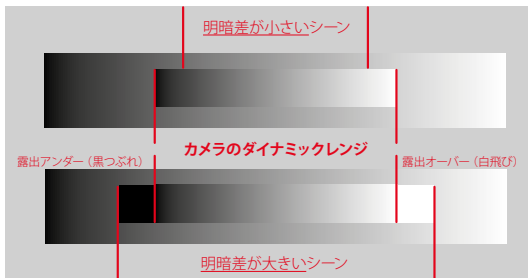


- メインメニューでOISを選択する。
- 希望する設定を選択する。
(, , )

シャドウ部の最適化 (iDR)

ダイナミックレンジ

撮影シーンの明るさの範囲は、最も明るい部分から最も暗い部分までのすべての明暗差を含みます。実際に撮影する場面の明暗差が小さく、カメラのダイナミックレンジ内である場合は、露出を調節することで撮影が可能です。逆に明暗差が大きい場合（室内で明るい窓を背景にした撮影、一部が日かげで一部が直接太陽に照らされている被写体の撮影、暗い部分と非常に明るい空のある風景の撮影など）は、カメラのダイナミックレンジの限界により、諧調を保ったまま明暗差を完全に再現することができません。そのため、白飛びや黒つぶれが起こります。



iDR機能

この*iDR* (インテリジェント ダイナミックレンジ)機能を使うと、適切なコントラストになるよう特にシャドウ部が自動補正されます。それによりディテール部までよく確認できるようになります。この機能はJPG画像にのみ有効です。



自動補正の強度を3レベルで（**高**、**標準**、**弱**）設定、または無効（**オフ**）にすることができます。**オート**に設定すると、撮影画面の明暗差を基にカメラが適切な設定を選択します。効果は露出設定内容によっても異なります。この機能はISO感度が低く、シャッタースピードが速く設定されている場合に最も効果を発揮します。ISO感度が高いほど、またシャッタースピードが遅いほど、その効果は小さくなります。

初期設定：**オート**

→ メインメニューで*iDR*を選択する。

→ 希望する設定を選択する。

（**オート**、**高**、**標準**、**低**、**オフ**）

メモ

- ・ シャドウ部を最適化することで、ハイライト部の画像情報が少し失われます。
- ・ この機能はJPG画像にのみ有効です。

データ管理

メモリーカードをフォーマット（初期化）する

新しいメモリーカードや他の機器で使用したメモリーカードを使用する場合は、必ず本機でフォーマットしてからご使用ください。フォーマットする必要のあるメモリーカードを入れたときは、フォーマットを促すメッセージが表示されます。また撮影時の残留画像（撮影一時情報）がメモリーカードの容量を占めていることがあるため、時々フォーマットすることをおすすめします。

→ メインメニューで**メモリーフォーマット**を選択する。

- 確定する。
- ・ 処理中はLEDランプが点滅します。

メモ

- ・ フォーマット中は本機の電源を切らないでください。
- ・ フォーマットするとすべてのデータが削除されます。元に戻すことはできませんのでお気をつけください。フォーマットすると、マークのついた画像も削除されます。
- ・ データの消失を防ぐため、撮影した画像を外付けハードディスクやコンピューターに定期的に保存してください。
- ・ メモリーカード内のデータはカメラでフォーマットしてもディレクトリのみが削除されるだけで完全には削除されません。既存ファイルに直接アクセスできなくなるのみです。そのため適切なソフトウェアを使用すると特定の状況下でデータを再現することが可能になります。新しい画像によって上書きされた画像は完全に消去されます。
- ・ パソコンなど他の機器でフォーマットしたメモリーカード使用する場合は、必ず本機でフォーマットしてから使用してください。
- ・ フォーマットできない場合は、お買い上げの販売店またはライカ カスタマーケア (p.210) までご相談ください。

フォルダー構造

フォルダー

撮影された画像は自動的にメモリーカード上のフォルダー内に保存されます。最初の3文字はフォルダー番号（数字）、後半の5文字はフォルダー名（数字+アルファベット）です。初期設定では、最初のフォルダーから順番に、「100LEICA」、「101LEICA」とフォルダー名が付けられています。自動生成されるフォルダーの番号は、100LEICAから999LEICAまで連番で作成されます。

ファイル名

ファイル名はフォルダー内に11文字で作成されます。初期設定では、最初の画像から順番に、「L1000001.XXX」、「L1000002.XXX」とファイル名がつけられています。1文字目はLEICAの頭文字「L」、残りの10文字はお好みに合わせて数字とアルファベットを入力することができます。「L」に続く3文字がフォルダー番号、その後の4文字がフォルダー内の画像番号です。1つのフォルダー内での画像番号が9999に達すると、新しいフォルダーが自動的に作成され、新たに0001から画像番号が付けられていきます。「XXX」には記録形式（DNGまたはJPG）が入ります。

メモ

- ・ 本機でフォーマットされていないメモリーカードを使うときは、画像番号は0001から始まります。カメラが記憶している画像番号よりも大きい番号がメモリーカード内にある場合は、その続きの番号が次の画像に付与されます。
- ・ ファイル名が「L9999999」に達するとメッセージが表示され、撮影できなくなります。フォーマットして画像番号をリセットするか、または新しいメモリーカードをお使いください。
- ・ フォルダー番号を100に戻すには、フォーマットして画像番号をリセットするか、または新しいメモリーカードをお使いください。

ファイル名を変更する

- メインメニューで**カメラ設定**を選択する。
- **ファイル名変更**を選択する。
 - ・ キーパッドが表示されます。
 - ・ 入力行に「L」で始まるファイル名が表示されます。最初のアルファベット「L」のみを変更できます。
- 希望する文字を入力する (p.50)。
- 確定する。

メモ

- ・ ファイル名の変更は、次の撮影以降再びファイル名を変更するまで、すべての画像に有効になります。続く4桁の数字を変更することはできません。ただし、新たなフォルダーを作成した場合はファイル名が初期設定に戻ります。
- ・ カメラのすべての設定をリセットすると、最初の文字は「L」に戻ります。
- ・ 小文字は使えません。

位置情報を記録する

(LEICA FOTOS接続時のみ)

アプリLeica FOTOSに接続すると、接続したモバイル端末の位置情報を記録することができます。画像のExifデータにその位置情報が記録されます (ジオタグ)。

- モバイル端末で位置情報機能をオンにする。
- Leica FOTOSを起動し、カメラと接続する (詳しくは取扱説明書の「Leica FOTOS」の項目をご覧ください)。
- アプリ内でジオタグをオンにする。

メモ

- ・ 一部の国や地域では、GPS機能とGPS関連機器の使用が規制されています。違反した場合、当局から起訴される可能性があります。本機を外国に持ち込む場合は、持ち込み制限などがないか、大使館や旅行代理店にご確認ください。
- ・ Bluetooth接続には数秒かかります。カメラのオートパワーオフ機能をオンに設定中の場合は、1分以上に設定してください。
- ・ 再生時、位置情報を含むデータにはジオタグマークが表示されます。

位置情報記録状況

情報表示バーを表示すると、ジオタグの記録状態がモニターに表示されます。ホーム画面には常に最新の記録状態が表示されます。

	最新の位置情報（最終更新：最長15分前）
	位置情報が最新ではない（最終更新：最長12時間前）
	位置情報が古い（最終更新：12時間以上前） 位置情報はExifデータに記録されていません。
アイコンなし	位置情報記録がオンになっていない。

この機能は、カメラがLeica FOTOSに接続されている場合は常に位置情報が更新されます。そのためカメラとモバイル端末のBluetooth機能がオンになっている必要があります。アプリを開けておく必要はありません。

データを転送する

データを専用アプリ「Leica FOTOS」にて楽にすばやくモバイル端末に転送することができます。また、カードリーダーを使用して転送することもできます。

便利なプリセット（撮影補助機能）

タッチAF

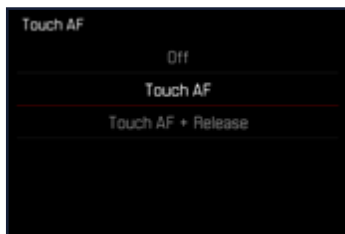
モニターをタップして測距点/AFフレームの位置を移動させることができます。

初期設定：タッチAF

- メインメニューでフォーカスを選択する。
- タッチAFを選択する。

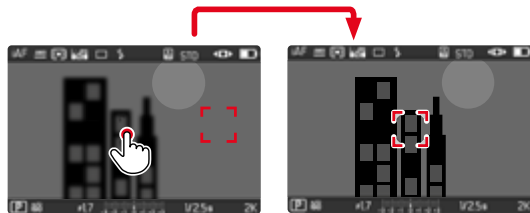


- タッチAFを選択する。



AFフレームの位置を移動させるには

- 移動させたい位置をモニター上でタップする。



メモ

- この機能はAF測距方式を多点に設定している場合は使用できません。
- トラッキング使用時は、タッチ操作でAFフレームを移動させることはできません。シャッターボタンを半押しすることでピントを合わせることができます。他の測距方式を選択した場合は自動でピント合わせが行われます。

タッチ操作で撮影する（タッチAF+レリーズ）

タッチAF+レリーズに設定すると、モニターをタップしてピントを合わせ、そのまま撮影ができます。

- メインメニューで**フォーカス**を選択する。
- **タッチAF**を選択する。
- **タッチAF+レリーズ**を選択する。
- 移動させたい位置をモニター上でタップする。

EVF使用時にタッチAFを使用する

誤操作によりAFフレームが移動するのを防ぐため、電子ビューファインダー（EVF）使用時はタッチAFを無効にすることができます。AFクイック設定（p.89）は呼び出すことができます。しかし左目でピント合わせをする場合などは、「AFクイック設定の呼び出し」も無効にすることができます。

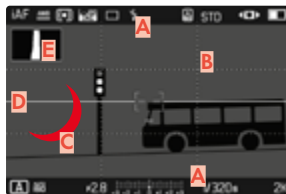
初期設定：**オフ**

- メインメニューで**フォーカス**を選択する。
- **EVF使用時にタッチAF**を選択する。
- 希望する設定を選択する。
（**オン**、**タッチパッド**、**オフ**）
- **オン**
 - AFフレームの配置（タップ）
 - AFクイック設定の呼び出し（ロングタップ）
- **タッチパッド**
 - モニターをオフにしてEVFをオンにしている場合：AFフレームの配置（タップ）
- **オフ**

撮影補助表示

ヘッダーとフッターにさらに多くの情報を表示したい場合は、必要に応じてカスタマイズすることもできます。以下の機能が使用可能です：

- グリッド（撮影モード時のみ、p.79）
- フォーカスピーキング（p.79）
- クリッピング（p.81）
- 水準器（撮影モード時のみ、p.80）
- ヒストグラム（p.81）



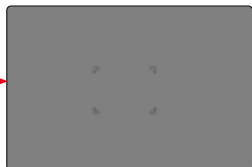
- A** 情報表示バー（＝ヘッダー/フッター）
- B** グリッド
- C** フォーカスピーキング
- D** クリッピング
- E** 水準器
- F** ヒストグラム

- メインメニューで**撮影アシスト**を選択する。
- 希望する機能を選択する。
- **オン**または**オフ**を選択する。

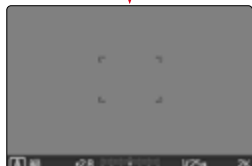
撮影モード時の撮影情報

表示の有無に関して、以下の3つの設定が使用可能です。

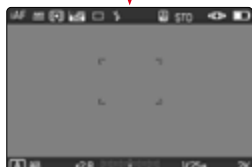
- センターボタンを押す。
 - ・ 押すごとに設定が変わります。



－ 撮影情報表示なし



－ フッター（露出情報）、撮影補助



－ ヘッダー（撮影情報）、フッター（露出情報）、撮影補助

一時的に情報表示画面を替えるには

- シャッターボタンを半押しし続ける。
 - ・ 露出情報とオンに設定されている撮影補助機能のみ表示されます。

表示できる設定内容

情報表示バー

ヘッダー/フッターには現在設定されている各種内容が表示されます。表示できる内容は、「表示」(p.24) の項目をご参照ください。



グリッド

グリッドは、主に写真の構図を決める目安として使います。モチーフの構成だけでなくカメラの方向を正確に決めるにも便利です。



→ メインメニューで**撮影アシスト**を選択する。

→ **グリッド**を選択する。

→ **オン**または**オフ**を選択する。

フォーカスピーキング

この機能をオンにすると、ピントが合っている被写体の輪郭をマークすることができます。表示色を変更できます。また、感度の調整もできます。



スピーキングの色を変更する

初期設定：**レッド**

→ メインメニューで**フォーカス**を選択する。

→ **MFアシスト**を選択する。

→ **フォーカスピーキング**を選択する。

→ 希望する設定を選択する。

(**オフ**、**レッド**、**グリーン**、**ブルー**、**ホワイト**)

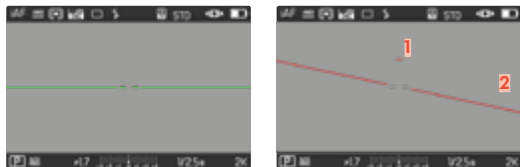
メモ

- ・ **フォーカスピーキング**はMFモード時のみ使用できます。

水準器

本機には水準器センサーが内蔵されています。三脚を使用して建築物を撮影するときなどに、構図を正確に決められるので便利です。

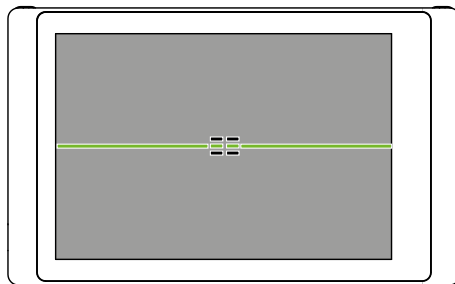
縦軸に対するブレ（カメラが上下に傾いている場合）は、画面中央の短い線 **①** で表示されます。横軸に対するブレ（カメラが左右に傾いている場合）は、画面左右の長い線 **②** で表示されます。



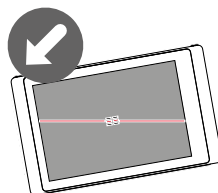
- メインメニューで**撮影アシスト**を選択する。
- **レベルゲージ**を選択する。
- **オン**または**オフ**を選択する。

メモ

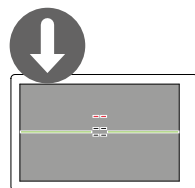
- 縦写真を撮影する場合、縦向きの画面に対応した水準器が表示されます。



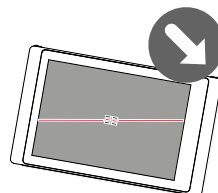
正位置の場合（傾きなし）



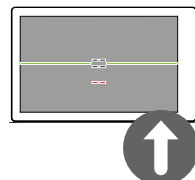
水平方向左に傾いている



前方向に傾いている



水平方向右に傾いている



後方向に傾いている

クリッピング

クリッピング表示をオンにすると、画像の明るすぎる部分が表示されます。すばやく露出を確認したい場合に便利です。露出オーバーの部分が黒く点滅します。



→ メインメニューで**撮影アシスト**を選択する。

→ **クリッピング / セブラ**を選択する。

→ **オン**または**オフ**を選択する。

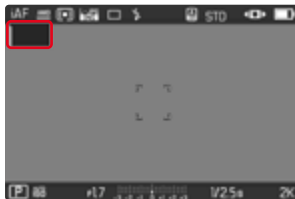
→ シャッターボタンを半押しし続ける。

- ・ クリッピングが表示されます。

ヒストグラム

ヒストグラムとは、画面上の輝度分布を示すグラフです。横軸は明るさを黒（左端）～灰色～白（右端）で表しています。縦軸はピクセル数を表します。

屋外など周囲が明るすぎてモニターが見にくい場合でも、このグラフから露出状況を確認することができます。



→ メインメニューで**撮影アシスト**を選択する。

→ **ヒストグラム**を選択する。

→ **オン**または**オフ**を選択する。

メモ

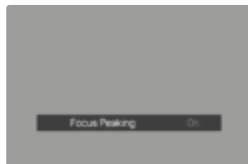
- ・ ヒストグラムはライブビュー画像の明るさに基づいていますので、コントラスト設定などに影響され最終的な露出を示していない場合があります。
- ・ 撮影モード時のヒストグラムは露出の傾向であり、正確な画素数を示しているわけではありませんので目安としてお使いください。
- ・ 撮影時と再生時のヒストグラムは多少異なることがあります。
- ・ ヒストグラム表示は、画像内の現在表示されている範囲を反映します。
- ・ ダブルタップでヒストグラムの表示位置を変更することができます。

各機能を一時的に表示する/非表示にする

以下の撮影補助機能を一時的に表示または非表示にすることができます。

- フォーカスピーキング
- クリッピング

- 希望する補助機能をファンクションボタンに割り当てる (p.54)。
- 機能を割り当てたファンクションボタンを押す。
 - 補助機能がオンまたはオフに切り替わります。
 - モニターですぐに確認できます。



カメラの電源をオフにすると、この設定は無効化され、選択したプロファイル内容にモニター表示が替わります。

AFアシスト機能

AF補助光

内蔵のAF補助光を使うと、暗い場所での撮影時にオートフォーカスでピントを合わせやすくなります。AF補助光設定時は、測距が行われている間、AF補助光が発光します。

初期設定: **オン**

- メインメニューで**フォーカス**を選択する。
- **MFアシスト**を選択する。
- **AF補助光**を選択する。
- **オン**または**オフ**を選択する。

メモ

- 補助光の有効範囲は約5mまでです。
- ピントが合って測距点/AFフレームが緑に変わると、AF補助光は自動的に発光します。

撮影モード

本項目に記載されている設定/内容は、静止画撮影モードのみで有効です。これらの設定を変更する場合は、常に静止画メニューから操作してください。「基本的な操作・設定」内の「メニュー操作」に関する項目も合わせてご参照ください。静止画メニュー内の各種設定を変更しても、動画メニュー内の設定/内容は変わりません。

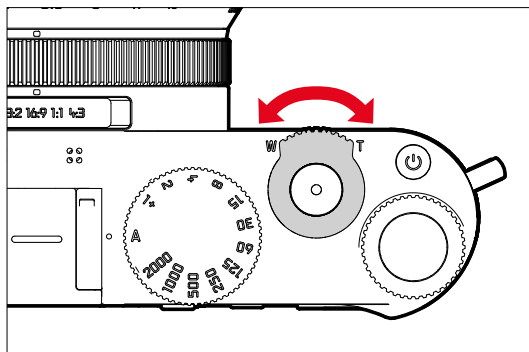
ドライブモード

本項目に記載されている機能や設定は、基本的に1コマ撮影の際に有効です。本機では、1コマ撮影以外にも様々なモードでの撮影が可能です。各種操作/設定に関して詳しくは、各種機能の項目をご参照ください。

- メインメニューで**ドライブモード**を選択する。
- 希望する機能を選択する。

モード	設定できる内容
1コマ撮影	1コマ
連続撮影 (p.109)	撮影速度： - コンティニューアス - 2 fps, 12 bit, AF - コンティニューアス - 7 fps, 10 bit - コンティニューアス - 11 fps, 10 bit
インターバル撮影 (p.110)	コマ数 撮影間隔 (インターバル) タイマー時間 (カウントダウン)
オートブラケット撮影 (p.111)	コマ数 (3枚、5枚または7枚) EVステップ オート
セルフタイマー撮影 (p.113)	タイマー時間： - セルフタイマー 2秒 - セルフタイマー 12秒

ズーム



常時表示されるDC パリオ・ズミルックス 10.9-34 f/1.7-2.8 ASPH.の撮影範囲に加え、10.9mm～34mm (35mm判換算：24～75mm)の焦点距離に相当する範囲が使用可能です。モニターにズームされる箇所を示す枠が表示されます。倍率は対応する焦点距離で表示されます。



ピント合わせ

オートフォーカスとマニュアルフォーカスから選択します。オートフォーカスでの撮影時に、3つのモードと4つの測距方式から選択することができます。

AFで撮影する

- フォーカスモード設定リングを**AF**ポジションに設定する。
- 必要に応じて、AFフレームの位置を移動させる。
- シャッターボタンを半押しし続ける。
 - AFsまたはAFcモードでピント合わせが実行されます。
 - ピントが合った場合：AFフレームが緑色に変わる
 - ピントが合わない場合：AFフレームが赤色で表示される
 - ファンクションボタンを使用して、フォーカスや露出を設定し、設定値を固定することができます (AE/AFロック、p. 106)。
- シャッターを切る。

MFで撮影する

- フォーカスモード設定リングを**MF**ポジションに設定する。
- フォーカスリングを回してピントを合わせる。
- シャッターを切る。

ピント合わせについて詳しくは、オートフォーカス/マニュアルフォーカスの各項目をご覧ください。

オートフォーカス

以下のモードが使用可能です：AFs、AFc、インテリジェントAF設定されているモードがヘッダーに表示されます。

初期設定：インテリジェントAF

- メインメニューで**フォーカス**を選択する。
- **フォーカスモード**を選択する。
- 希望する設定を選択する。
(インテリジェントAF、AFs、AFc)

インテリジェントAF

すべての被写体の撮影時に使用できます。カメラが自動的にAFsとAFcを切り替えます。

AFs (シングル)

動きの少ない、またはまったく動かない被写体の撮影時に使用します。フォーカシングは一度だけ実行され、ピントが固定されます。その後シャッターボタンを半押しし続けている間、ピントが合い続けます。ピントが固定されているので、被写体が測距点/AFフレームから外れても、撮影したい被写体にピントを合わせられます。

AFc (コンティニュアス)

動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押し中はAFフレーム内の被写体にピントが合わせ続けられます。

AF測距方式

オートフォーカス設定時は、異なる測距方式が使用できます。ピントが合った場合AFフレームが緑色に変わり、ピントが合わなかった場合はAFフレームは赤色で表示されます。

初期設定：**多点**



→ メインメニューで**フォーカス**を選択する。

→ **AFモード**を選択する。

→ 希望する設定を選択する。

(**多点**、**スポット**、**フレーム**、**ゾーン**、**トラッキング**、**瞳 / 顔**)

メモ

- ・ オートフォーカスでの撮影時に、ピントが合わないことがあります。
 - 撮影したい被写体までの距離が近すぎるまたは遠すぎるとき
 - 被写体が暗い場所にあるとき
- ・ モニターをタップして測距点/AFフレームの位置を移動させることができます。詳しくは、p.76をご参照ください。

多点測距

撮影範囲内の多くのポイントにピントを合わせることができます。スナップショットの撮影時に便利です。

スポット測距/フレーム測距

測距点/AFフレームが設定されている範囲内のみで測距が行われ、ピントが合います。スポット測距時は1つの十字、フレーム測距時は小さなAFフレームが表示されます。スポット測距は、きわめて小さい部分にピントを合わせたい場合に使用します。

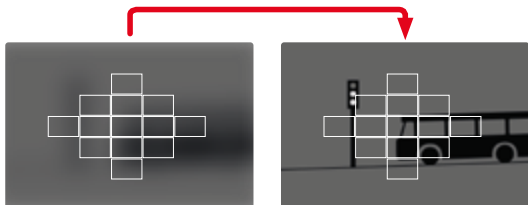
フレーム測距は、一部の狭い範囲内にピントを合わせたい場合に使用します。

これらの測距方式は、ピントを合わせたい被写体が画面中央にない場合に連続して撮影を行う際、被写体にピントを合わせたまま撮影ができるのでとても便利です。

測距点/AFフレームの位置を移動させることができます (p.90)。

ゾーン測距

この測距方式では、5x5の連続したフレームによって被写体が認識されます。スナップショットなど、比較的大きな範囲にピントを合わせたい場合に便利です。



ピントが合った位置にゾーンが表示されます。

被写体追尾 (トラッキング)

動いている被写体を撮影する際、フレーム測距を用いて被写体に継続的にピントを合わせることができます。

- AFフレームを追尾したい被写体にセットする。
(カメラを被写体に向け、AFフレームを移動させる)
- シャッターボタンを半押しし続ける。

または

- ファンクションボタンを押す。
(AF-LまたはAF-L+AE-Lが割り当てられている場合のみ、p.106)
 - ・ 被写体にピントが合います。
- 撮影したい構図になるよう、カメラを動かす。
 - ・ AFフレームがロックした被写体を継続的に追尾し、ピントを合わせ続けます。

メモ

- ・ この機能では、AF-Sに設定されていても被写体にピントを合わせ続けることができます。

人物認識 (瞳/顔認識)

本機では、人物の顔を認識してピントを合わせることができます。検出された顔の最も近い位置にピントが合います。認識できない場合は、フレーム測距AFに切り替わります。

顔認識時に目が検出された場合、その瞳に焦点が合います。複数の目が検出された場合は、どの目に焦点を合わせるかを選択することができます。現在選択されている瞳がハイライト表示されます。

また、複数の顔が写っている場合も希望する顔を簡単に選択することができます。



顔または瞳を選択するには

→ セレクターボタンで希望する方向に移動させる。

AFクイック設定

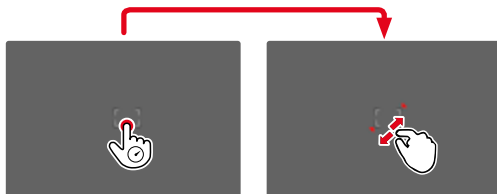
いくつかのAF測距方式ではフレームサイズをすばやく変更することができます。

ライブビュー画像は、各種設定中も表示されます。

AFクイック設定を呼び出す

→ モニターをタップする。

- すべての撮影補助表示が非表示になります。
- 測距方式が**フレーム**、**ゾーン**、**人認識**または**人・動物認識**に設定されている場合、測距フレームの2つの角に赤い三角形が表示されます。



AFフレームの大きさを変更する

(**フレーム**、**ゾーン**、**人認識**、**人・動物認識**のみ)

→ サムホイールを回す。

または

→ ピンチイン/ピンチアウトする。

- AFフレームの大きさは、3段階で調整できます。

AFアシスト機能

AF補助光

内蔵のAF補助光を使うと、暗い場所での撮影時にオートフォーカスでピントを合わせやすくなります。AF補助光設定時は、測距が行われている間、AF補助光が発光します。

設定方法に関して詳しくは、p.82をご参照ください。

AF確定音

ピントが合った時に、電子音でお知らせすることができます (p.63)。

AFフレームを移動する

すべてのAF測距方式にて、AFフレーム（測距枠）を希望の位置に移動させピントを合わせることができます。

→ セレクターボタンで希望する方向に移動させる。

または

→ 移動させたい位置をモニター上でタップする。
(タッチAFに設定時)

メモ

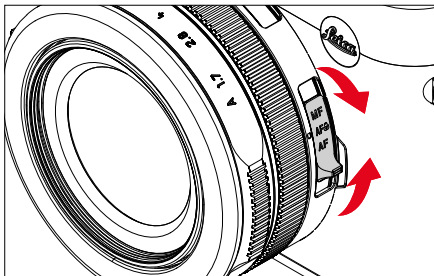
- AFモードを切り替えた場合やカメラをオフにした場合でも、フレームの位置は最後に使用した位置に残ります。
- スポット測光とスポット測距、フレーム測距またはゾーン測距が設定されている際は、測光/測距エリアが連結します。これにより、もともと設定されていたAFフレームの位置で測光が行われます。

マニュアルフォーカス (MF)

被写体や撮影状況によっては、オートフォーカスよりもマニュアルフォーカスでピントを合わせるほうが便利なことがあります。

- 複数回の撮影を同じ設定で行いたい場合
- 測距値の保存が煩雑な場合
- 常に同じ設定で風景を撮影したい場合
- 暗すぎてAFモードがまったく作動しない、または遅く作動するなど撮影環境が悪い場合

→ フォーカスモード設定リングをMFポジションに設定する。



→ 撮影したい被写体にピントが合うまでフォーカスリングを回す。

MFアシスト機能

マニュアルフォーカス撮影時には、次の補助機能が使用できます。

フォーカスピーキング

この機能をオンにすると、ピントが合っている被写体の輪郭をマークすることができます。表示色を変更できます。また、感度の調整もできます。設定方法に関して詳しくは、p.79をご参照ください。



→ メインメニューでフォーカスを選択する。

→ MFアシストを選択する。

→ フォーカスピーキングを選択する。

→ 希望する設定を選択する。

(オス、レッド、グリーン、ブルー、ホワイト)

→ 構図を決める。

→ ピントを合わせたい被写体の縁に色がつくまで、フォーカスリングを回す。

メモ

- ・ フォーカスピークは被写体のコントラスト (明暗差) に基づいて行われます。被写体のコントラストが高い場合、輪郭が正しくマークされないことがあります。

MFモード時の拡大表示

被写体の細部を確認できるので、より正確にピントを合わせることができます。

マニュアルフォーカス時、この機能を自動的にオンにするか、個別に呼び出すかを設定することができます。

フォーカスリングを回して呼び出す

フォーカスリングを回すと自動的に画像の一部を拡大することができます。

→ メインメニューで**フォーカス**を選択する。

→ **MFアシスト**を選択する。

→ **自動拡大**を選択する。

→ **オン**を選択する。

→ フォーカスリングを回す。

- ・ 拡大された画像が表示されます。拡大位置は、AFフレームの位置によって変わります。
- ・ 画面の右側に表示される四角い枠内で現在の表示位置を確認できます。

拡大倍率を変更するには

→ サムホイールを回す。

- ・ 2つの倍率に切り替えることができます。

拡大位置を移動するには

→ セレクターボタンで希望する方向に移動させる。

→ タッチ操作で移動する。

拡大表示を終了するには

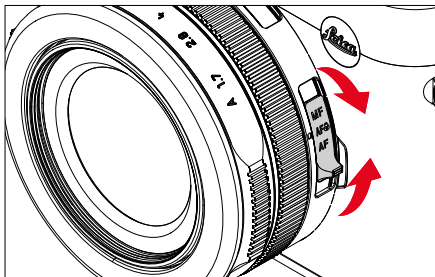
→ シャッターボタンを半押しする。

メモ

- ・ フォーカスリングを回した後、約5秒間カメラを操作しないと、通常の倍率に戻ります。
- ・ 他の画像を拡大しても倍率を変えるまで、前回と同じ倍率で拡大表示されます。

マクロ機能

マクロリングを使用すると、通常のフォーカス範囲 (30cm〜∞) からマクロ撮影範囲 (17cm〜30cm) へと、すばやく切り換えることができます。マクロ撮影の際、AF、MFのどちらでもピントを合わせることができます。



→ フォーカスモード設定リングをAFポジションに設定する。

ISO感度

ISO感度はISO100〜25 000の範囲で設定可能で、必要に応じて手動でシャッタースピードや絞り値を各状況にあった値に設定することができます。

マニュアル設定を使用すると、オートISO設定により使用可能なシャッタースピードと絞り値の組み合わせが増え、希望の組み合わせが見つかりやすくなります。オート設定中は、被写体の内容などによって、組み合わせの優先順位を設定することもできます。

初期設定：オートISO

固定ISO感度

ISO100〜ISO25 000の範囲で選択することができます。マニュアル設定では1EVステップです。

- メインメニューでISOを選択する。
- 希望する値を選択する。

メモ

- ISO感度を高く設定した場合や、撮影後に画像を加工する場合は、被写体の明るく均一な箇所に縞模様やノイズが生じやすくなります。

オート

周囲の明るさや、シャッタースピードと絞り値の組み合わせに応じて自動でISO感度を設定できる機能です。この機能を絞り優先AEモードと併用することで自動露出制御範囲を広げることができます。オートISO設定は1/3 EVステップで調整することができます。

→ メインメニューでISOを選択する。

→ オートISOを選択する。

ISO感度の設定範囲を制限する

最大ISO値を設定し、ISO感度の自動調整範囲を制限することができます。また、同時に最長シャッタースピードを設定することもできます。最大シャッタースピードの設定範囲は、1/2～1/2000秒です。フラッシュ撮影時は個別に設定することができます。

最大ISO感度を制限する

ISO 200以上の値に設定できます。

初期設定：6400

→ メインメニューでオートISO設定を選択する。

→ 最大ISO値を選択する。

→ 希望する値を選択する。

最長シャッタースピードを制限する

初期設定：オート

→ メインメニューでオートISO設定を選択する。

→ シャッタースピード制限を選択する。

→ 希望する値を選択する。

(オート、1/2000、1/1000、1/500、1/250、1/125、1/60、1/30、1/15、1/8、1/4、1/2)

ホワイトバランス

ホワイトバランスは、光源に応じて自然な色合いで撮影できるようにするためのものです。被写体の中の特定の色を白く写し出すように設定し、この白に基づいて色合いを調整します。

以下の設定から選択できます：

- オート
- プリセット
- マニュアル設定
- 色温度を設定する

初期設定：**オート**



オート/プリセット

- **オート**：自動設定
- 異なるプリセット：よくある光源別に最適なプリセットを選べます。

	晴天	晴天の屋外で撮影するとき
	くもり	曇りの日に屋外で撮影するとき
	日かげ（晴天時）	屋外の日かげで撮影するとき
	白熱灯	白熱灯下で撮影するとき
	フラッシュ	フラッシュを使用して撮影するとき

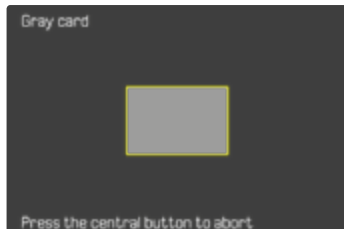
- メインメニューで**ホワイトバランス**を選択する。
- 希望する設定を選択する。

マニュアル設定

グレーカード

この機能では、測定エリア内のあらゆる色温度を測定し、平均的なグレーの値を算出します。

- メインメニューで**ホワイトバランス**を選択する。
-  **グレーカード**を選択する。
 - ・ モニターには以下の表示が現れます。
 - － オートホワイトバランスの基本となる色の画像
 - － 枠 (画像中心部)



- 測定したい範囲を白またはグレーのエリアに合わせる。
 - ・ 枠内の測定値の変化に合わせて、つねにモニター画像が変化していきます。

測定するには

- シャッターを切る。
 - ・ 測定が実行されます。

測定を中止するには

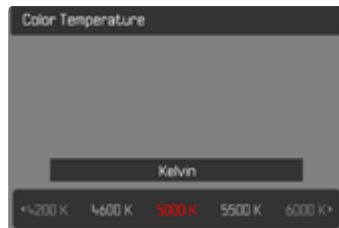
- センターボタンを押す。

メモ

- ・ いったんホワイトバランスを保存すると、グレーカードに設定されている間は、その設定値で撮影が行われます。変更したい場合は、上記の手順で設定し直してください。

色温度を設定する

2500～11000 K (K=ケルビン) の値を直接設定することができます。通常の撮影に必要なほぼすべての色温度がこの設定範囲内にあるので、光源やお好みに合わせて画像の色合いを調整することができます。



- メインメニューで**ホワイトバランス**を選択する。
- **色温度**を選択する。
- 希望する値を選択する。

露出

シャッタータイプ

本機ではメカニカルシャッター以外に、電子シャッターも使用できます。電子シャッターは、メカニカルシャッターでは対応できない高速シャッタースピードを可能にします。また、シャッター音を立てずに撮影することができます。

初期設定：ハイブリッド

→ メインメニューでシャッタータイプを選択する。

→ 希望する設定を選択する。

(メカニカルシャッター、電子シャッター、ハイブリッド)

メカニカルシャッター	メカニカルシャッターのみで撮影 動作範囲：120秒～1/2000秒
電子シャッター	電子シャッターのみで撮影 動作範囲：1秒～1/16000秒
ハイブリッド	メカニカルシャッター使用時に高速シャッタースピードでの撮影を失敗なく行うために、電子シャッターもあわせて使用 動作範囲：120秒～1/2000秒 + 1/2500秒～1/16000秒

使い分け

メカニカルシャッターでは、従来のシャッター音による聴覚的なフィードバックが可能です。長時間露光はもちろん、動きのある被写体の撮影にも適しています。

電子シャッターでは、明るい場所でも非常に速いシャッタースピードで開放絞りでの撮影が可能です。ローリングシャッター現象が起こるため、動きのある被写体には不向きです。

メモ

- 電子シャッターに設定中はフラッシュ撮影はできません。
- LED照明や蛍光灯を使用する場合、電子シャッターと高速シャッタースピードとの組み合わせではフリッカー（縞模様）が発生することがあります。

測光方式

本機では以下の測光方式が選択できます。

初期設定: 多点

-  スポット測光
-  中央重点測光
-  多点測光

- メインメニューで測光モードを選択する。
- 希望する測光モードを選択する。
(スポット、中央重点、多点)
- ・ 設定された測光方式は、モニターのヘッダーに表示されます。

スポット測光に設定時に測光枠を移動させる場合:

- セレクターボタンで希望する方向に移動させる。

メモ

- ・ 露出情報 (ISO 値、絞り値、シャッタースピード、露出補正目盛付き露出インジケータ) は、適正露出に必要な設定に役立ちます。

スポット

被写体の一部分のみをピンポイントに測光して露出を決定します。スポット測光とスポット測距またはフレーム測距が設定されている際は、測光/測距エリアが連結します。これにより、もともと設定されていた AF フレームの位置で測光が行われます。

中央重点

画面全体を平均的に測光します。被写体以外の部分の明るさを考慮しながらも、主要被写体をメインとした露出で撮影する場合に適しています。

多点

画面の複数の部分を測光します。各エリアの輝度差を計算し、最適と思われる値で撮影します。

露出モード

被写体や撮影スタイルに合わせて、4つの露出モードから最適なモードを選ぶことができます。

- プログラムAE (P)
- 絞り優先AE (A)
- シャッター優先AE (S)
- マニュアル露出 (M)

これらのモードに設定した場合はシャッタースピードダイヤルと絞りリングにて露出内容进行操作します。**P**、**A**、**S**、**M**を使用するには、メニュー項目「撮影モード (シーン)」 (p.113) にて「P-A-S-M」に設定されている必要があります。他の10のプリセット (オート撮影機能) に設定されている場合は、オート設定内容が優先され、シャッタースピードダイヤルや絞りリングにて値を変更しても撮影には考慮されません。

露出モードを選択する

P-A-S-Mに設定中は、各モードでの設定内容は以下の通りです。

	シャッタースピードダイヤルで 設定する	絞りリングで設定する
P	A	A
A	A	マニュアル (A モード以外)
S	マニュアル (A モード以外)	A
M	マニュアル (A モード以外)	マニュアル (A モード以外)

- メインメニューで「撮影モード (シーン)」を選択する。
- 「P-A-S-M」を選択する。
- シャッタースピードダイヤルを希望する値に設定する。
- 絞りリングを希望する値に設定する。

オート露出設定 (P)

プログラムAE (P)

カメラがシャッタースピード、絞り値を自動的に設定します。すべての設定をカメラが決定するので、すばやく撮影できます。

- メインメニューで**撮影モード (シーン)**を選択する。
- **P-A-S-M**を選択する。
- シャッタースピードダイヤルを**A**に合わせる。
- 絞りリングを**A**に合わせる。
- シャッターボタンを半押しし続ける。
 - フッターに露出に関する各種情報が表示されます。モニター内のフッターに露出に関する各種情報 (オートで決定されたシャッタースピードと絞り値の組み合わせなど) が表示されます。
 - 各種表示を非表示にすることもできます。

→ シャッターを切る。

または

- シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更する。
(プログラムシフト)

プログラムシフト

カメラが設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせを、同じ露出のまま変更する機能です。すばやく適正露出を得てから、撮影意図に合わせて撮影できます。値を変更しても露出 (明るさ) は変わりません。

- サムホイールを左または右に回す。
(右=シャッタースピードが遅い場合に被写界深度を深くする、左=被写界深度が浅い場合にシャッタースピードを速くする)
 - プログラムシフトすると、の表示にアスタリスクがつきます。

メモ

- ただし、シフトできる範囲には制限があります。

オート露出設定 (A/S)

絞り優先AE (A)

マニュアルで設定した絞り値に応じて、適正露出になるようにカメラがシャッタースピードをオートで設定します。被写界深度（背景のぼけ具合など）を調整したいときに適しています。

例えば、ポートレート撮影などで絞り値を小さく（絞りを開く）して被写界深度を浅くしたり、また風景撮影などでは絞り値を大きく（絞りを絞る）して、被写界深度を深くすることができます。

- メインメニューで**撮影モード（シーン）**を選択する。
- **P-A-S-M**を選択する。
- シャッタースピードダイヤルを**A**に合わせる。
- 希望する絞り値を設定する。
- シャッターボタンを半押しし続ける。
 - ・ フッターに露出に関する各種情報が表示されます。モニター内のフッターに露出に関する各種情報（オートで決定されたシャッタースピードと絞り値の組み合わせなど）が表示されます。
 - ・ 各種表示を非表示にすることもできます。
- シャッターを切る。

シャッター優先AE (S)

マニュアルで設定したシャッタースピードに応じて、適正露出になるようにカメラが絞り値をオートで設定します。シャッタースピードによって被写体のブレが変化するため、動きのある被写体を撮影する場合に適しています。

シャッタースピードを速くするほど動きのある被写体のブレを軽減して撮影できます。シャッタースピードを遅くするとブレが目立ちますが、スピード感を表現することができます。

- メインメニューで**撮影モード（シーン）**を選択する。
- **P-A-S-M**を選択する。
- 絞りリングを**A**に合わせる。
- 希望するシャッタースピードを選択する。
 - － シャッタースピードダイヤルで設定する：固定シャッタースピード
 - － サムホイールで設定する：微調整（±1/3EVステップ）
- シャッターボタンを半押しし続ける。
 - ・ フッターに露出に関する各種情報が表示されます。モニター内のフッターに露出に関する各種情報（オートで決定されたシャッタースピードと絞り値の組み合わせなど）が表示されます。
 - ・ 各種表示を非表示にすることもできます。
- シャッターを切る。

メモ

- ・ ホーム画面より微調整を行うこともできます。サムホイールに割り当てられている機能（p.55）によっては、微調整はホーム画面でのみ可能です。

マニュアル露出設定 (M)

シャッタースピードと絞り値をマニュアル設定することができます。

- 露出を調整して特別な撮影効果を得たい場合
- 露出を統一して撮影したい場合

→ メインメニューで**撮影モード (シーン)**を選択する。

→ **P-A-S-M**を選択する。

→ (シャッタースピードダイヤルまたは絞りリングを使用し) 希望する露出にマニュアルで設定する。

- ・ 露出補正には露出インジケーターを使用します。

→ シャッターボタンを半押しし続ける。

- ・ フッターに露出に関する各種情報が表示されます。
- ・ 各種表示を非表示にすることもできます。

→ シャッターを切る。

露出レベル表示

	適正露出
	露出オーバーまたは露出アンダー (±3 EV内)
	露出オーバー/露出アンダー (±3 EVの範囲外)

メモ

- ・ **露出プレビュー**で**P-A-S-M**が選択されている場合は、測光後にプレビューがモニターに表示されます (p.106)。
- ・ シャッタースピードダイヤルはAではなく、いずれかの固定値に設定されている必要があります。

シャッタースピードを設定する

シャッタースピードを設定するには以下の二通りがあります。

1. シャッタースピードダイヤルで設定する：固定シャッタースピード
2. サムホイールで設定する：微調整 (±1/3 EVステップ)

シャッタースピードダイヤル	サムホイール
2～1000	シャッタースピードの微調整 (±1/3 EVステップ、最大2/3 EV)
1+	シャッタースピード1秒以上 (0.6秒～60秒、1/3 EVステップ)
2000	シャッタースピード1/1000秒以下 (1/1250秒～1/16000秒は1/3 EVステップ)

シャッタースピードの微調整

- シャッタースピードを1/125秒に設定 + サムホイールを左に1クリック回す=1/100秒
- シャッタースピードを1/500秒に設定 + サムホイールを右に2クリック回す=1/800秒

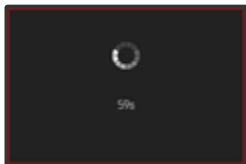
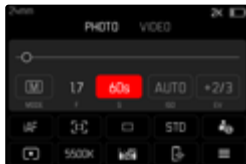
メモ

- ホーム画面より微調整を行うこともできます。サムホイールに割り当てられている機能 (p.55) によっては、微調整はホーム画面でのみ可能です。

長時間露光

固定シャッタースピード

シャッタースピード優先 (**S**) またはマニュアル (**M**) 設定時は、最長1分までの長時間露光が可能です (ISO設定により異なる)。シャッタースピードが1秒以上に設定された場合は、シャッターを切った後に残り時間が1秒単位でカウントダウン表示されます。



- シャッタースピードダイヤルを**1+**に設定する。
- 希望するシャッタースピードを選択する。
(詳しくは「シャッタースピードの微調整」p.103をご覧ください。)
- シャッターを切る。

タイム撮影

長時間露光を設定すると、シャッターボタンを押すとシャッターが開き、再度シャッターボタンを押すと閉まります。ISO感度設定により異なりますが、最長露光時間は1分です。



- シャッタースピードダイヤルを**1+**に設定する。
- 絞りリングをリング上に刻まれた値に合わせる。
- シャッタースピードを**1**に設定する。
(詳しくは「シャッタースピードの微調整」p.103をご覧ください。)
- シャッターを切る。

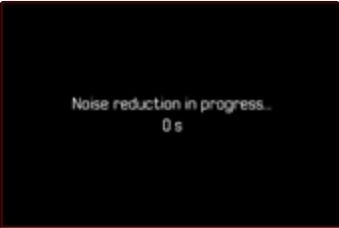
メモ

- ・ 設定可能な最長シャッタースピードはメニュー項目**シャッタータイプ** (p.97) の設定内容により異なります。タイム撮影は**シャッタータイプ**項目が**メカニカルシャッター**または**ハイブリッド**に設定されている場合にのみ可能です。
- ・ シャッタースピードが1秒以上に設定された場合は、シャッターを切った後に残り時間が1秒単位でカウントダウン表示されます。

ノイズリダクション

ISO感度を高めに設定した場合は、暗く均一な被写体でノイズが目立つことがあります。露光時間が長くなると、ノイズが発生することがあります。高感度かつ遅いシャッタースピードで撮影する場合、ノイズを軽減するため、撮影直後に「ブラックピクチャー」(シャッターを閉じて撮影するノイズ画像)を自動的に撮影します。このブラックピクチャーを元の画像に重ね、デジタル処理によって減算を行い、元の画像に生じたノイズを軽減します。その際、メッセージ(例: **ノイズ低減中...**)がモニターに表示されます。

このように露光を2度行うため、遅いシャッタースピードを設定しているときほど、撮影に時間がかかります。ノイズ軽減中はカメラの電源を切らないでください。長時間露光設定で何枚も連続して撮影するためには、ノイズリダクション機能をオフにし、撮影後の画像処理の際に実行することをおすすめします。画像処理を撮影後に行う場合にはRAWデータフォーマット(DNG)で撮影されている必要があります。



本機能をオンにした場合には、タイム撮影時、8秒以上の長時間露光時など一定の条件下では常にノイズリダクションが行われます。

それ以外の場合、ISO設定、シャッタースピード、センサー温度の組み合わせなどによりノイズリダクションは行われます。以下の表ではノイズリダクションが行われるシャッタースピード値(センサー温度が25度時)を示しています。

ISO	シャッタースピードが以下の値より遅い場合
100	7秒
200	6.4秒
400	5.9秒
800	5.4秒
1600	4.9秒
3200	4.5秒
6400	4.2秒
≥ 12500	3.8秒

ノイズリダクション機能は無効にすることもできます (p.69)。

露出設定

露出プレビュー

シャッターボタンを半押ししている間は、設定された露出でのプレビュー画像がモニターに表示され続けます。写真をより希望どおりに仕上げたい場合や撮影に失敗したくない場合に、撮影前に露出状況を確認することができます。被写体の明るさが極端に明るい/暗い場合、露出の設定値が極端に高い/低い場合には表示されません。

マニュアルモード (M) 時にはシミュレーションをオフにできます。

初期設定: P-A-S-M

→ メインメニューで「露出プレビュー」を選択する。

→ P-A-S (3種類のオート露出モードのみを使用する場合)、または P-A-S-M (マニュアル露出モードを含む4種類の露出モードを使用する場合) のどちらかを選択する。

メモ

- 被写体の明るさによっては、モニターに表示される画像の明るさと、撮影した画像の明るさが異なることがあります。特に、暗い場所で遅いシャッター速度を使用する場合には、撮影画像よりも画面の表示が暗く見えることがあります。
- ファンクションボタンに「AE-L」が割り当てられているなど、カスタマイズが設定されていても、露出プレビューを表示することができます。

AEロック/AFロック

メインの被写体を画面の中央以外に写したいとき、メインの被写体の明るさと全体の平均的な明るさの差がきわめて大きい場合は、中央重点測光やスポット測光で、平均的なグレースケールに合わせて画面の中央部のみを測光します。

そのような場合、まず被写体にピントや露出を合わせて固定(ロック)し、そのあとに構図を変えて撮影することができます。AFモード時もピント情報をロック (AF-L) することができます。

通常はシャッターボタンでピントと露出をロックすることができます。シャッターボタンまたはファンクションボタンのみでロックする、またはシャッターボタン/ファンクションボタン両方を用いてロックすることもできます。

この機能には各種設定とロック機能が含まれます。

AE-L (AUTO EXPOSURE LOCK)

カメラに露出情報を保存し、ピント合わせに関係なくほかの被写体も同じ露出で撮影できます。

AF-L (AUTO FOCUS LOCK)

カメラにピントを保存し、露出を変更しても同じピントで撮影できます。

AE-L/AF-L

この機能をオンにすると、割り当てられているボタンを押すことで、ピントと露出がロックされます。

メモ

- ・ 多分割測光時は、特定の部分に露出を合わせることができないため、十分な効果が得られません。
- ・ 絞リリングまたはシャッタースピードダイヤルを回すとロックが解除されます。

AFモードでのAE/AFロック

ファンクションボタンにAEロック/AFロックを割り当てた場合の測距/測光機能：

ファンクションボタンのカスタマイズ	ファンクションボタン	シャッターボタン
AF-L + AE-L	露出、シャープネス	機能なし
AF-L	シャープネス	露出
AE-L	露出	シャープネス

AEロックまたはAFロック機能をファンクションボタンに割り当てない場合には、シャッターボタン（半押し）で両機能が使用できます。

シャッターボタンを使用する

- 露出を合わせたい被写体の部分にカメラを向ける。
- シャッターボタンを半押しし続ける。
 - ・ 測光後ロックします。
- シャッターボタンを半押ししたまま構図を決める。
- シャッターを切る。

ファンクションボタンを使用する場合

- 希望するロック機能（AF-L + AE-L、AE-L、AF-L）をいずれかのファンクションボタンに割り当てる。
- 被写体にカメラを構える。
- ファンクションボタンを押す。
 - ・ 測光後ロックします。
 - ・ 露出値はモニター左下に「AE」、鍵マークとともに表示されます。
 - ・ フォーカスロックの場合はAFフレームが緑色になります。
- 必要に応じて、測距/測光を続ける。
- 構図を決める。
- シャッターを切る。

MFモードでのAEロック

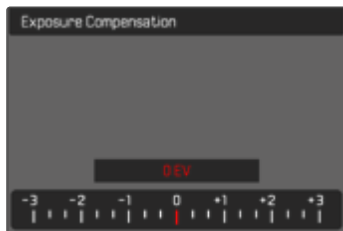
MFモードでは、シャッターボタンで露出のみをロックすることができます。AF-L + AE-LまたはAE-Lをファンクションボタンに割り当てている場合も同様です。

露出補正

露出計は平均的なグレーを基準に露出を決定しています。平均的なグレーとは、平均的な光の反射率をもつ被写体の明るさです。反射率が平均的ではない被写体を撮影するときは、露出が適正になるように補正することができます。

AEロックとは異なり、露出補正はメニューで解除するまで有効なので、適正露出でない露出で何枚も撮影したいときなどは、1枚撮影することによって設定に必要なAEロックを使うよりも、露出補正機能を使用して撮影するほうが便利です。

露出補正値は、±3EVの範囲で1/3EVステップで設定できます（EVは「Exposure Value」の略で、露出量の値です）。



A 設定した補正値 (0=補正機能オフ)

サムホイールで操作する場合

- メインメニューで「サムホイール」を選択する。
- 「露出補正」を選択する。
- サムホイールで希望する値を設定する。

メニュー操作で行う場合

- メインメニューで「露出補正」を選択する。
 - ・ モニター上に、サブメニューの代わりにスケールが表示されます。
- 希望する値をスケール上で選択する。
 - ・ 設定された値がスケール上に表示されます。

メモ

- ・ 撮影中、露出補正値の変化に応じて画面の明るさが変わるため、効果を確認できます。
- ・ 設定した露出補正は、入力した補正値にかかわらず機能します。露出補正を解除するには、補正値を $\frac{0}{0}$ にしてください。カメラの電源を切っても解除されません。
- ・ フッターに表示される露出補正目盛に、設定した露出補正値が表示されます。

撮影モード

連続撮影

初期設定では1コマ撮影 (1コマ) が設定されていますが、連続撮影を行うこともできます。動いている被写体を撮影するのに便利です。



→ メインメニューでドライブモードを選択する。

→ 希望する設定を選択する。

(コンティニュアス - 2 fps, 12 bit, AF、コンティニュアス - 7 fps, 10 bit、
コンティニュアス - 11 fps, 10 bit)

シャッターボタンを全押ししている間は連続撮影が続きます。ただし、メモリーカード容量が不足すると、撮影は終了します。

メモ

- 連続撮影を行う際は、オートレビュー機能をオフにしておくことをおすすめします。
- また、1回の連続撮影で何枚の撮影が行われるかに関係なく、再生モードまたはメモリーカードへの画像ファイル転送中は、メモリーカードに最後に記録された画像が表示されます。
- 連続撮影時はフラッシュユニットは発光しません。フラッシュ使用時は、1コマ撮影のみできます。
- 連続撮影時はセルフタイマーは使用できません。
- バッファメモリには、設定された撮影間隔で撮影された限られた枚数の連続画像のみが保存されます。バッファメモリの容量を超えると、撮影間隔が遅くなります。この現象は、バッファメモリからメモリーカードにデータを転送する時間が必要になるために起こります。撮影可能枚数は右下に表示されます。
- 2fps - 4fpsでの連続撮影の場合:
自動設定 (P/A/Sモードの露出設定、オートホワイトバランス、オートフォーカス) は、撮影回ごとに個別に設定
- 7fps - 15fpsでの連続撮影の場合:
自動設定 (P/A/Sモードの露出設定、オートホワイトバランス、オートフォーカス) は、シリーズ1枚目撮影時に設定され、その設定内容ですべてのシリーズが撮影される

インターバル撮影

このカメラを使用して、インターバル録画として長時間にわたってモーション・シークエンスを自動的に録画できます。撮影枚数、各撮影の開始時刻と開始時刻の間隔を設定します。録画中に露出とフォーカスの設定が変更されることがありますのでご注意ください。インターバルの最短時間は、選択した露光時間によって異なります。

撮影枚数を設定する

- メインメニューで**ドライブモード**を選択する。
- **インターバル撮影**を選択する。
- **コマ数**を選択する。
- 希望する値を設定する。

撮影間隔を設定する

- メインメニューで**ドライブモード**を選択する。
- **インターバル撮影**を選択する。
- **インターバル**を選択する。
- 希望する値を設定する。

カウントダウンを設定する

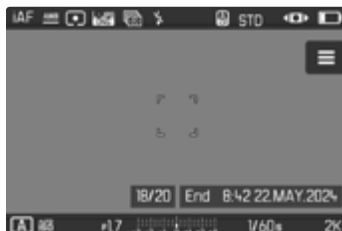
- メインメニューで**ドライブモード**を選択する。
- **インターバル撮影**を選択する。
- **開始時間**を選択する。
- 希望する値を設定する。

注意

記録間隔が少なくとも露光時間と等しいことを確認してください。そうしないと、時間の重複が発生し、個々の記録が省略またはスキップされることがあります。

撮影を開始するには

- シャッターボタンを押す。
 - 撮影と撮影の間は、モニターが自動的にオフになります。シャッターボタンを半押しすると、モニターが再びオンになります。
 - 画像の右下に、次の撮影までの残り時間と撮影番号が表示されます。



作動中の連続撮影を中断するには

- **PLAY**ボタンを押す。
 - メニューが表示されます。
- **終了**を選択する。

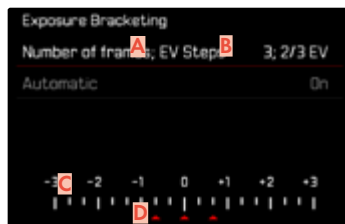


メモ

- ・ インターバル撮影時にオートフォーカスを使用すると、すべての撮影で同じ被写体に焦点が合うとは限りません。
- ・ オートパワーオフを設定した状態で、操作を何もしなかった場合は、1枚撮影する度に電源がオフになり、次の撮影時に自動的にオンになります。
- ・ インターバル撮影中にカメラから離れる場合は盗難にお気をつけください。低温や高温多湿環境での長時間に及ぶインターバル撮影は場合によっては故障の原因になります。
- ・ 以下のような状況ではインターバル撮影が中断またはキャンセルされます。
 - － バッテリー残量がなくなったとき
 - － カメラの電源をオフにしたとき十分に充電したバッテリーに注意することをおすすめします。
- ・ インターバル撮影が中断された場合は、カメラの電源を切り、バッテリーまたはメモリーカードを交換してから再度電源を入れると、撮影を続けることができます。インターバル撮影機能が働いているときに電源を入れ直すと、確認画面が表示されます。
- ・ インターバル撮影終了後、設定を解除する、または他のドライブモードに設定するまで、インターバル撮影の設定はオフになりません。カメラの電源を切っても解除されません。
- ・ この機能は監視カメラを目的としたものではありません。
- ・ また、1回の連続撮影で何枚の撮影が行われるかに関係なく、再生モードまたはメモリーカードへの画像ファイル転送中は、メモリーカードに最後に記録された画像が表示されます。
- ・ 再生時、インターバル撮影の画像には「**I**」が表示されます。
- ・ 撮影状況によっては、ピントが合わない、露出が適正でないなどの理由で撮影がスキップされ、次のインターバルが開始されることがあります。その際、「いくつかのフレームがスキップされました」というメッセージが表示されます。

オートブラケット撮影

多くの被写体には明暗差があるため、露出を合わせる箇所によって、撮影した画像の明るさが大きく異なることがあります。そのような場合は絞り優先AEモードでオートブラケット機能を使うと便利です。また、明暗差の大きい被写体をオートブラケット撮影して画像処理ソフトで合成すると、ダイナミックレンジの広い画像を生成することもできます (HDR)。



A 画像枚数

B 露出ステップ

C 露出スケール

D 撮影中の画像の露出値 (赤)

(露出補正を同時に設定している場合は、対応する値に変わります。)

撮影枚数は3枚、5枚または7枚から選択できます。**EVステップ**で設定できる露出差は、最大で3EVです。

- メインメニューで**ドライブモード**を選択する。
- **オートブラケット**を選択する。
- **コマ数**のサブメニューで希望するコマ数を選択する。
- サブメニューの**EVステップ**で希望するステップを選択する。
- **露出補正**のサブメニューで希望する補正値を選択する。
 - ・ 選んだ露出ステップに応じて、露出値の位置が変わります。露出補正が行われている場合もスケールが移動します。
 - ・ 選択した露出補正値を基準にして連続撮影します。
- **オート**のサブメニューで希望する設定を選択する。
 - ・ 初期設定では**オン**になっており、1度シャッターボタンを押すだけで、一連の撮影が実行されます。**オフ**に設定されている場合は撮影ごとにシャッターボタンを押す必要があります。
- 設定内容に応じて1度もしくは撮影ごとにシャッターボタンを押して撮影する。

メモ

- ・ オートブラケット機能がオンになり、モニターにが表示されます。撮影時は露出の変化に応じて画面の明るさが変わるため、効果が確認できます。
- ・ シャッタースピードや絞りを変更することで、露出モードに応じて段階的に露出を変更することができます。
 - シャッタースピード (**A/M**)
 - 絞り (**S**)
 - シャッタースピード、絞り (**P**)
- ・ 撮影は、露出アンダー、適正露出、露出オーバーの順に行われます。
- ・ 設定できるシャッタースピードと絞り値の組み合わせは、オートブラケットの機能の作動範囲内に限定されます。
- ・ ISO感度をオートに設定しているときはISO値は自動的に設定されますが、オートブラケットの連続撮影中には変えられず、常に一定のISO値で撮影が行われます。その際、**シャッタースピード制限**で設定した最大シャッタースピードよりも遅いシャッタースピードに設定されることがあります。
- ・ 標準露出での撮影時のシャッタースピードにより、露出を変えた撮影のシャッタースピードに制限が生じることがあります。シャッタースピードに制限が生じても、設定したコマ数で撮影できます。ただし、補正効果が得られないことがあります。
- ・ **ドライブモード**サブメニューで他の機能を設定しない限り、この機能は有効になります。他の機能を選ばない限り、シャッターボタンを押すたびにオートブラケット撮影が行われます。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを設定すると、シャッターを押した数秒後に撮影を実行することができます。セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。



- メインメニューで「セルフタイマー」を選択する。
- 「セルフタイマー 2秒」または「セルフタイマー 12秒」を選択する。
- シャッターを切る。
 - ・ カウントダウンがモニターに表示され、カメラの前面にあるセルフタイマーランプが点滅します。12秒のタイマー時間のうち、最初の10秒間はゆっくり、残りの2秒は速く点滅します。
 - ・ セルフタイマーのカウントダウン中は、シャッターボタンを半押しすることでいつでも撮影を中断できます。その際、各種設定は解除されません。

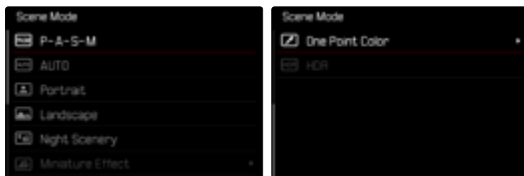
メモ

- ・ 最初に測光が行われ、オートフォーカスモードでは続いて測距が行われます。その後にカウントダウンが開始されます。
- ・ セルフタイマー機能は1コマ撮影とオートブラケット撮影にのみ使用できます。
- ・ 「セルフタイマー」サブメニューで設定内容を変更しない限り、この設定内容は有効です。

その他の撮影機能

シーンプログラム

撮影モード（シーン）では、撮影する被写体やシーンに合わせた10のモードから選択することができます。プログラムAE設定時のように、被写体やシーンに最適なシャッタースピードと絞り値をカメラがオートで設定します。シーンによってはISO設定とピントもオートで設定されます。



- メインメニューで「撮影モード（シーン）」を選択する。
- 希望する設定を選択する。

- オート：
スナップ撮影に適しており、さまざまなシーンに対応します。
- 被写体の種類に合わせて最適な露出を自動で設定できる6種類のモード：
 - 人物、風景、夜景、ジオラマ、ワンポイントカラー、HDR

特殊な効果で撮影について詳しくは、次ページ以降の該当する項目をご覧ください。

メモ

- 他の機能を設定するまで、シーンプログラムの設定は維持されます。カメラの電源を切っても解除されません。
- しかし撮影モード（静止画⇄動画）を切り替えた際にはP-A-S-Mにリセットされます。
- プログラムシフト機能やいくつかのメニュー項目は、シーンプログラムと同時に設定できません。
- シャッタースピードダイヤルや絞りリングを回しても設定を変更できません。
- 露出ブレ (p.106) はすべてのプログラムでご利用いただけます。

フラッシュ撮影

フラッシュ撮影では、実際の撮影の前にプリ発光を行い、撮影に必要な発光量を測定します。プリ発光の直後にメイン発光を行い、撮影が実行されます。使用しているフィルターや絞り値の設定、被写体までの距離、光を反射する天井など、撮影に影響を及ぼすすべての要素が影響します。

対応フラッシュユニット

本取扱説明書に記載されているすべての機能は、SF-Dなどのライカ製またはPanasonic/Olympus社のシステムフラッシュユニットが使用できます。TTL測光は付属されているフラッシュユニットでのみ可能です。1点の中央接点のみを持つその他のフラッシュユニット装着時、本機を通してレリーズはできませんが、制御はできません。その他のフラッシュユニット装着時は、正常に作動するかどうかは保証できません。

メモ

- システム互換ではないフラッシュユニットをカメラに取り付けた場合にホワイトバランスが自動で調整されないときはフラッシュのサブメニューのWBで設定する必要があります。

注意

- 本機に対応していないフラッシュユニットを使用した場合、カメラおよびフラッシュユニットが破損するおそれがありますので、使用前に必ずご確認ください。

メモ

- 撮影前にフラッシュユニットの電源を入れ、撮影準備を完了してください。完了していないと、適正な露出が得られなかったり正しい情報が表示されないおそれがあります。
- スタジオ用ストロボの発光時間は非常に長くなります。そのため、シャッタースピードをフラッシュ同調速度の1/200秒より遅く設定することをおすすめします。ワイヤレスでフラッシュを発光させる場合も、ワイヤレス通信によってタイムラグが起こる可能性があるため、フラッシュ同調速度よりも遅いシャッタースピードに設定することをおすすめします。
- 連続撮影やオートブラケット撮影ではフラッシュは使用できません。
- 長時間露光によるブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。また、ISO感度を高く設定することでもブレを軽減できます。

フラッシュユニットを取り付ける

- カメラとフラッシュユニットの電源が切れていることを確認する。
- アクセサリーシューカバーをスライドさせて取り外し、紛失しないように保管する。
- フラッシュユニットの取り付け脚をホットシューの奥まで確実に差し込み、ロックナットをしっかり締めて、外れないように取り付ける。
 - ・ フラッシュユニットとアクセサリーシューの接点がずれてしまうと正常に機能しないため、ずれないようにしっかり取り付けてください。

フラッシュユニットを取り外す

- カメラとフラッシュユニットの電源が切れていることを確認する。
- (必要に応じて) ロックを解除する。
- フラッシュユニットを取り外す。
- アクセサリーシューカバーを取り付ける。

メモ

- ・ アクセサリー (フラッシュユニットなど) を使用しない場合、アクセサリーシューカバーが常に装着されていることを確認してください。

フラッシュ撮影の測光方式 (TTL測光)

システム対応フラッシュユニット (p.114) 装着時は、カメラのモードにかかわらず本機のオートフラッシュモードが使用できます。

さらに、絞り優先AEやマニュアル機能を搭載したカメラでは、後幕シンクロや最長同調速度より遅いシャッタースピードを使用することもできます。

カメラで設定したISO感度は、フラッシュユニットに送信されます。その際、フラッシュユニット側で、絞りリングを回して設定した絞り値が事前に入力されていると、到達距離は自動的に更新されます。本機のフラッシュ機能に対応しているフラッシュユニット使用時は、フラッシュユニット側でISO感度を変更することはできません。

フラッシュユニットでの設定

モード	
TTL	オート制御（カメラ側で設定）
A	付属のフラッシュユニット
M	あらかじめカメラ側で設定された絞り値と距離の設定に合わせて、フラッシュ使用時の露出を調整する必要があります。

メモ

- フラッシュユニットをTTLにセットすると、カメラが発光量を自動的に制御します。
- A設定時は、明るすぎる被写体は適正露出を得られない場合があります。
- 本書で推奨している以外のフラッシュユニットの使用方法や機能については、各フラッシュユニットの取扱説明書をご覧ください。

フラッシュモード

以下の3つのモードが使用できます。

- オート
- オン
- 長時間露光

⚡ A オート発光*

被写体が暗いときに自動でフラッシュを発光させるモードです（フラッシュのポップアップは手動で行います）。光量が少ない場合に自動発光して露光時間を短くし、ブレを防ぎます。

⚡ 強制発光

逆光時にメインの被写体が画面の一部しか占めていなかったり、陰になっている場合や、直射日光下などでコントラストを抑えたい場合（日中シンクロ）に使用します。強制発光がオンになっているときは、周囲の明るさにかかわらず撮影ごとに発光します。発光量は測定された周囲の明るさにより異なり、暗い場所ではオートモードと同じですが、明るくなるほど少なくなります。明るい場所では、陰になっている前景や逆光の被写体に補助光としてフラッシュ光を当てて、明るさのバランスを整えて撮影できます。

⚡⌚ 遅いシャッタースピード使用時のオート発光（スローシンクロ）

暗い背景を実際よりも明るく描写し、同時に前景もフラッシュ光で明るく撮影したい場合に役立ちます。

画像がブレるのを防ぐため他のフラッシュモードでは1/30秒より遅いシャッタースピードには設定されません。そのため、フラッシュ光が届かない背景は露出アンダーになりがちです。スローシンクロモードでは、シャッタースピードが30秒までの範囲で設定されるため、背景も明るく撮影できます。

- メインメニューで**フラッシュ設定**を選択する。
- **フラッシュモード**を選択する。
- 希望する設定を選択する。
 - 選択したフラッシュモードのアイコンがモニターに表示されます。

* との組み合わせ 絞り優先AE (A)

フラッシュ制御

次項で説明している設定や操作は、本機と接続できるシステム対応フラッシュユニット使用時のみ適用されます。

同調タイミング

フラッシュ撮影の露出は以下の2つの光源により決まります。

- 定常光
- フラッシュ光

フラッシュ光のみ、またはほぼフラッシュ光のみを光源とした被写体は、鮮明に描写されます。しかし、被写体自体が発光している場合や定常光にて十分に明るく照らされている被写体などは、同じ画像内でも鮮明さが異なります。被写体にピントが合っているか、ピントがどの程度ボケているかは以下の要素により決まります。

- シャッタースピード
- 被写体やカメラの動きや速さ

シャッタースピードが遅いほど、または被写体やカメラの動きが速いほど、同じ画像内の他の部分との鮮明さが異なります。

フラッシュ発光は通常、露光直前（**先幕**）に行われます。本機では、フラッシュが発光するタイミングを、露光の終わり（シャッターが閉じる直前、**後幕**）にも設定できます。後幕シンクロの場合は動作の最後にピントが合って撮影されます。

設定方法は以下のとおりです。

初期設定：**後幕**

- メインメニューで**フラッシュ設定**を選択する。
- **フラッシュ発光タイミング**を選択する。
- 希望する設定を選択する。

（**先幕**、**後幕**）

- ・ 設定されているフラッシュ同調タイミングがヘッダーに表示されます。

メモ

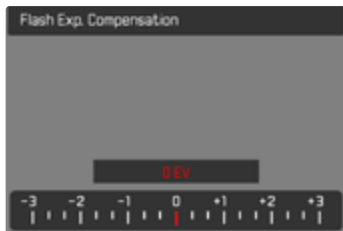
- ・ シャッタースピードが遅くなるほど、被写体の動きなどの効果が確認できます。

フラッシュ発光量調整

定常光による露出補正とは別に、フラッシュの調光補正が行えます。この機能を使うと、夕暮れ時の屋外で、周囲の光が生み出す雰囲気はそのままだに、前景の人物の顔を明るく写すことができます。

初期設定：0 EV

- メインメニューでフラッシュ設定を選択する。
- フラッシュ発光量補正を選択する。
 - サブメニューには設定値を示すマーク（赤）と目盛が表示されます。露出を補正しないときは0を選びます。
- 希望する値をスケール上で選択する。
 - 設定された値がスケール上に表示されます。



メモ

- 設定した露出補正は、入力した補正値にかかわらず機能します。露出補正を解除するには、補正値を0にしてください。カメラの電源を切っても解除されません。
- ライカSF58またはSF60などの独自に補正機能を搭載したフラッシュユニットを装着した場合、メニュー項目「フラッシュ発光量補正」は使用できません。この際カメラ側で設定した補正値は無効となります。
- 発光量をプラス補正した場合、より高いフラッシュ出力が必要になります。そのため、フラッシュ発光量調整はフラッシュ光到達範囲に影響します。プラス補正は範囲を狭め、マイナス補正は広げます。
- カメラ側で設定した露出補正値は、定常光の測光にのみ有効です。TTLフラッシュの発光量補正をする場合、上記露出補正とは別にフラッシュユニット側で設定する必要があります。

フラッシュを使用して撮影する

- フラッシュユニットの電源を入れる。
- ガイドナンバー制御 (TTL、GNC=Guide Number Controlなど) のためのモードをフラッシュユニットで設定する。
- カメラの電源を入れる。
- 希望の露出モードまたはシャッター速度や絞り値を設定して露出を設定する。
 - 最短同調速度の設定によって、通常のフラッシュまたはHSSフラッシュのどちらが発光するか決まるため、設定にお気をつけください。
- フラッシュ撮影ごとにシャッターボタンを半押しして測光を行う。
 - シャッターボタンを早く全押しした場合には、フラッシュが発光されないことがあります。

メモ

- フラッシュ撮影時は、**スポット**以外の測光方式を選択することをおすすめします。

再生モード（静止画）

画像の再生には2つの方法があります。

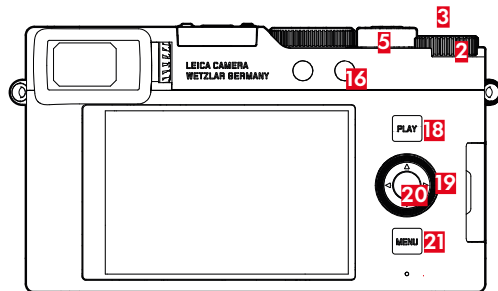
- 撮影直後の画像を自動表示する（オートレビュー）
- 再生時間の制限がない通常の再生モード（保存した画像の管理ができます。）

メモ

- 動画の再生時に常にモニター全画面を使用して表示するため、画像は自動回転しません。
- 他のカメラで撮影された画像は、本機で正しく再生されない場合があります。
- カメラが記録された画像を正しく認識できないときには、画像が荒く表示される場合や、真っ黒な画面のままファイル名だけが表示されることがあります。
- シャッターボタンの半押しでも、再生モードから撮影モードへ切り替えることができます。

再生モード時に使用する各種ボタン/ダイヤル

各種ボタン/ダイヤル



- | | | | |
|----|------------|----|---------|
| 2 | サムホイール | 20 | センターボタン |
| 3 | サムホイールボタン | 19 | セクターボタン |
| 16 | ファンクションボタン | 21 | MENUボタン |
| 18 | PLAYボタン | 5 | ズームレバー |

再生モード時のショートカット機能

ファンクションボタンは再生モードでも個別に機能を割り当てることができます。

初期設定では、ファンクションボタンに以下の機能が設定されています。

ボタン	機能
ズームレバー	拡大 / 縮小
ファンクションボタン 16	1コマ消去
サムホイールボタン 3	画像にマークをつける (マーク)
センターボタン	情報画面切換

以下の説明はカメラ初期設定に基づいています。

メモ

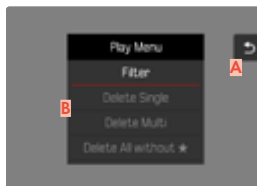
- 表示モードに関わらず (拡大/縮小表示等)、割り当てられた消去メニューを呼び出すことができます。
- ファンクションボタンがモニター上のボタンを操作中 (消去スクリーン等) は、ショートカット機能は使用できません。

モニター上アイコンの操作

モニター上のボタンなどは、タッチ操作にて簡単に操作することができます。モニター右横の3つのボタン (PLAYボタン、センターボタン、MENUボタン) を押すことでも、同様の操作が可能です。操作アイコンがヘッダーに表示される場合、アイコンの横に対応するボタンが表示されます。アイコンがモニター端に表示される場合、対応するボタンの真横に表示されます。

例えば、「戻る」アイコン (↶) は2通りの方法で選択できます。

- 「戻る」アイコンを直接タップする。
- 対応するボタンを押す。
(一番上のボタン=PLAYボタン)



A 「戻る」アイコン

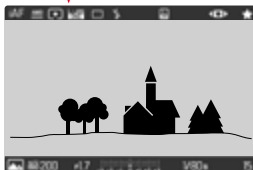
B 「削除」アイコン

画像を再生する/再生を終了する

撮影モード



再生モード



→ **PLAY**ボタンを押す。

- 最後に撮影した画像が表示されます。
- 挿入したメモリーカードに画像が記録されていない場合、「再生可能な画像がありません」のメッセージが表示されます。
- 現在の表示画面によって、いくつかの機能を**PLAY**ボタンで操作することができます。

押す前の表示	PLAYボタンを押した後の表示
画像の全面表示	撮影モード
拡大表示/一覧表示による再生	画像の全面表示

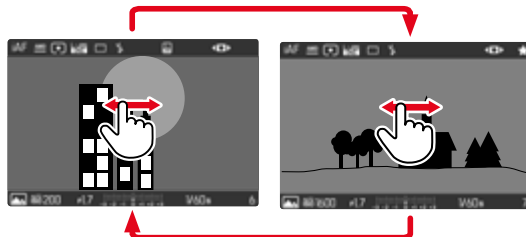
画像を選択する/スクロールする

画像はすべて横向きに、撮影順（時間別）に並べられ、表示されます。画像を再生する際、次の画像/前の画像どちらの方向にも移動でき、最後の画像の後は1枚目の画像へ移動します。また、1枚目の画像から最後の画像へ移動することもできます。

1枚ずつ

タッチ操作で行う場合

→ 左または右にスワイプする。

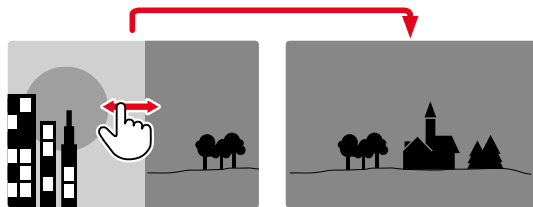


ボタン操作で行う場合

→ セレクターボタンの左または右を押す、もしくはサムホイールを回す。

連続移動

- 左または右にスワイプし、画面の端をロングタップ（ホールド）する。
- 次々と画像が表示されていきます。



再生モード時の情報表示

画像確認の邪魔にならないように、初期設定では再生時にヘッダーとフッターに情報が表示されないよう設定されています。



- センターボタンを押す。
- 情報表示バーが表示されます。再生モード時は常にヘッダーとフッターが同時に表示されます。

連写画像の再生 (インターバル撮影)

インターバル撮影では、単一の撮影が繰り返されて一連の画像を構成します。単一の画像すべてを表示すると、再生したい画像を探し出すのが困難になるため、連続撮影やインターバル撮影された画像は1つのグループとして表示されます。



表示される画像の真ん中には「PLAY」ボタン、左下には「4K 200」が表示されます。

一連のすべての画像を再生するには、2つの方法があります：「1枚ずつスクロールする」または「スライドショーで再生する（オート）」

連写画像をスライドショーで再生する

一連の画像をまとめてスライドショーで再生することができます。マニュアル操作で1枚ずつ移動せずに、すべての画像を自動的に再生することができます。

→ 「PLAY」ボタンをタップする。

または

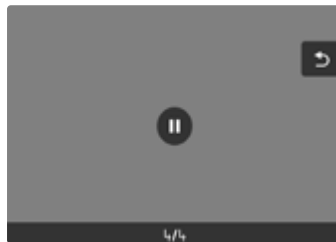
→ センターボタンを押す。

- スライドショーが始まります。

スライドショー中に、他の機能呼び出すことができます。

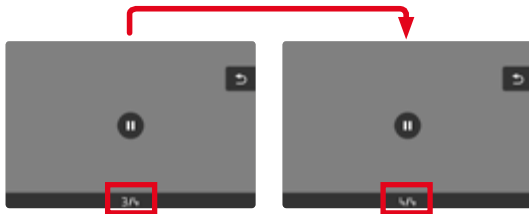
→ センターボタンを押す。

- 画像が表示されたまま再生が一時停止します。



グループ内の他の画像へ移動する

→ 希望する画像をセレクトボタンで選択する。



再生を続行する

アイコンが表示されている場合：

→ センターボタンを押す。

連写画像を1枚ずつめくる

一連の画像を1枚ずつ表示することができます。マニュアル操作で次の画像へ移動します。



→ セレクトボタンの上または下を押す。

- ・ 全画面表示では、画像情報は表示されません。
- ・ 情報表示がオンの時は、左下に「1/4」が表示されます。

→ セレクトボタンの左または右を押す。

または

→ 左または右にスワイプする。

通常の再生モードに戻るには

→ セレクトボタンの上または下を押す。

- ・ 左下に「1/4」が表示されます。

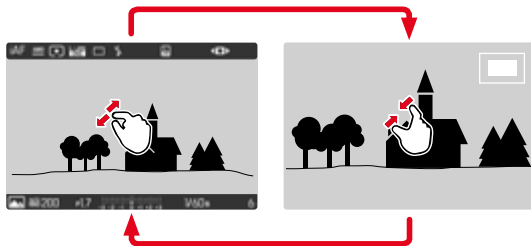
メモ

- ・ 通常表示/一覧表示のどちらの再生画面でも、グループ画像の再生を開始すると、グループ内の写真のみが再生されます。
- ・ ヘッダーに、連続撮影の画像は「連続撮影」、インターバル撮影の画像は「インターバル撮影」で表示されます。

拡大倍率

画像の細部を確認するため、画像の一部を拡大再生することができます。サムホイールを回して5段階で拡大倍率を拡大することができます。タッチ操作の場合は連続拡大されます。

タッチ操作で行う場合



→ ピンチイン/ピンチアウトする。

- ・ 操作箇所が縮小または拡大されます。



→ 拡大表示位置をスワイプさせて移動させる。

- ・ 画面の右側に表示される四角い枠内で現在の表示位置を確認できます。



→ ダブルタップする。

- ・ タップした位置を、拡大表示（1段階）とフルスクリーン表示と切り替えて表示することができます。

ボタン操作で行う場合

- ズームレバーを回す。
(右:拡大、左:縮小)
- セレクターボタンで拡大表示位置を移動させる。
 - 画面の右側に表示される四角い枠内で現在の表示位置を確認できます。

表示を拡大したまま他の画像に移動することができ、その場合は同じ拡大倍率で表示されます。

- サムホイールを回す。

メモ

- 他機で撮影された画像は拡大表示できない場合があります。
- 動画は拡大できません。

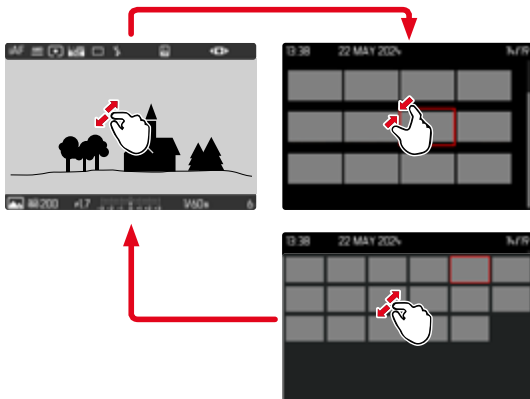
一覧表示

画像を縮小して一覧表示することで、撮影した画像を全体的に確認、または探している画像をすばやく見つけ出すことができます。12枚表示または30枚表示ができます。

一覧表示

タッチ操作で行う場合

- ピンチインする。
 - 最初に12枚表示になり、その後30枚表示に切り替わります。

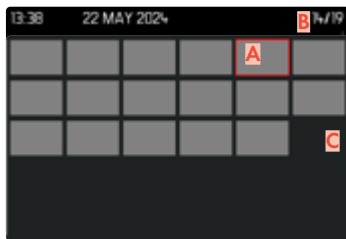
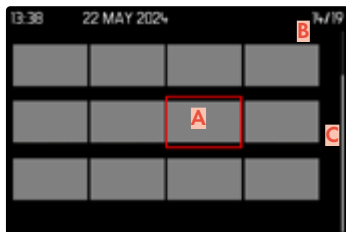


ボタン操作で行う場合

- ズームレバーを左に回す。
 - 最初に12枚表示になり、その後30枚表示に切り替わります。

次の行の画像へ移動するには

→ 上または下にスワイプする。



- A** 現在選択されている画像
- B** 現在選択されている画像の番号
- C** スクロールバー

移動中も選択中の画像は赤枠で示されます。

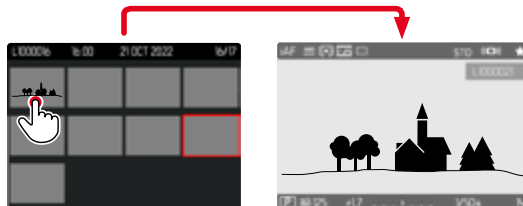
画像を選択するには

→ セレクターボタンで希望する方向に移動させる。

通常倍率に戻るには

タッチ操作で行う場合

→ 希望する画像をタップする。



ボタン操作で行う場合

→ ズームレバーを右に回す。

または

→ センターボタンを押す。

画像をお気に入りにマークする

確認したい画像をすばやく見つけたり、不要な画像をまとめて簡単に削除したりできるように、画像をマークをすることができます。通常表示、一覧表示のどちらでも、画像をマークすることができます。

画像をマークするには

- サムホイールボタンを押す。
 - ・ 画像上に★が表示されます。
 - ・ 通常表示ではヘッダーの右端に、一覧表示では画像の左上にアイコンが表示されます。

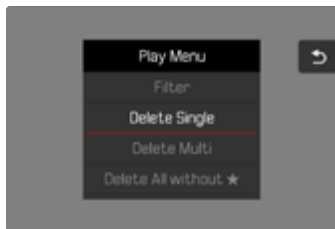
マークを解除するには

- サムホイールボタンを押す。
 - ・ 画像上の★が消えます。

画像を削除する

画像を削除するにはいくつかの方法があります：

- 1コマずつ削除する
- 複数の画像を削除する
- マークをつけていないすべての画像を削除する



注意

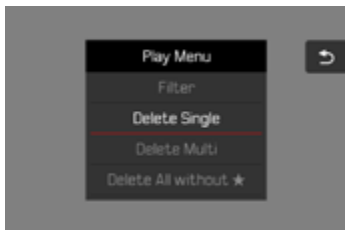
- ・ 一度削除した画像は元に戻せません。

1コマずつ削除する

- ファンクションボタン(F6)を押す。
 - 削除画面が表示されます。

または

- **MENU**ボタンを押す。
- 再生メニューの「1コマ消去」を選択する。
 - 削除画面が表示されます。
 - 処理中はLEDが点滅します。処理には数秒程度かかることがあります。
 - 削除後は次の画像がモニターに表示されます。表示できる画像がない場合は、「再生可能な画像がありません」というメッセージが表示されます。



削除を中止して再生モードに戻るには

- 「戻る」アイコン(⏮)を選択する。
(アイコンを直接タップする、または**MENU**ボタンを押す。)

メモ

- 削除画面は、一覧表示の際に**MENU**ボタンを押すことで呼び出すことができます。その際、再生メニューから「消去」機能を使用することはできません。
- 削除メニュー表示中でも次の画像に移動したり、画像を拡大して確認することができます。

複数の画像を削除する

一覧表示の際に、複数枚の画像を一度に削除することができます。
2種類の方法で操作できます。

- ズームレバーを左に回す。
 - ・ 一覧が表示されます。
- **MENU**ボタンを押す。
- 再生メニューの**複数コマ消去**を選択する。
 - ・ 削除用縮小画面が表示されます。

または

- **MENU**ボタンを押す。
- 再生メニューで**消去**を選択する。
 - ・ 削除画面が表示されます。

何枚でも画像を選択することができます。

削除する画像を選択するには

- 希望する画像を選択する。
- センターボタンを押す。

または

- 希望する画像をタップする。
 - ・ 選択された画像上には赤い削除アイコンが表示されます。

選択した画像を削除するには

- 削除アイコンを選択する。
(アイコンを直接タップする、またはセンターボタンを押す。)
 - ・ 「**選択した画像を全て消去しますか?**」というメッセージが表示されます。
- **はい**を選択する。

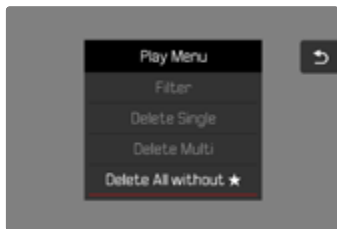
削除を中止して再生モードに戻るには

- 「戻る」アイコンを選択する。
(アイコンを直接タップする、または**PLAY**ボタンを押す。)

マークされていない画像を削除する

→ **MENU**ボタンを押す。

→ 再生メニューで★なしを全コマ消去を選択する。



- ★がマークされていないデータを 全て消去しますか? という確認メッセージが表示されます。

→ はいを選択する。

- 処理中はLEDが点滅します。処理には数秒程度かかることがあります。削除後はマークされた次の画像がモニターに表示されます。表示できる画像がない場合は、「再生可能な画像がありません」というメッセージが表示されます。

連写画像を消去する

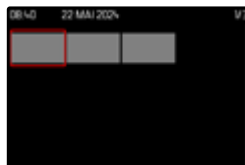
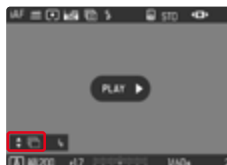
連写画像から1コマずつ削除することができます。

→ 連写画像のトップ画像を選択する。

→ セレクターボタンの上または下を押す。

- 情報表示がオンの時は、左下に📷が表示されます。

→ ズームレバーを左に回す。



→ 削除したい画像を選択する。

→ **MENU**ボタンを押す。

→ 再生メニューの1コマ消去を選択する。

- このデータを消去しますか? という確認メッセージが表示されます。

→ はいを選択する。

直前に撮影された画像のプレビュー

撮影した静止画をすばやく確認できるように、撮影直後に自動的に画像を再生することができます。再生時間を選択できます。

- メインメニューで**オートレビュー**を選択する。
- 希望する機能/レビュー時間を選択する。

(OFF、1秒、3秒、5秒、ホールド)

ホールド : **PLAY**ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しするまで、最後に撮影した画像が表示されます。

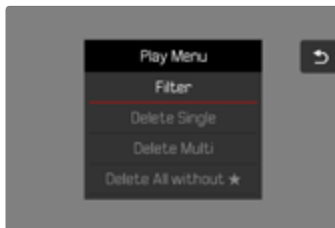
メモ

- ・ プレビュー中は、各種ボタン/ダイヤルは通常の再生モード時の機能となります。プレビュー終了後に撮影モード機能に戻ります。
- ・ 画像のマークと削除は通常の再生モード時でのみ可能で、オートレビュー中はできません。
- ・ 連続撮影またはインターバル撮影を行ったとき、メモリーカードへの画像ファイル転送中は、メモリーカードに最後に記録された画像が表示されます。
- ・ 画像の表示中 (1s、3s、5s) は**PLAY**ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しするまで、最後に撮影した画像が表示され続けます。

フィルタリングして再生する

再生したい画像を「静止画のみ」、「動画のみ」、もしくは「全データ」から選択することができます。

- **MENU**ボタンを押す。
- 再生メニューで**フィルター**を選択する。



- ・ 選択肢として**全データ**、**静止画**、**動画**が表示されます。

動画設定

記録形式

動画はMP4ファイル形式で記録されます。

記録形式に応じて、解像度とフレームレートのさまざまな組み合わせを設定することができます。画像の用途やメモリーカード容量に合わせて最適な設定を選んでください。

動画形式

解像度とフレームレートは、以下の組み合わせが使用できます。

MP4

フレームレート	解像度		
	4K	FHD	HD
60fps		✓	
30fps	✓	✓	✓
24fps	✓		

使用できる解像度

異なる解像度と対応したアスペクト比を設定することができます。

記録形式	使用できる解像度	
MP4	4K	3840x2160
MP4	FHD	1920x1080
MP4	HD	1280x720

使用できるフレームレート

設定した解像度に応じて、24fps～60fpsの範囲で、最大3種類のフレームレートを使用できます。

動画形式を設定する

初期設定：記録形式MP4、解像度4K、フレームレート30fps

MP4

- メインメニューで「記録形式」を選択する。
- 希望する記録画素数を選択する。
(4K、FHD、HD)
- 希望するフレームレートを選択する。

メモ

- ・ 設定可能な動画形式について詳しくは「テクニカルデータ」の項目（p.206）をご覧ください。HDMI出力の際の制限についても表をご覧ください。

画像のプロパティ

本機では、お好みに合わせて設定を個別に調整できる**動画モード**プロファイルを使って動画を撮影することができます。



動画モード

動画のプロパティは様々なパラメーターにより変更が可能です。これらは**動画モード**のプロファイルのプリセットにて設定することができます。

コントラスト

明暗差に強弱をつけます。

シャープネス

輪郭強調の強弱を調整します。

彩度

色彩の鮮やかさを調整します。

ハイライトトーン/シャドウトーン

露出設定や被写体もしくは撮影シーンのダイナミックレンジによっては、ハイライト部やシャドウ部のディテールがよく認識できない場合があります。パラメーター「ハイライトトーン」と「シャドウトーン」は、露出オーバー部と露出アンダー部をそれぞれ調整することができます。例えば、被写体の一部が影になっている場合、「シャドウトーン」の設定を高くすることで、その部分が明るくなり、ディテールが見えやすくなります。逆に、既存のシャドウやハイライト部分を、デザイン上の理由でさらに強調することもできます。プラス値に設定するとより明るく、マイナス値はより暗くなります。

カラープロファイル

撮影時には、以下の3つの設定から選択することができます。

- STD 標準
- VIV ビビッド
- NAT ナチュラル

- メインメニューで「動画撮影設定」を選択する。
- 「動画モード」を選択する。
- 希望するプロファイルを選択する。

モノクロプロファイル

モノクロ動画撮影時には、以下の2つの設定から選択できます。

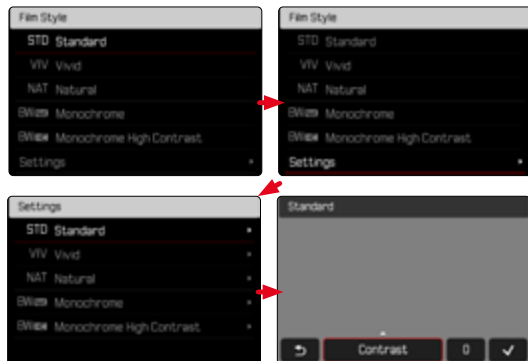
- BW  モノクロ
- BW  モノクロHC

- メインメニューで「動画モード」を選択する。
- 希望するプロファイルを選択する。

動画プロフィールの設定

これらのパラメータはすべてのプロフィールで設定が可能です。モノクローム設定には**彩度**の設定はできません。詳しくはp.52をご覧ください。

- メインメニューで**動画モード**を選択する。
- **設定**を選択する。
- 希望するプロフィールを選択する。
- **コントラスト**/**シャープネス**/**彩度**を選択する。
- 希望のレベルを選択する。
(-2、-1、0、+1、+2)



音声設定

マイク

マイク感度を変更することができます。

初期設定: 0 dB

- メインメニューで**動画撮影設定**を選択する。
- **マイク感度**を選択する。
- 希望のレベルを選択する。
(+6 dB、0 dB、-6 dB、-12 dB)

メモ

- ・ ピント合わせやズーム操作によって生じるノイズも録音されます。

風切音低減

風切音低減機能は撮影状況に応じてオンまたはオフに設定できます。

初期設定：

- メインメニューでを選択する。
- を選択する。
- 、またはを選択する。

画像最適化機能

手ブレ補正（動画撮影時）

動画撮影時に手ブレ補正機能をオンにすると、画面の揺れを軽減できます。

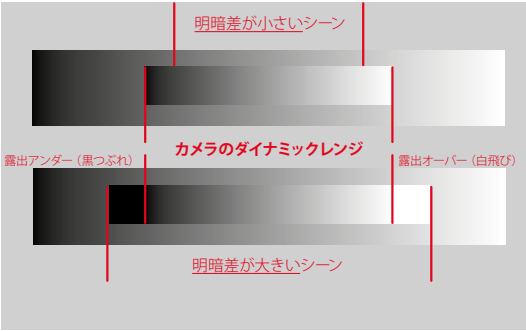
初期設定：

- メインメニューでを選択する。
- またはを選択する。

シャドウ部の最適化 (IDR)

ダイナミックレンジ

撮影シーンの明るさの範囲は、最も明るい部分から最も暗い部分までのすべての明暗差を含みます。実際に撮影する場面の明暗差が小さく、カメラのダイナミックレンジ内である場合は、露出を調節することで撮影が可能です。逆に明暗差が大きい場合（室内で明るい窓を背景にした撮影、一部が日かげで一部が直接太陽に照らされている被写体の撮影、暗い部分と非常に明るい空のある風景の撮影など）は、カメラのダイナミックレンジの限界により、諧調を保ったまま明暗差を完全に再現することができません。そのため、白飛びや黒つぶれが起こります。



iDR機能

この*iDR*（インテリジェント ダイナミックレンジ）機能を使うと、適切なコントラストになるよう特にシャドウ部が自動補正されます。それによりディテール部までよく確認できるようになります。



自動補正の強度を3レベルで（**高**、**標準**、**弱**）設定、または無効（**オフ**）にすることができます。**オート**に設定すると、撮影画面の明暗差を基にカメラが適切な設定を選択します。

効果は露出設定内容によっても異なります。この機能はISO感度が低く、シャッタースピードが速く設定されている場合に最も効果を発揮します。ISO感度が高いほど、またシャッタースピードが遅いほど、その効果は小さくなります。

初期設定：**オート**

→ メインメニューで*iDR*を選択する。

→ 希望する設定を選択する。

（**オート**、**高**、**標準**、**低**、**オフ**）

メモ

- ・ シャドウ部を最適化することで、ハイライト部の画像情報が少し失われます。

データ管理

メモリーカードをフォーマット（初期化）する

新しいメモリーカードや他の機器で使用したメモリーカードを使用する場合は、必ず本機でフォーマットしてからご使用ください。フォーマットする必要のあるメモリーカードを入れたときは、フォーマットを促すメッセージが表示されます。また撮影時の残留画像（撮影一時情報）がメモリーカードの容量を占めていることがあるため、時々フォーマットすることをおすすめします。

→ メインメニューで**メモリーフォーマット**を選択する。

→ 確定する。

- ・ 処理中は、LEDランプ（下）が点滅します。

メモ

- ・ フォーマット中は本機の電源を切らないでください。
- ・ フォーマットするとすべてのデータが削除されます。元に戻すことはできませんのでお気をつけください。フォーマットすると、マークのついた動画も削除されます。
- ・ データの消失を防ぐため、撮影した動画を外付けハードディスクやコンピューターに定期的に保存してください。
- ・ メモリーカード内のデータはカメラでフォーマットしてもディレクトリのみが削除されるだけで完全には削除されません。既存ファイルに直接アクセスできなくなるのみです。そのため適切なソフトウェアを使用すると特定の状況下でデータを再現することが可能になります。新しい画像によって上書きされた画像は完全に消去されます。
- ・ パソコンなど他の機器でフォーマットしたメモリーカードを使用する場合は、必ず本機でフォーマットしてから使用してください。
- ・ フォーマットできない場合は、お買い上げの販売店またはライカ カスタマーケア（p.210）までご相談ください。

フォルダー構造

フォルダー

撮影された画像は自動的にメモリーカード上のフォルダー内に保存されます。最初の3文字はフォルダー番号（数字）、後半の5文字はフォルダー名（数字+アルファベット）です。初期設定では、最初のフォルダーから順番に、「100LEICA」、「101LEICA」とフォルダー名が付けられています。自動生成されるフォルダーの番号は、100LEICAから999LEICAまで連番で作成されます。

ファイル名

ファイル名はフォルダー内に11文字で作成されます。初期設定では、最初の画像から順番に、「L1000001.XXX」、「L1000002.XXX」とファイル名がつけられています。1文字目はLEICAの頭文字「L」、残りの10文字はお好みに合わせて数字とアルファベットを入力することができます。「L」に続く3文字がフォルダー番号、その後の4文字がフォルダー内の画像番号です。1つのフォルダー内での画像番号が9999に達すると、新しいフォルダーが自動的に作成され、新たに0001から画像番号が付けられていきます。「XXX」には記録形式（MOVまたはMP4）が入ります。

メモ

- ・ 本機でフォーマットされていないメモリーカードを使うときは、画像番号は0001から始まります。カメラが記憶している画像番号よりも大きい番号がメモリーカード内にある場合は、その続きの番号が次の画像に付与されます。
- ・ ファイル名が「L9999999」に達するとメッセージが表示され、撮影できなくなります。フォーマットして画像番号をリセットするか、または新しいメモリーカードをお使いください。
- ・ フォルダー番号を100に戻すには、フォーマットして画像番号をリセットするか、または新しいメモリーカードをお使いください。

ファイル名を変更する

- メインメニューで**カメラ設定**を選択する。
- **ファイル名変更**を選択する。
 - ・ キーパッドが表示されます。
 - ・ 入力行に「L」で始まるファイル名が表示されます。最初のアルフアベット「L」のみを変更できます。
- 希望する文字を入力する (p.50)。
- 確定する。

メモ

- ・ ファイル名の変更は、次の撮影以降再びファイル名を変更するまで、すべての画像に有効になります。続く4桁の数字を変更することはできません。ただし、新たなフォルダーを作成した場合はファイル名が初期設定に戻ります。
- ・ カメラのすべての設定をリセットすると、最初の文字は「L」に戻ります。
- ・ 小文字は使えません。

データを転送する

データを専用アプリ「Leica FOTOS」にて楽にすばやくモバイル端末に転送することができます。また、カードリーダーやUSBケーブルを使用して転送することもできます。

LEICA FOTOSを介して転送する

- 詳しくは、「Leica FOTOS」(p.188)をご参照ください。

メモ

- ・ 大きなサイズのファイルの転送には、カードリーダーを使用することをおすすめします。
- ・ データ転送中にUSB接続を中断すると、コンピューターやカメラが故障したり、メモリカードに修復不可能な損傷を与えたりする可能性がありますので、接続を中断しないでください。
- ・ また、バッテリーが消耗して本機の電源が切れることのないようにしてください。パソコンの故障の原因となります。同様の理由から、接続中はバッテリーを取り出さないでください。

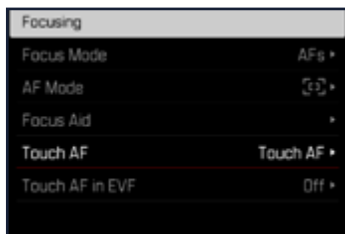
便利なプリセット（撮影補助機能）

タッチAF

モニターをタップして測距点/AFフレームの位置を移動させることができます。

初期設定：タッチAF

- メインメニューでフォーカスを選択する。
- タッチAFを選択する。

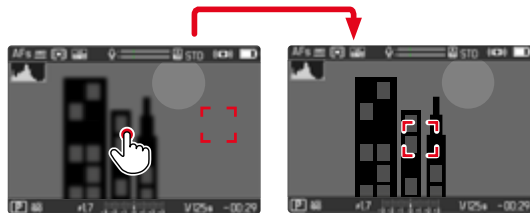


- タッチAFを選択する。



AFフレームの位置を移動させるには

- 移動させたい位置をモニター上でタップする。



メモ

- この機能はAF測距方式を多点に設定している場合は使用できません。
- トラッキング使用時は、タッチ操作でAFフレームを移動させることはできません。シャッターボタンを半押しすることでピントを合わせることができます。他の測距方式を選択した場合は自動でピント合わせが行われます。

EVF使用時にタッチAFを使用する

誤操作によりAFフレームが移動するのを防ぐため、電子ビューファインダー（EVF）使用時はタッチAFを無効にすることができます。AFクイック設定（p.158）は呼び出すことができます。しかし左目でピント合わせをする場合などは、「AFクイック設定の呼び出し」も無効にすることができます。

初期設定：**オフ**

→ メインメニューで**フォーカス**を選択する。

→ EVF使用時に**タッチAF**を選択する。

→ 希望する設定を選択する。

（**オン**、**タッチパッド**、**オフ**）

- **オン**

- AFフレームの配置（タップ）
- AFクイック設定の呼び出し（ロングタップ）

- **タッチパッド**

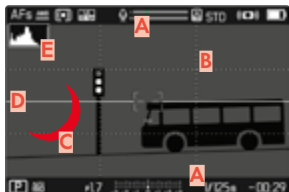
- AFクイック設定の呼び出し（ロングタップ）

- **オフ**

撮影補助表示

ヘッダーとフッターにさらに多くの情報を表示したい場合は、必要に応じてカスタマイズすることもできます。以下の機能が使用可能です：

- グリッド（撮影モード時のみ、p.146）
- フォーカスピーキング（p.147）
- ゼブラ（p.147）
- 水準器（撮影モード時のみ、p.148）
- ヒストグラム（p.149）



A 情報表示バー（＝ヘッダー/フッター）

B グリッド

C フォーカスピーキング

D ゼブラ

E 水準器

F ヒストグラム

→ メインメニューで**撮影アシスト**を選択する。

→ 希望する機能を選択する。

→ **オン**または**オフ**を選択する。

メモ

- ・ 動画撮影時はすべての撮影情報が表示されます。

表示できる設定内容

情報表示バー

ヘッダー/フッターには現在設定されている各種内容が表示されます。表示できる内容は、「表示」(p.24)の項目をご参照ください。



グリッド

グリッドは、主に写真の構図を決める目安として使います。モチーフの構成だけでなくカメラの方向を正確に決めるにも便利です。



- メインメニューで「撮影アシスト」を選択する。
- 「グリッド」を選択する。
- 「オン」または「オフ」を選択する。

ゼブラ

ゼブラ表示をオンにすると、画像の明るすぎる部分が表示されます。すばやく露出を確認したい場合に便利です。露出オーバーの箇所は白と黒の縞模様で表示されます。



- メインメニューで**撮影アシスト**を選択する。
- **クリッピング / ゼブラ**を選択する。
- **オン**または**オフ**を選択する。

フォーカスピーキング

この機能をオンにすると、ピントが合っている被写体の輪郭をマークすることができます。表示色を変更できます。また、感度の調整もできます。



ピーキングの色を変更する

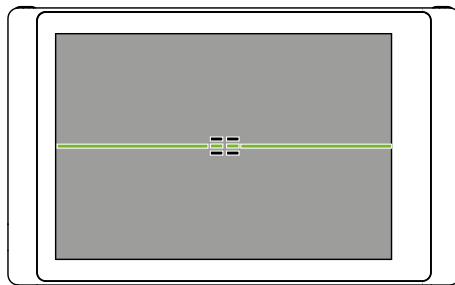
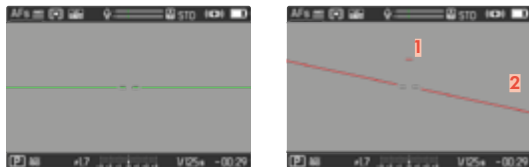
初期設定：**レッド**

- メインメニューで**フォーカス**を選択する。
- **MFアシスト**を選択する。
- **フォーカスピーキング**を選択する。
- 希望する設定を選択する。
(**オフ**、**レッド**、**グリーン**、**ブルー**、**ホワイト**)

水準器

本機には水準器センサーが内蔵されています。三脚を使用して建築物を撮影するときなどに、構図を正確に決められるので便利です。

縦軸に対するブレ（カメラが上下に傾いている場合）は、画面中央の短い線 **①** で表示されます。横軸に対するブレ（カメラが左右に傾いている場合）は、画面左右の長い線 **②** で表示されます。



正位置の場合（傾きなし）

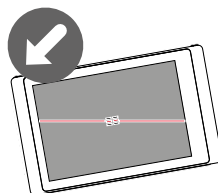
→ メインメニューで**撮影アシスト**を選択する。

→ **水準器**を選択する。

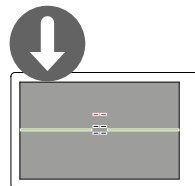
→ **オン**または**オフ**を選択する。

メモ

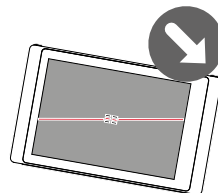
- 縦写真を撮影する場合、縦向きの画面に対応した水準器が表示されます。



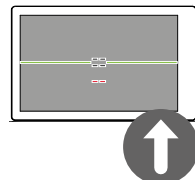
水平方向左に傾いている



前方向に傾いている



水平方向右に傾いている



後方向に傾いている

ヒストグラム

ヒストグラムとは、画面上の輝度分布を示すグラフです。横軸は明るさを黒（左端）～灰色～白（右端）で表しています。縦軸はピクセル数を表します。

屋外など周囲が明るすぎてモニターが見にくい場合でも、このグラフから露出状況を判断することができます。



- メインメニューで**撮影アシスト**を選択する。
- **ヒストグラム**を選択する。
- **オン**または**オフ**を選択する。

メモ

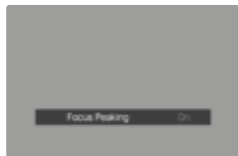
- ・ ヒストグラムはライブビュー画像の明るさに基づいていますので、コントラスト設定などに影響され最終的な露出を示していない場合があります。
- ・ 撮影モード時のヒストグラムは露出の傾向であり、正確な画素数を示しているわけではありませんので目安としてお使いください。

各機能を一時的に表示する/非表示にする

以下の撮影補助機能を一時的に表示または非表示にすることができます。

- フォーカスピーキング
- クリップング

- 希望する補助機能をファンクションボタンに割り当てる (p.54)。
- 機能を割り当てたファンクションボタンを押す。
 - ・ 補助機能がオンまたはオフに切り替わります。
 - ・ モニターですぐに確認できます。



カメラの電源をオフにすると、この設定は無効化され、選択したプロファイル内容にモニター表示が替わります。

AFアシスト機能

AF確定音

ピントが合った時に、電子音でお知らせすることができます。

初期設定：

- メインメニューでを選択する。
- を選択する。
- を選択する。
- を選択する。
- またはを選択する。

メモ

- ・ AF確定音は撮影開始前にピントが合った場合にのみ鳴り、動画撮影中は鳴りません。

動画を撮影する

本項目に記載されている設定/内容は、動画撮影モードのみで有効です。これらの設定を変更する場合は、常に動画メニューから操作してください。「基本的な操作・設定」内の「メニュー操作」に関する項目も合わせてご参照ください。動画メニュー内の各種設定を変更しても、動画メニュー内の設定/内容は変わりません。

メモ

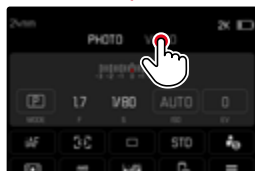
- 最長連続撮影時間は29分です。
- 動画モードでは、いくつかのメニュー項目は設定できません。設定できない項目がある場合は、その項目の文字が濃いグレーで表示されます。
- 動画撮影では撮像素子の中央部だけを使用するため、静止画撮影時よりも画角が狭くなります。
- 本機での撮影は、選択した解像度によって異なるアスペクト比で撮影されるため、モニターにはそれぞれの設定に対応したマスキングが表示されます。
- モニターとEVFのオートパワーオフの際はAF機能もオフになります（p.59）。そのためHDMIを経由した撮影時にオートフォーカスを使用する場合は、設定を AF-ON にすることをおすすめします。

動画モードを開始する/終了する

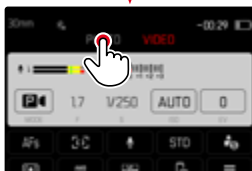
カメラの電源を入れた直後、または初期化した直後は、カメラは静止画モードになっています。静止画モードと動画モードを切り替えるには2つの方法があります。

タッチ操作で行う場合

静止画



動画



- ホーム画面の色が変わります。

ボタン操作で行う場合

→ 静止画 - 動画機能に割り当てられたファンクションボタンを押す。

- 初期設定では、ファンクションボタン2 (F2) に機能が割り当てられています。

撮影を開始/終了する



- シャッターボタンを押す。
 - 動画撮影が始まります。
 - フレームが赤色で点灯します。
 - 録画時間が表示されます。
 - LEDランプが点滅します。
- 再びシャッターボタンを押して終了する。
 - 動画撮影が終わります。
 - フレームがグレーで点灯します。

メモ

- 動画撮影中はメニュー操作が (ショートカット機能を含む) 制限されます。

ピント合わせ

オートフォーカスとマニュアルフォーカスから選択します。オートフォーカスでの撮影時に、3つのモードと4つの測距方式から選択することができます。

AFで動画を撮影する

AFs設定時は、必要に応じてピント合わせが行われます。AFc設定時は、AFフレーム内で継続的にピント合わせが行われます。

- フォーカスモード設定リングを希望するポジションに設定する。
- 撮影を開始する。
- オートフォーカスを制御する (p.155)

MFで動画を撮影する

フォーカスリングを使用してマニュアルでピント合わせを行います。

- フォーカスモード設定リングを希望するポジションに設定する。
- フォーカスリングを回してピントを合わせる。

AFモード

以下のモードが使用可能です：AFs、AFc、インテリジェントAF設定されているモードがヘッダーに表示されます。

初期設定：インテリジェントAF

- メインメニューでフォーカスを選択する。
- フォーカスモードを選択する。
- 希望する設定を選択する。
(インテリジェントAF、AFs、AFc)

インテリジェントAF

すべての被写体の撮影時に使用できます。カメラが自動的にAFsとAFcを切り替えます。

AFs (シングル)

一定の間、同じフォーカス設定で撮影する場合に適しており、誤って撮影したい被写体からピントが外れることを防ぎます。

AFc (コンティニュアス)

動きのある被写体の撮影に適しています。AFフレーム上にある被写体にピントが合わせ続けられ、タッチAFと併用すると便利です。

オートフォーカスを制御する

タッチAF

動画撮影時、最も重要な被写体が画像中心部から外れた場合でも、タッチAFによりフォーカスをすばやく調整できます。その他の情報に関しては、p.144をご参照ください。

- フォーカスしたい位置をモニター上でタップする。
 - すぐにタップした位置にピントが合います。

コンティニュアスAF

AF-CまたはAFに設定時は、AFフレーム内で継続的にピント合わせが行われます。シャッターボタンを半押しする必要がなく、自動で測距が行われます。この測距方法はシャッターボタンを押して測距する場合よりもスムーズに測距でき、ピントが飛ぶことを防ぐことができます。しかし、必要に応じて、シャッターボタンやタッチAFで強制的により速く測距を行うこともできます。

AF測距方式

オートフォーカス設定時は、異なる測距方式が使用できます。ピントが合った場合AFフレームが緑色に変わり、ピントが合わなかった場合はAFフレームは赤色で表示されます。

初期設定：**多点**



- メインメニューで**フォーカス**を選択する。
- **AFモード**を選択する。
- 希望する設定を選択する。
(**多点**、**フレーム**、**ゾーン**、**トラッキング**、**瞳 / 顔**)

メモ

- ・ オートフォーカスでの撮影時に、ピントが合わないことがあります。
 - 撮影したい被写体までの距離が近すぎるまたは遠すぎるとき
 - 被写体が暗い場所にあるとき

多点

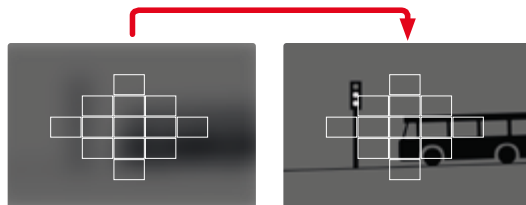
撮影範囲内の多くのポイントにピントを合わせることができます。

フレーム

AFフレームが設定されている範囲内のみで測距が行われ、ピントが合います。測距範囲は小さなフレームで表示されます。測距点/AFフレームの位置を移動させることができます。

ゾーン

この測距方式では、5x5の連続したフレームによって被写体が認識されます。



ピントが合った位置にゾーンが表示されます。

被写体追尾 (トラッキング)

動いている被写体を撮影する際、フレーム測距を用いて被写体に継続的にピントを合わせることができます。

- AFフレームを追尾したい被写体にセットする。
(カメラを被写体に向け、AFフレームを移動させる)
- シャッターボタンを半押しし続ける。
 - ・ 被写体にピントが合います。
 - ・ AFフレームがロックした被写体を継続的に追尾し、ピントを合わせ続けます。

メモ

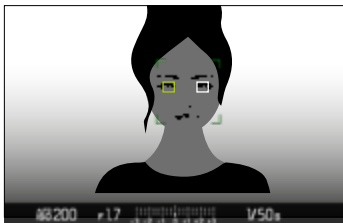
- ・ この機能では、AF-Sに設定されていても被写体にピントを合わせ続けることができます。

人物認識 (瞳/顔認識)

本機では、人物の顔を認識してピントを合わせることができます。検出された顔の最も近い位置にピントが合います。認識できない場合は、フレーム測距AFに切り替わります。

顔認識時に目が検出された場合、その瞳に焦点が合います。複数の目が検出された場合は、どの目に焦点を合わせるかを選択することができます。現在選択されている瞳がハイライト表示されます。

また、複数の顔が写っている場合も希望する顔を簡単に選択することができます。



顔または瞳を選択するには

- セレクターボタンで希望する方向に移動させる。

AFクイック設定

いくつかのAF測距方式ではフレームサイズをすばやく変更することができます。

ライブビュー画像は、各種設定中も表示されます。

AFクイック設定を呼び出す

→ モニターをロングタップ（ホールド）する。

- すべての撮影補助表示が非表示になります。
- 測距方式が**フレーム**、**ゾーン**、**人認識**または**人・動物認識**に設定されている場合、測距フレームの2つの角に赤い三角形が表示されます。



AFフレームの大きさを変更する

（**フレーム**、**ゾーン**、**人認識**、**人・動物認識**のみ）

→ サムホイールを回す。

または

→ ピンチイン/ピンチアウトする。

- AFフレームの大きさは、3段階で調整できます。

AF補助光

AF補助光は動画撮影モードでは使用できません。

AF確定音

ピントが合った時に、電子音でお知らせすることができます（p.63）。

メモ

- 撮影中は、この機能は使用できません。

AFフレームを移動する

すべてのAF測距方式にて、AFフレーム（測距枠）を希望の位置に移動させピントを合わせることができます。AFに設定時はAFフレームに合わせて自動でピントが合います。

→ セレクターボタンで希望する方向に移動させる。

または

→ 移動させたい位置をモニター上でタップする。
（タッチAFに設定時）

メモ

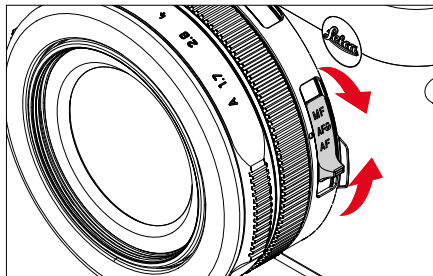
- AFモードを切り替えた場合やカメラをオフにした場合でも、フレームの位置は最後に使用した位置に残ります。
- スポット測光とスポット測距、フレーム測距またはゾーン測距が設定されている際は、測光/測距エリアが連結します。これにより、もともと設定されていたAFフレームの位置で測光が行われます。

マニュアルフォーカス（MF）

被写体や撮影状況によっては、オートフォーカスよりもマニュアルフォーカスでピントを合わせるほうが便利なことがあります。

- 複数回の撮影を同じ設定で行いたい場合
- 測距値の保存が煩雑な場合
- 常に同じ設定で風景を撮影したい場合
- 暗すぎてAFモードがまったく作動しない、または遅く作動するなど撮影環境が悪い場合

→ フォーカスモード設定リングをMFポジションに設定する。



→ 撮影したい被写体にピントが合うまでフォーカスリングを回す。

MFアシスト機能

マニュアルフォーカス撮影時には、次の補助機能が使用できます。

フォーカスピーキング

この機能をオンにすると、ピントが合っている被写体の輪郭をマークすることができます。表示色を変更できます。また、感度の調整もできます。設定方法に関して詳しくは、p.147をご参照ください。



- メインメニューで**フォーカス**を選択する。
- **MFアシスト**を選択する。
- **フォーカスピーキング**を選択する。
- 希望する設定を選択する。
(オフ、レッド、グリーン、ブルー、ホワイト)
- 構図を決める。
- ピントを合わせたい被写体の縁に色がつくまで、フォーカスリングを回す。

メモ

- ・フォーカスピークは被写体のコントラスト（明暗差）に基づいて行われます。被写体のコントラストが高い場合、輪郭が正しくマークされないことがあります。

MFモード時の拡大表示

被写体の細部を確認できるので、より正確にピントを合わせることができます。

マニュアルフォーカス時、この機能を自動的にオンにするか、個別に呼び出すかを設定することができます。

フォーカスリングを回して呼び出す

フォーカスリングを回すと自動的に画像の一部を拡大することができます。

- メインメニューで**フォーカス**を選択する。
- **MFアシスト**を選択する。
- **自動拡大**を選択する。
- **オン**を選択する。
- フォーカスリングを回す。
 - ・拡大された画像が表示されます。拡大位置は、AFフレームの位置によって変わります。
 - ・画面の右側に表示される四角い枠内で現在の表示位置を確認できます。

拡大倍率を変更するには

- センターボタンを押す。
 - 2つの倍率に切り替えることができます。

拡大位置を移動するには

- セレクターボタンで希望する方向に移動させる。

拡大表示を終了するには

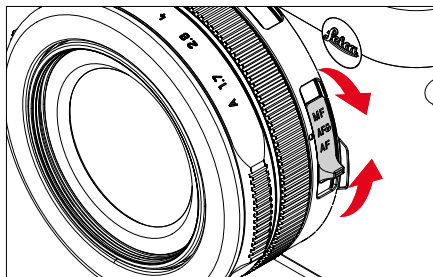
- シャッターボタンを半押しする。

メモ

- フォーカスリングを回した後、約5秒間カメラを操作しないと、通常の倍率に戻ります。
- 他の画像を拡大しても倍率を変えるまで、前回と同じ倍率で拡大表示されます。

マクロ機能

マクロリングを使用すると、通常のフォーカス範囲 (30cm~∞) からマクロ撮影範囲 (17cm~30cm) へと、すばやく切り換えることができます。マクロ撮影の際、AF、MFのどちらでもピントを合わせることができます。



- フォーカスモード設定リングをAF👁️ポジションに設定する。

ISO感度

ISO感度はISO100～25000の範囲で設定可能で、必要に応じて手動でシャッタースピードや絞り値を各状況にあった値に設定することができます。

マニュアル設定を使用すると、オートISO設定により使用可能なシャッタースピードと絞り値の組み合わせが増え、希望の組み合わせが見つかりやすくなります。オート設定中は、被写体の内容などによって、組み合わせの優先順位を設定することもできます。

初期設定：オートISO

固定ISO感度

ISO100～ISO25000の範囲で選択することができます。マニュアル設定では1EVステップです。

- メインメニューでISOを選択する。
- 希望する値を選択する。

メモ

- ISO感度を高く設定した場合や、撮影後に画像を加工する場合は、被写体の明るく均一な箇所に縞模様やノイズが生じやすくなります。

オート

周囲の明るさや、シャッタースピードと絞り値の組み合わせに応じて自動でISO感度を設定できる機能です。この機能を絞り優先AEモードと併用することで自動露出制御範囲を広げることができます。オートISO設定は1/3 EVステップで調整することができます。

- メインメニューでISOを選択する。
- オートISOを選択する。

ISO感度の設定範囲を制限する

最大ISO値を設定し、ISO感度の自動調整範囲を制限することができます。

また、同時に最長シャッタースピードを設定することもできます。最大シャッタースピードの設定範囲は、1/30～1/2000秒です。

最大ISO感度を制限する

ISO 200以上の値に設定できます。

初期設定：5400

- メインメニューでオートISO設定を選択する。
- 最大ISO値を選択する。
- 希望する値を選択する。

ホワイトバランス

ホワイトバランスは、光源に応じて自然な色合いで撮影できるようにするためのものです。被写体の中の特定の色を白く写し出すように設定し、この白に基づいて色合いを調整します。

以下の設定から選択できます：

- オート
- プリセット
- マニュアル設定
- 色温度を設定する

初期設定：オート



オート/プリセット

- オート：自動設定
- 異なるプリセット：よくある光源別に最適なプリセットを選べます。

	晴天	晴天の屋外で撮影するとき
	くもり	曇りの日に屋外で撮影するとき
	日かげ (晴天時)	屋外の日かげで撮影するとき
	白熱灯	白熱灯下で撮影するとき
	フラッシュ	フラッシュを使用して撮影するとき

- メインメニューでホワイトバランスを選択する。
- 希望する設定を選択する。

マニュアル設定

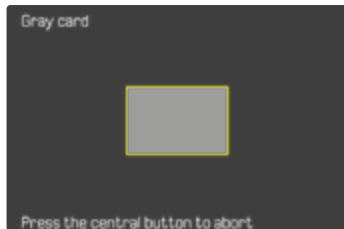
グレーカード

この機能では、測定エリア内のあらゆる色温度を測定し、平均的なグレーの値を算出します。

→ メインメニューで**ホワイトバランス**を選択する。

→  **グレーカード**を選択する。

- ・ モニターには以下の表示が現れます。
 - － オートホワイトバランスの基本となる色の画像
 - － 枠 (画像中心部)



→ 測定したい範囲を白またはグレーのエリアに合わせる。

- ・ 枠内の測定値の変化に合わせて、つねにモニター画像が変化していきます。

測定するには

- シャッターを切る。
 - ・ 測定が実行されます。

測定を中止するには

- センターボタンを押す。

メモ

- ・ いったんホワイトバランスを保存すると、グレーカードに設定されている間は、その設定値で撮影が行われます。変更したい場合は、上記の手順で設定し直してください。

色温度を設定する

2500～11000 K (K=ケルビン) の値を直接設定することができます。通常の撮影に必要なほぼすべての色温度がこの設定範囲内にあるので、光源やお好みに合わせて画像の色合いを調整することができます。



- メインメニューで**ホワイトバランス**を選択する。
- **色温度**を選択する。
- 希望する値を選択する。

測光方式

本機では以下の測光方式が選択できます。

初期設定：**多点**



- メインメニューで**測光モード**を選択する。
- 希望する測光モードを選択する。
(**スポット**、**中央重点**、**多点**)
 - ・ 設定された測光方式は、モニターのヘッダーに表示されます。

スポット測光に設定時に測光枠を移動させる場合：

- セレクターボタンで希望する方向に移動させる。

メモ

- ・ 露出情報 (ISO値、絞り値、シャッタースピード、露出補正目盛り露出インジケータ) は、適正露出に必要な設定に役立ちます。

スポット

被写体の一部分のみをピンポイントに測光して露出を決定します。**スポット**測光と**スポット**測距または**フレーム**測距が設定されている際は、測光/測距エリアが連結します。これにより、もともと設定されていたAFフレームの位置で測光が行われます。

中央重点

画面全体を平均的に測光します。被写体以外の部分の明るさを考慮しながらも、主要被写体をメインとした露出で撮影する場合に適しています。

多点

画面の複数の部分を測光します。各エリアの輝度差を計算し、最適と思われる値で撮影します。

露出モード

以下の4つモードが使用できます。

- プログラムAE (**P**)
- 絞り優先AE (**A**)
- シャッター優先AE (**S**)
- マニュアル露出 (**M**)

これらのモードに設定した場合はシャッタースピードダイヤルと絞りリングにて露出内容进行操作します。**P**、**A**、**S**、**M**を使用するには、メニュー項目**撮影モード (シーン)** (p.167) にて**P-A-S-M**に設定されている必要があります。**オート**に設定されている場合は、オート設定内容が優先され、シャッタースピードダイヤルや絞りリングにて値を変更しても撮影には考慮されません。

メモ

- どの露出モード時でも、オートで設定できるシャッタースピードは、フレームレートによって異なります (p.134「**動画画質 / 記録形式**」)。

露出モードを選択する

P-A-S-Mに設定中は、各モードでの設定内容は以下の通りです。

	シャッタースピードダイヤルで設定する	絞りリングで設定する
P	A	A
A	A	マニュアル (Aモード以外)
S	マニュアル (Aモード以外)	A
M	マニュアル (Aモード以外)	マニュアル (Aモード以外)

- メインメニューで撮影モード (シーン) を選択する。
- P-A-S-Mを選択する。
- シャッタースピードダイヤルを希望する値に設定する。
- 絞りリングを希望する値に設定する。

オート露出設定 (P)

プログラムAE (P)

カメラがシャッタースピード、絞り値を自動的に設定します。すべての設定をカメラが決定するので、すばやく撮影できます。

- メインメニューで撮影モード (シーン) を選択する。
 - P-A-S-Mを選択する。
 - シャッタースピードダイヤルをAに合わせる。
 - 絞りリングをAに合わせる。
 - シャッターボタンを半押しし続ける。
 - ・ フッターに露出に関する各種情報が表示されます。モニター内のフッターに露出に関する各種情報 (オートで決定されたシャッタースピードと絞り値の組み合わせなど) が表示されます。
 - ・ 各種表示を非表示にすることもできます。
 - シャッターを切る。
- または
- シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更する。
(プログラムシフト)

プログラムシフト

カメラが設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせを、同じ露出のまま変更する機能です。すばやく適正露出を得てから、撮影意図に合わせて撮影できます。値を変更しても露出（明るさ）は変わりません。

→ サムホイールを左または右に回す。

（右=シャッタースピードが遅い場合に被写界深度を深くする、左=被写界深度が浅い場合にシャッタースピードを速くする）

- ・ プログラムシフトすると、の表示にアスタリスクがつきます。

メモ

- ・ ただし、シフトできる範囲には制限があります。

オート露出設定 (A/S)

絞り優先AE (A)

マニュアルで設定した絞り値に応じて、適正露出になるようにカメラがシャッタースピードをオートで設定します。被写界深度（背景のぼけ具合など）を調整したいときに適しています。

絞りを開放する（絞り値を小さくする）と被写界深度は浅くなり、ピントが合う範囲が狭くなります。絞りを絞る（絞り値を大きくする）と被写界深度は深くなり、より広い範囲にピントを合わせられます。

選択した絞り値は、撮影中に変更されません。

→ メインメニューで「撮影モード（シーン）」を選択する。

→ を選択する。

→ シャッタースピードダイヤルをAに合わせる。

→ 希望する絞り値を設定する。

→ 撮影を開始する。

シャッター優先AE (S)

マニュアルで設定したシャッタースピードに応じて、適正露出になるようにカメラが絞り値をオートで設定します。選択したシャッタースピードは、撮影中は変更されません。

- メインメニューで**撮影モード (シーン)**を選択する。
- **P-A-S-M**を選択する。
- 絞りリングを**A**に合わせる。
- 希望するシャッタースピードを選択する。
 - シャッタースピードダイヤルで設定する: 固定シャッタースピード
 - サムホイールで設定する: 微調整 (±1/3 EVステップ)
- 撮影を開始する。

メモ

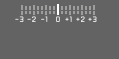
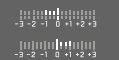
- ・ ホーム画面より微調整を行うこともできます。サムホイールに割り当てられている機能 (p.55) によっては、微調整はホーム画面でのみ可能です。

マニュアル露出設定 (M)

シャッタースピードと絞り値をマニュアル設定することができます。

- 複数の撮影を一定の露出で撮影したい場合
- ISO値と組み合わせて、動画撮影中の露出を一定に保ちたい場合
- メインメニューで**撮影モード (シーン)**を選択する。
- **P-A-S-M**を選択する。
- (シャッタースピードダイヤルまたは絞りリングを使用し) 希望する露出にマニュアルで設定する。
 - ・ 露出補正には露出インジケータを使用します。
- 撮影を開始する。

露出レベル表示

	適正露出
	露出オーバーまたは露出アンダー (±3EV内)
	露出アンダーまたは露出オーバー (±3EV以上)

メモ

- ・ シャッタースピードダイヤルはAではなく、いずれかの固定値に設定されている必要があります。

シャッタースピードを設定する

シャッタースピードを設定するには以下の二通りがあります。
シャッタースピードダイヤルで設定する：固定シャッタースピード
サムホイールで設定する：微調整（±1/3 EVステップ）

シャッタースピードの微調整

- シャッタースピードを1/125秒に設定 + サムホイールを左に1クリック回す=1/100秒
- シャッタースピードを1/500秒に設定 + サムホイールを右に2クリック回す=1/640秒

メモ

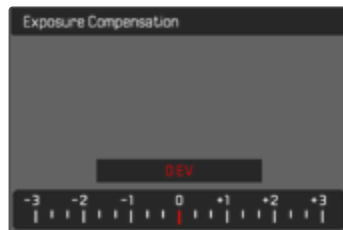
- ホーム画面より微調整を行うこともできます。サムホイールに割り当てられている機能（p.55）によっては、微調整はホーム画面でのみ可能です。
- 最短シャッタースピードは設定されたフレームレート（動画画質）により異なります。

露出補正

露出計は平均的なグレーを基準に露出を決定しています。平均的なグレーとは、平均的な光の反射率をもつ被写体の明るさです。反射率が平均的ではない被写体を撮影するときは、露出が適正になるように補正することができます。

AEロックとは異なり、露出補正はメニューで解除するまで有効なので、適正露出でない露出で何枚も撮影したいときなどは、1枚撮影することに設定が必要なAEロックを使うよりも、露出補正機能を使用して撮影するほうが便利です。

露出補正値は、±3EVの範囲で1/3 EVステップで設定できます（EVは「Exposure Value」の略で、露出量の値です）。



A 設定した補正値（0=補正機能オフ）

サムホイールで操作する場合

- メインメニューで**サムホイール**を選択する。
- **露出補正**を選択する。
- サムホイールで希望する値を設定する。

メニュー操作で行う場合

- メインメニューで**露出補正**を選択する。
 - ・ モニター上に、サブメニューの代わりにスケールが表示されます。
- 希望する値をスケール上で選択する。
 - ・ 設定された値がスケール上に表示されます。

メモ

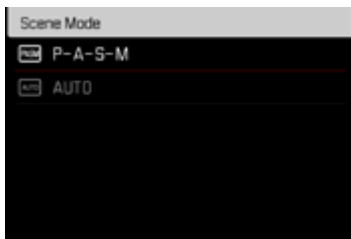
- ・ 撮影中、露出補正值の変化に応じて画面の明るさが変わるため、効果を確認できます。
- ・ 設定した露出補正は、入力した補正值にかかわらず機能します。露出補正を解除するには、補正值を $\square$ にしてください。カメラの電源を切っても解除されません。
- ・ フッターに表示される露出補正目盛に、設定した露出補正值が表示されます。

その他の撮影機能

オート設定で動画を撮影する

フルオートモードでは、プログラムオート (P) で静止画を撮影するときと同じように、カメラが露出を制御します。ISO値など、露出に関わるすべての要素が自動で制御されます。

- メインメニューで**撮影モード (シーン)**を選択する。
- **オート**を選択する。



メモ

- ・ 他の機能を設定するまで、シーンプログラムの設定は維持されます。カメラの電源を切っても解除されません。
- ・ しかし撮影モード (静止画 $\leftrightarrow$ 動画) を切り替えた際には**P-A-S-M**にリセットされます。
- ・ プログラムシフト機能やいくつかのメニュー項目は、シーンプログラムと同時に設定できません。
- ・ シャッタースピードダイヤルや絞りリングを回しても設定を変更できません。

再生モード（動画）

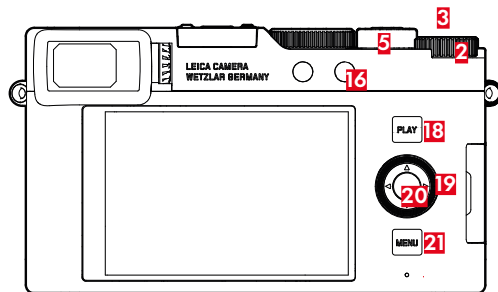
再生モードでは動画再生だけではなく、保存したデータの管理も行います。撮影モード⇔再生モードの切り替えや、再生モード内のほとんどの設定を、タッチ操作かボタン操作の2種類の方法のうちいずれかを選んで行うことができます。詳しくは、p.41をご参照ください。

メモ

- 動画の再生時に常にモニター全画面を使用して表示するため、画像は自動回転しません。
- 他のカメラで撮影された動画は、本機で正しく再生されない場合があります。
- カメラが記録された画像を正しく認識できないときには、画像が荒く表示される場合や、真っ黒な画面のままファイル名だけが表示されることがあります。
- シャッターボタンの半押しでも、再生モードから撮影モードへ切り替えることができます。
- 動画は拡大できません。

再生モード時に使用する各種ボタン/ダイヤル

各種ボタン/ダイヤル



- | | | | |
|-----------|------------|-----------|----------|
| 2 | サムホイール | 20 | センターボタン |
| 3 | サムホイールボタン | 19 | セレクターボタン |
| 16 | ファンクションボタン | 21 | MENUボタン |
| 18 | PLAYボタン | 5 | ズームレバー |

再生モード時のショートカット機能

ファンクションボタンは再生モードでも個別に機能を割り当てることができます。

初期設定では、ファンクションボタンに以下の機能が設定されています。

ボタン	機能
サムホイールボタン	自動拡大
ファンクションボタン 16	1コマ消去
サムホイールボタン 3	画像にマークをつける (マーク)
センターボタン	情報画面切換

次項目からの手順は初期設定に基づいています。

メモ

- 表示モードに関わらず (拡大/縮小表示等)、割り当てられた消去メニューを呼び出すことができます。
- ファンクションボタンがモニター上のボタンを操作中 (消去スクリーン等) は、ショートカット機能は使用できません。

モニター上アイコンの操作

モニター上のボタンなどは、タッチ操作にて簡単に操作することができます。モニター右横の3つのボタンを押すことでも、同様の操作が可能です。操作アイコンがヘッダーに表示される場合、アイコンの横に対応するボタンが表示されます。アイコンがモニター端に表示される場合、対応するボタンの真横に表示されます。

例えば、「戻る」アイコン (⏮) は2通りの方法で選択できます。

- 「戻る」アイコンを直接タップする。
- 対応するボタンを押す。
(一番上のボタン=PLAYボタン)



A 「戻る」アイコン

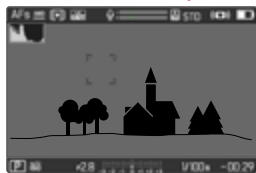
B 「削除」アイコン

動画を再生する/再生を終了する

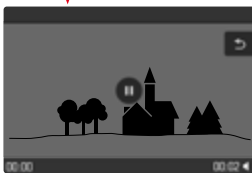
タッチ操作で行う場合

→ 上または下にスワイプする。

撮影モード



再生モード



ボタン操作で行う場合

→ **PLAY**ボタンを押す。

- ・ モニターには最後に撮影されたデータが表示されます。
- ・ 挿入したメモリーカードに表示/再生可能なデータがない場合、「再生可能な画像がありません」のメッセージが表示されます。
- ・ 現在の表示画面によって、いくつかの機能を**PLAY**ボタンで操作することができます。

押す前の表示	PLAYボタンを押した後の表示
全面表示	撮影モード
縮小表示	全面表示

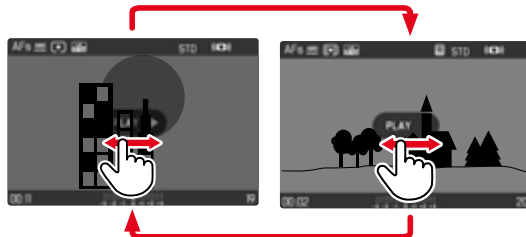
動画を選択する/スクロールする

画像はすべて横向きに、撮影順(時間別)に並べられ、表示されます。画像を再生する際、次の画像/前の画像どちらの方向にも移動でき、最後の画像の後は1枚目の画像へ移動します。また、1枚目の画像から最後の画像へ移動することもできます。

1本ずつ

タッチ操作で行う場合

→ 左または右にスワイプする。

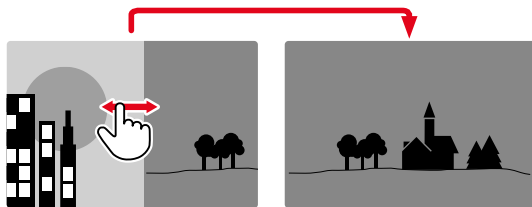


ボタン操作で行う場合

→ セレクターボタンの左または右を押す、もしくはサムホイールを回す。

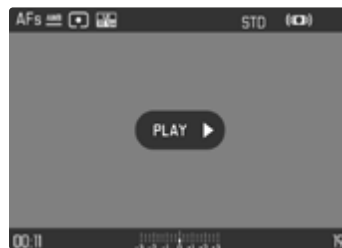
連続移動

- 左または右にスワイプし、画面の端をロングタップ（ホールド）する。
- 次々と画像が表示されていきます。



再生モード時の情報表示

動画撮影時は常にヘッダー、フッター、**PLAY** ▶が表示されます。撮影補助機能は表示されません。



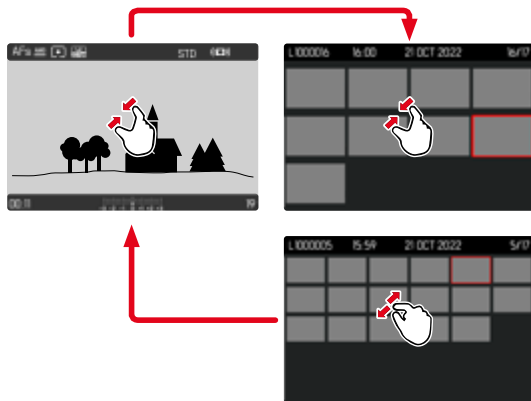
動画再生中は撮影情報も表示されません。

一覧表示

画像を縮小して一覧表示することで、撮影した画像を全体的に確認、または探している画像をすばやく見つけ出すことができます。12枚表示または30枚表示ができます。

一覧表示

タッチ操作で行う場合

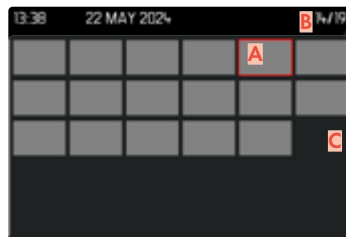
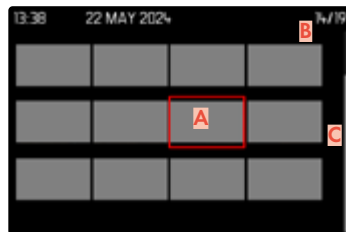


→ ピンチインする。

- ・ 最初に12枚表示になり、その後30枚表示に切り替わります。

次の行の動画へ移動するには

→ 上または下にスワイプする。



- A** 現在選択されている動画
- B** 現在選択されている動画の番号
- C** スクロールバー

移動中も選択中の画像は赤枠で示されます。

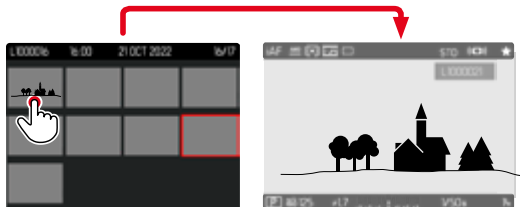
動画を選択するには

→ セレクターボタンで希望する方向に移動させる。

通常倍率に戻るには

タッチ操作で行う場合

→ 希望する動画をタップする。



ボタン操作で行う場合

→ ズームレバーを右に回す。

または

→ センターボタンを押す。

動画をお気に入りマークする

確認したい動画をすばやく見つけたり、不要な動画をまとめて簡単に削除したりできるように、動画にマークをつけることができます。通常表示、一覧表示のどちらでも、動画をマークすることができます。

動画をマークするには

→ サムホイールボタンを押す。

- ・ 画像上に★が表示されます。
- ・ 通常表示ではヘッダーの右端に、一覧表示では画像の左上にアイコンが表示されます。

マークを解除するには

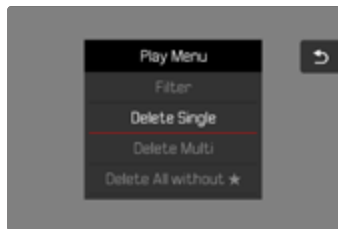
→ サムホイールボタンを押す。

- ・ 画像上の★が消えます。

動画を削除する

動画を削除するにはいくつかの方法があります：

- 1本ずつ削除する
- 複数の動画を削除する
- マークをつけていないすべての動画を削除する



注意

- 一度削除した動画は元に戻せません。

1本ずつ削除する

→ ファンクションボタン(16)を押す。

- 削除画面が表示されます。

または

→ MENUボタンを押す。

→ 再生メニューの1コマ消去を選択する。

- 削除画面が表示されます。
- 処理中はLEDが点滅します。処理には数秒程度かかることがあります。
- 削除後は次の動画がモニターに表示されます。表示できる画像がない場合は、「再生可能な画像がありません」というメッセージが表示されます。



削除を中止して再生モードに戻るには

- 「戻る」アイコンを選択する。
(アイコンを直接タップする、または**PLAY**ボタンを押す。)

メモ

- ・ 削除画面は、一覧表示の際に**MENU**ボタンを押すことで呼び出すことができます。その際、再生メニューから**消去**機能を使用することはできません。
- ・ 削除メニュー表示中でも次の動画に移動したり、動画を拡大して確認することができます。

複数の動画を削除する

12枚表示の際に、複数の動画を一度に削除することができます。
2種類の方法で操作できます。

- **ズームレバー**を左に回す。
 - ・ 一覧が表示されます。
- **MENU**ボタンを押す。
- 再生メニューの**複数コマ消去**を選択する。
 - ・ 削除用縮小画面が表示されます。

または

- **MENU**ボタンを押す。
- 再生メニューで**消去**を選択する。
 - ・ 削除画面が表示されます。

何本でも動画を選択することができます。

削除する動画を選択するには

- 希望する動画を選択する。
- センターボタンを押す。

または

- 希望する動画をタップする。
 - ・ 選択された画像上には赤い削除アイコンが表示されます。

選択した動画を削除するには

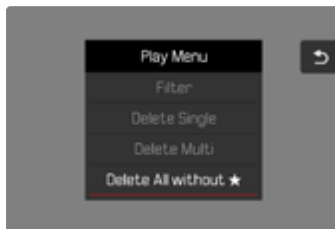
- 削除アイコンを選択する。
(アイコンを直接タップする、またはセンターボタンを押す。)
- ・ 「選択した画像を全て消去しますか?」というメッセージが表示されます。
- はいを選択する。

削除を中止して再生モードに戻るには

- 「戻る」アイコンを選択する。
(アイコンを直接タップする、またはPLAYボタンを押す。)

マークされていない動画を削除する

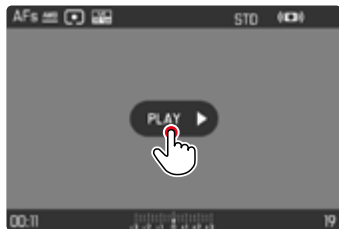
- MENUボタンを押す。
- 再生メニューで★なしを全コマ消去を選択する。



- ・ ★がマークされていないデータを 全て消去しますか? という確認メッセージが表示されます。
- はいを選択する。
 - ・ 処理中はLEDが点滅します。処理には数秒程度かかることがあります。削除後はマークされた次の動画がモニターに表示されます。表示できる画像がない場合は、「再生可能な画像がありません」というメッセージが表示されます。

動画を再生する

再生モードで動画を選択すると、モニターに **PLAY ▶** が表示されます。



動画再生を開始する

→ センターボタンを押す。

または

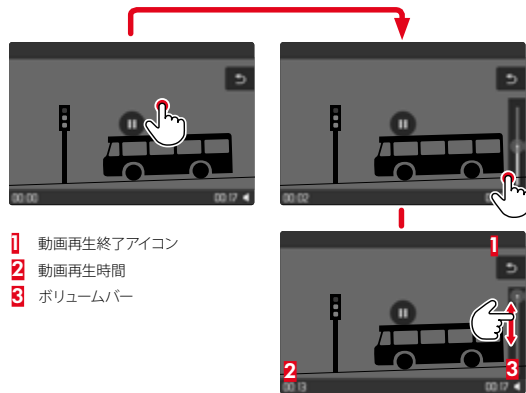
→ **PLAY ▶** をタップする。

動画に関する操作画面を呼び出す

再生が停止すると操作画面が表示されます。

タッチ操作で行う場合

→ モニター上 (任意の箇所) をタップする。



ボタン操作で行う場合

→ センターボタンを押す。

メモ

- ・ 約3秒間カメラを操作をしないと、アイコンは消えます。モニターをタップ、またはセンターボタンを押すと、再び表示されます。

再生を一時停止する

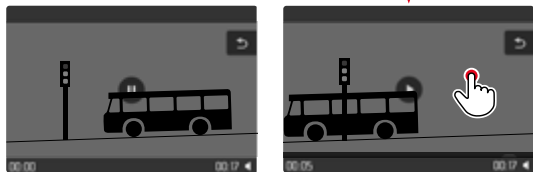
- モニター上（任意の箇所）をタップする。
- または
- センターボタンを押す。

再生を続行する

タッチ操作で行う場合

アイコンが表示されている場合：

- モニター上（任意の箇所）をタップする。



ボタン操作で行う場合

アイコンが表示されている場合：

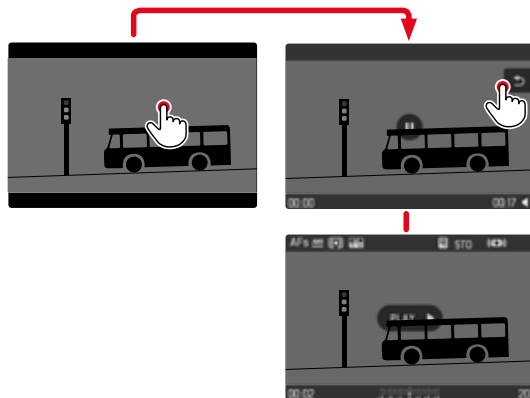
- センターボタンを押す。

動画再生を終了する

タッチ操作で行う場合

アイコンが表示されている場合：

- 「戻る」アイコン⏮を選択する。



ボタン操作で行う場合

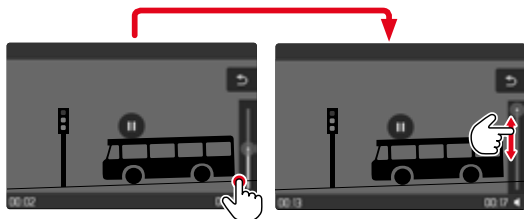
- **PLAY**ボタンを押す。

音量を調整する

タッチ操作で行う場合

アイコンが表示されている場合：

- 音量アイコンをタップする。
- 希望する音量をボリュームバー上でタップする。



ボタン操作で行う場合

- セレクターボタンの上または下を押す。
 - ・ ボリュームバーが表示されます。
- 音量を上げる場合は上、音量を下げる場合は下を押します。

メモ

- ・ ボリュームバーを一番下（音量を0）にすると音は出ません。音量アイコンの表示が🔇になります。

その他の機能

本項目に記載されている設定/内容は、静止画撮影モード、動画撮影モードともに有効です。「基本的な操作・設定」内の「メニュー操作」に関する項目も合わせてご参照ください。静止画モード、または動画モードのいずれかで設定された内容は、もう一方のモードにも適用されます。

初期設定に戻す（すべての設定をリセットする）

メニュー項目の設定をすべてリセットして、基本設定（初期状態）に戻すことができます。ユーザープロフィール、ワイヤレスLAN設定、Bluetooth設定、画像番号に関しては、リセットする対象項目から除外することができます。

- メインメニューで**設定リセット**を選択する。
 - 「**初期設定に戻しますか？**」という、確認メッセージが表示されます。
- 設定をリセットする場合は**はい**、しない場合は**いいえ**を選択する。
 - **いいえ**を選択すると、設定はリセットされずにメインメニューに戻ります。**はい**を選択すると確認メッセージが表示され、いくつかの項目をリセットから除外することができます。
- ワイヤレスLAN設定とBluetooth設定をリセットする場合は**はい**、しない場合は**いいえ**を選択する。
- ユーザープロフィールをリセットする場合は**はい**、しない場合は**いいえ**を選択する。
- 画像番号をリセットする場合は**はい**、しない場合は**いいえ**を選択する。
 - 「**カメラを再起動してください**」という、メッセージが表示されます。
- カメラの電源を入れなおす。

メモ

- 初期設定に戻した後は、日付、時刻、言語を再設定する必要があります。確認メッセージが表示されます。
- 画像番号のリセットは**画像番号リセット**の項目（p.184）からも操作できます。

ファームウェア アップデート

ライカは、製品の機能の向上や不具合の改善に継続的に取り組んでいます。デジタルカメラでは多くの機能がファームウェアで制御されており、お買い上げの後でも機能を追加したり不具合を改善したりすることが可能です。本製品をユーザー登録された方には、最新ファームウェアのリリース情報を随時お届けいたします。

最新のファームウェアをダウンロードして、本製品をアップデートしてください。また、アプリ「Leica FOTOS」のユーザーは、ファームウェアのアップデート情報をアプリ内で自動的に受け取ることができます。

ファームウェアのアップデートは以下の方法で行うことができます。

- 案にアプリ「Leica FOTOS」から (p.188)
- カメラメニューから

現在インストールされているファームウェアのバージョンを確認するには

- メインメニューで**カメラ情報**を選択する。
 - ・ メニュー項目**ファームウェア**の隣に、バージョンが表示されます。



ファームウェアのアップデート情報、アップデートに伴う改善内容や追加機能、およびカスタマー登録について詳しくは、以下のサイトからご覧いただけます。

<https://club.leica-camera.com>

ファームウェアをアップデートする

ファームウェア アップデートを中断すると、カメラに重大かつ修復不可能な損傷を与える可能性があります。

ファームウェアのアップデート中には以下の事項を順守してください。

- カメラの電源を切らない。
- メモリーカードを取り出さない。
- バッテリーを取り出さない。

メモ

- バッテリー残量が十分でない場合は、警告メッセージがモニターに表示されます。バッテリーを充電してからファームウェアをアップデートしてください。
- **カメラ情報**のサブメニューにて国別に承認登録マークや番号を確認することができます。

使用前の準備

- バッテリーを満充電し、カメラに入れる。
- メモリーカードに他のファームウェアが保存されている場合は、必要のないものを消去する。
 - メモリカードに保存されているすべての画像をバックアップしてから、カメラでフォーマットすることをお勧めします。
(注意: データ消失! フォーマットするとすべてのデータが削除されます。元に戻すことはできませんのでお気をつけください。)
- 最新のファームウェアをダウンロードする。
- メモリーカードに保存する。
 - ファームウェアファイルは必ずメモリーカード最上位階層に保存してください。下位階層では読み込みができません。
- メモリーカードをカメラに挿入する。
- カメラの電源を入れる。

カメラのファームウェアをアップデートする

- 準備する。
- メインメニューでカメラ情報を選択する。
- **ファームウェア**を選択する。
- **ファームウェア アップデート**を選択する。
 - ・ アップデートに関する情報とメッセージが表示されます。
 - ・ **プロフィール情報を SDカードに記録しますか?**というメッセージが表示されます。
- **はい**または**いいえ**を選択する。
 - ・ アップデートが自動的に開始します。
 - ・ 処理中はLEDランプが点滅します。
 - ・ 正常に完了すると、再起動を促すメッセージが表示されます。
- カメラの電源を入れなおす。

メモ

- ・ 再起動後には、日付、時刻、言語を再設定する必要があります。確認メッセージが表示されます。
- ・ Leica FOTOSからアップデートする場合は自動で設定されます。

LEICA FOTOS

スマートフォンやタブレットを使って、カメラをリモートコントロールすることができます。お使いのモバイル端末に「Leica FOTOS」をインストール必要があります。さらに、「Leica FOTOS」で、以下の便利な機能も使用できます。

- 写真に位置情報（ジオタグ）を付ける（p.74）
- データを転送する
- ファームウェアのアップデートをインストールする
- 集合写真用などにリモートコントロールでリードタイムを選択できるセルフタイマー機能

その際に使用できる機能や操作方法に関して詳しくは、Leica FOTOSで確認できます。本書の「法律に関する事項（6ページ）もお読みください。

- 以下のQRコードをモバイル端末でスキャンする。



または

- Apple App Store™/Google Play Store™でアプリをダウンロードしてください。

接続（iPhoneユーザー）

新しい端末に接続する

初めて接続する場合は、カメラとモバイル端末をペアリングする必要があります。

メニューで操作する

ウィザードを使用しないでの設定、または他のデバイスに接続したい場合などはメニュー項目「**Leica FOTOS**」から設定ができます。

カメラ上で操作する

- メインメニューで「**Leica FOTOS**」を選択する。
- 「**ペアリング**」を選択する。

モバイル端末上で操作する

- Leica FOTOSを起動する。
- 「カメラを追加する」を選択する。
- 機種を選択する。
- 「QRコードをスキャンする」を選択する。
- QRコードをスキャンする。
 - ・ ペアリングが行われます。処理には数秒程度かかることがあります。
 - ・ 接続後LEDランプが点灯し、スクリーンにメッセージが表示されます。

メモ

- ・ ペアリングのプロセスには時間がかかることがあります。
- ・ ペアリングは**初回**のみ必要で、毎行う必要はありません。登録リストに端末が追加されていきます。

登録済み端末に接続する

カメラ上で操作する

- メインメニューで「Leica FOTOS」を選択する。
- 「ペアリング」を選択する。

モバイル端末上で操作する

- Leica FOTOSを起動する。
- 機種を選択する。
- 表示される確認メッセージを確認し、確定する。
 - ・ カメラが自動的にモバイル端末に接続されます。

接続 (Android使用者)

新しい端末に接続する

ワイヤレスLAN経由で接続できます。初めて接続する場合は、カメラとモバイル端末をペアリングする必要があります。

メニューで操作する

ウィザードを使用しないでの設定、または他のデバイスに接続したい場合などはメニュー項目「Leica FOTOS」から設定ができます。

カメラ上で操作する

- メインメニューで「Leica FOTOS」を選択する。
- 「ペアリング」を選択する。
- モニターにQRコードが表示されるまで待つ。

モバイル端末上で操作する

- Leica FOTOSを起動する。
- 「カメラを追加する」を選択する。
- 機種を選択する。
 - ・ ペアリングが行われます。処理には数秒程度かかることがあります。
 - ・ 接続後LEDランプが点灯し、スクリーンにメッセージが表示されます。

メモ

- ・ ペアリングのプロセスには時間がかかることがあります。
- ・ ペアリングは初回のみ必要で、毎回行う必要はありません。登録リストに端末が追加されていきます。

登録済み端末に接続する

カメラ上で操作する

- メインメニューで「Leica FOTOS」を選択する。
- 「ヘアリング」を選択する。

モバイル端末上で操作する

- Leica FOTOSを起動する。
- 機種を選択する。
- 表示される確認メッセージを確認し、確定する。
 - ・ カメラが自動的にモバイル端末に接続されます。

ファームウェアをアップデートする

ファームウェア アップデートを中断すると、カメラに重大かつ修復不可能な損傷を与える可能性があります。

ファームウェアのアップデート中には以下の事項を順守してください。

- ・ カメラの電源を切らない。
- ・ メモリーカードを取り出さない。
- ・ バッテリーを取り出さない。
- ・ レンズを取り外さない。

アプリ「Leica FOTOS」のホーム画面にてカメラのファームウェア・アップデート情報を受け取ることができます。

- アプリ「Leica FOTOS」の指示に従う。

メモ

- ・ バッテリー残量が十分でない場合は、警告メッセージがモニターに表示されます。バッテリーを充電してからファームウェアをアップデートしてください。
- ・ アップデートはカメラメニューからでもできます (p.185)。

お手入れ/保管

本製品を長期間使用しない場合は、次のことをおすすめします：

- カメラの電源を切ってください。
- メモリーカードを取り出す。
- バッテリーを取り出す（約2か月ほどで日付と時刻の設定が失われます）。

本体

- 汚れはカビや細菌などの繁殖の原因となりますので、本製品を清潔に保ってください。
- 本製品をお手入れする際は、乾いた柔らかい布をお使いください。ひどい汚れは、よく薄めたクリーナーなどを浸み込ませた布で拭いてから、乾いた布で拭き取ってください。
- 海水がかかった場合は、柔らかい布を水道水で湿らせ、よく絞ってからカメラ本体を拭いてください。その後、乾いた布でよく拭いてください。
- 指紋などの汚れは、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。布で拭き取りにくい隅の部分がひどく汚れている場合は、小さなブラシで取り除いてください。その際絶対にシャッターブレードに触れないでください。
- 破損やほこりから保護するために、クッション入りのケースに保管することをおすすめします。
- カメラは、高温多湿を避け、乾燥した十分に換気された場所に保管してください。湿気の多い場所で使用した場合は、湿気をよく取り除いてから保管してください。
- カビの発生を防ぐため、革製のケースにカメラを長期間入れて保管しないでください。
- 収納しているケースが湿気を吸収した場合は、湿気そのものや湿気によって染み出るなめし剤によって、本製品が故障するのを防ぐために、本製品をケースに収納しないでください。
- 機械的に動作するベアリングやスライド部には潤滑油を使用しています。長期間使用しない場合は、スムーズな動作を保つため、約3か月ごとに数回シャッターを切って動かしてください。また、その他の操作部もすべて定期的に動かすことをおすすめします。
- 高温・多湿の熱帯地域で使用するときは、カビが発生するのを防ぐために、できるだけ多く日光や風に当ててください。密封ケースなど

に保管するときは、シリカゲルなどの乾燥剤を入れてください。また、レザー製のケースに長期間収納したままにしないでください。

レンズ

- レンズ表面についたホコリはまずブローで吹き飛ばし、それでも落ちない場合は柔らかいブラシを使って落としてください。汚れがひどい場合や指紋を取り除くには、クリーナーなど何も付けていない柔らかい清潔な布を使って、レンズの中央から外側に向かって円を描くようにして丁寧に拭き取ってください。使用する布には、ケースなどの保護容器に入っているマイクロファイバークロスをおすすめします（写真用品や光学機器の専門店で購入できます）。40° Cの温水で手洗いができるような布をおすすめします（ただし、柔軟剤の使用やアイロンがけは避けてください）。メガネ用クリーニング・ティッシュ等の化学成分を含んだ紙や布は、レンズ表面やコーティング層を傷める原因となりますので絶対に使用しないでください。
- 砂や海水がかかるおそれのある場所で撮影する場合は、透明のUVaフィルターを装着するとフロントレンズを保護できます。ただし、その他のフィルターと同様に、逆光での撮影やコントラストが高い被写体の撮影ではフレアが発生することがありますのでお気を付けください。
- レンズキャップを装着すると、不用意に指紋がついたり雨でぬれたりすることを防げます。
- 機械的に動作するベアリングやスライド部には潤滑油を使用しています。長期間使用しない場合は、動作が鈍くならないよう、フォーカスリングと絞りリングを定期的に動かしてください。

ファインダー/モニター

- 露付きが起こった場合、電源を切り、常温の場所に約1時間置いてください。周囲の温度になじむと、曇りが自然に取れます。

バッテリー

- バッテリーを取り出して保管する場合は、容量がある程度残った状態で保管してください。バッテリー残量はモニターで確認できます。長期間保管する場合は、過放電を避けるために、半年に1回、15分ほど充電してください。

メモリーカード

- ・メモリーカードを保管するときは、記録データを保護するために、帯電防止ケースに入れてください。
- ・高温の場所、直射日光の当たる場所、磁気や静電気が発生する場所で保管しないでください。カメラを長期間使用しない場合は、カメラからメモリーカードを取り出してください。
- ・データ削除を繰り返すと断片化が生じて空き容量が少なくなります。それにより書き込み時間が長くなることで記録エラーが起きる場合がありますので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。

問題	原因	対処方法
電池		
充電がすぐになくなる。	バッテリーが冷たすぎる。	バッテリーを体温などであたため、撮影の直前にカメラに挿入してください。
	バッテリーが熱すぎる。	バッテリーを冷ましてからカメラに挿入してください。
	モニターやEVFが明るすぎる。	輝度を下げてください。
	省エネモードがオンになっていない。	オートパワーオフをオンにしてください。
	AFモードが常にオンになっている。	他のモードを選択する。
	常にワイヤレスLANに接続されている。	必要のないときはワイヤレスLANの接続を解除してください。
	常にモニターを使用している（ライブビューモードなど）。	機能をオフにしてください。
	バッテリーの限界充電回数を超過している。	バッテリーの寿命です。 新しいバッテリーに交換してください。
	被写体追尾（トラッキング）とAFcがオンになっている。	AFsまたはMFを使用してください。
	画像のプレビュー機能（オートレビュー）がオンになっている。	機能をオフにしてください。
充電に時間がかかる。	バッテリーが冷たすぎる/熱すぎる。	バッテリーを常温で充電してください。
チャージャーのステータスLEDランプが点灯しているが、充電されていない。	バッテリーまたはチャージャーの接点が汚れている。	乾いた柔らかい布で、接点を丁寧に拭いてください。
	バッテリーの限界充電回数を超過している。	バッテリーの寿命です。 新しいバッテリーに交換してください。
カメラ		
カメラの電源が突然切れる。	バッテリー残量がない。	バッテリーを充電する、または交換してください。
カメラの電源が入らない。	バッテリー残量がない。	バッテリーを充電する、または交換してください。
	バッテリーが冷たすぎる。	バッテリーを体温などであたためてください。
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	バッテリー残量がない。	バッテリーを充電する、または交換してください。
カメラが発熱する。	高画質4K動画撮影時やDNG形式での連続撮影時にカメラが発熱する。	故障ではありません。熱くなりすぎるときは撮影を中断し、カメラが常温に戻るのを待ってから撮影を再開してください。
カメラがメモリーカードを読み込まない。	互換性がない、または故障しているメモリーカードが挿入されている。	新たなメモリーカードを使用してください。
	メモリーカードが正しくフォーマットされていない。	カメラ内でメモリーカードをフォーマットしてください。 （注意：すべてのデータが消去されるのでお気をつけください。）

メニュー、表示		
EVFが暗い。	EVF輝度が低い。	EVF輝度を上げてください。
表示が日本語でない。	-	メインメニューで「Language」を選択し、日本語に設定してください。
EVFが暗い。	EVFとLCDの切り替え設定が間違っている。	最適な設定を選択してください。
ファインダー内の画像のピントが合っていない。		ファインダーの視度を調整してください。
モニターが暗すぎる/明るすぎる。	モニター輝度が正しく設定されていない。	モニター輝度を設定しなおしてください。
	視野角が狭い。	モニターをできるだけ正面から見てください。
	輝度センサーが覆われている。	輝度センサーが覆われないよう気を付けてください。
ライブビューが突然消える、または表示されない。	撮影環境の温度、ライブビューの長時間使用、長時間の動画撮影や連続撮影により、カメラが発熱する。	カメラが常温に戻るのを待ってください。
ライブビューモード時のモニターの明るさと画像の明るさが違う。	モニター輝度は画像の明るさとは関係ありません。	必要であれば、輝度を調整してください。
	露出プレビューがオフになっている。	機能をオンにしてください。
撮影後、撮影可能枚数が減らない。	画像データが小さいため、メモリーカードの容量をとらない。	故障ではありません。撮影可能枚数はおよその数です。
撮影モード		
シャッターボタンを半押しすると、モニター/ファインダーにノイズが発生する。	撮影環境の明るさが十分でない、または絞りを絞り込んで撮影する場合、ISO値が自動で高く設定される（オートISO設定時）。	故障ではありません。撮影が続行されます。
モニター/ファインダーがすぐにオフになる。	省エネモードがオンになっている。	省エネモードの設定を変更してください。
撮影後にモニターの表示が消える/モニターが暗くなる。 フラッシュが発光しない。	フラッシュ撮影後、次の撮影に向けての発光準備中は、モニターがオフになる。	フラッシュの発光準備が完了するのを待ってください。
	現在の設定でフラッシュが使用できない。	フラッシュユニット使用時に設定できる各種機能をご確認ください。
	バッテリー残量がない。	バッテリーを充電する、または交換してください。
	フラッシュ発光準備中にシャッターボタンを押す。	フラッシュの発光準備が完了するのを待ってください。
	電子シャッターが選択されている。 オートブラケットまたは連続撮影がオンになっている。	各種設定を調整してください。 各種設定を調整してください。
フラッシュが被写体に正しく照射されない。	被写体がフラッシュ光の到達範囲内にない。	フラッシュ光の届く範囲内に被写体を置いてください。
	フラッシュ発光部位が遮られている。	発光部位が手やレンズでおおわれていないか確認してください。

シャッターが切れない/シャッターボタンが作動しない/撮影できない。	メモリーカードがいっぱい。	空き容量のあるメモリーカードに交換してください。
	メモリーカードがフォーマットされていない。	メモリーカードをフォーマットしてください。 ただし、すべてのデータが消去されるのでお気をつけください。
	メモリーカードがロック（書き込み防止）されている。	メモリーカードのロックを解除してください。（カード側面にスイッチがあります。）
	メモリーカードの端子部が汚れている。	端子部を綿やリネンの布で丁寧に拭いてください。
	メモリーカードが故障している。	メモリーカードを交換してください。
	センサーがオーバーヒートしている。	カメラが常温に戻るのを待ちください。
	カメラの電源が自動的に切れる（オートパワーオフ）。	カメラの電源を入れ直してください。 オートパワーオフをオフにしてください。
	画像データをメモリーカードに記録中で、バッファメモリーがいっぱい。	撮影準備が終了するまでお待ちください。
	ノイズリダクション処理中（夜間の長時間露光撮影後など）。	処理が終了してから、ノイズリダクションをオフにしてください。
	バッテリー残量がない。	バッテリーを充電する、または交換してください。
オートでピントが合わない。 顔が認識されない。	撮影準備中	撮影準備が終了するまでお待ちください。
	画像番号がいっぱい。	「データ管理」の項目をご覧ください。
	AFがオンになっていない。	AFをオンにしてください。
	サングラス、帽子、髪の毛などで顔や顔のパーツが隠れている。	顔がはっきり見えるようにしてください。
	画面の中で顔の占める部分が小さすぎる。	構図を変更してください。
	顔が傾いている、または正面を向いていない。	顔をまっすぐカメラのほうに向けてください。
	カメラが傾いている。	カメラをまっすぐにして撮影してください。
	撮影に十分な光が顔に当たっていない。	フラッシュを使用し、十分な光量で撮影してください。
	カメラが主要被写体を正しく認識していない。	構図を変え、AFロックまたはAFsモードを使用して、ピントを固定してください。
	顔が主要被写体として認識されている。	顔認識機能をオフにしてください。
連続して撮影ができない。	カメラがオーバーヒートしているため、各種機能が一時的に無効になっている。	カメラが常温に戻るのを待ちください。
	モニター画面にノイズが発生する。	故障ではありません。撮影が続行されます。
画像の保存に時間がかかる。	暗い場所でのモニターの輝度調整機能によるものです。	
	ノイズリダクション処理中（夜間の長時間露光撮影後など）	機能をオフにしてください。
ホワイトバランスをマニュアル設定できない。	処理速度の遅いメモリーカードを使用している。	適したメモリーカードを使用してください。
	モニターが暗すぎる、または明るすぎる。	
ピントが合わない。	被写体までの距離が近すぎる。	マクロモードに切り替えてください。
	被写体までの距離が遠すぎる。	マクロモードを解除してください。
	AFモードでピントが合わない。	マニュアルフォーカスで撮影してください。
AFモード時にAFフレームが赤色から緑色に変わらない。	ピントが合っていない。	再度ピントを合わせてください。

AFフレームを選択できない	フォーカスリングがAFポジションに設定されていない。	フォーカスリングをAFポジションに設定してください。
	シーンプログラム内でオート/人物撮影に設定されている、またはAFモードの顔認識機能が選択されている。	これらの設定を解除し、他のモードに設定してください。
	シーンプログラムに設定されている。	メニュー項目撮影モード(シーン)でP-A-S-Mを選択してください。
	再生モード中	撮影モードに切り替えてください。
AF補助光が発光しない。	スタンバイモード中	シャッターボタンを半押ししてスタンバイモードを解除してください。
	動画撮影モードに設定されている。	静止画撮影モードに切り替えてください。
	AF補助光機能がオンになっていない。	AF補助光機能をオンにしてください。
動画撮影		
動画が撮影できない。	カメラがオーバーヒートしているため、各種機能が一時的に無効になっている。	カメラが常温に戻るのを待ちください。
動画撮影が自動的に中断された。	最大録画時間を超えた。	
	設定した動画の記録画素数に対し、メモリーカードの書き込み速度が遅すぎる。	他のメモリーカードに交換する、または動画の記録画素数を変更してください。
動画撮影モードでL-Logを選択できない。	動画のビットレートが10 bitに設定されていない。	ビットレートを10 bitまたはMOVIに切り替えてください。
再生モード/画像の管理		
選択した複数の画像を削除できない。	書き込み防止された画像が選択されている。	書き込み防止を解除してください。
ファイル名が0001から始まらない。	メモリーカード内に画像番号が0001の画像がある。	「データ管理」の項目をご覧ください。
時刻/日付設定が間違っているか、設定されていない。	バッテリーを取り出したまま、カメラを長期間使用していない。	充電したバッテリーを挿入し、設定を行ってください。
画像上に表示された日付/時刻が間違っている。	日付/時刻が正しく設定されていない。	日付/時刻を正しく設定してください。 放電してしまったバッテリーを挿入したままカメラを長期間使用しないと、日付と時刻の設定が失われます。
画像上に日付/時刻を表示したくない。	設定が正しくされていない。	あとから削除することはできません。 機能をオフにしてください。
画像が破損している、または保存されていない。	メモリーカードへの画像の書き込み中(LED点滅中)にメモリーカードが取り出された。	メモリーカードへの画像の書き込み中(LED点滅中)は、メモリーカードを取り出さないでください。バッテリーを充電してください。
	メモリーカードが正しくフォーマットされていない、または破損している。	メモリーカードをフォーマットしてください。 (注意:すべてのデータが消去されるのでお気を付けてください。)
撮影直後の画像が表示されない。	オートレビュー機能がオフになっている。	オートレビューをオンにしてください。
撮影した動画の一部がモニター上に表示されない。	カメラと再生機器のアスペクト比が異なる。	適切なアスペクト比をカメラで選択してから撮影してください。

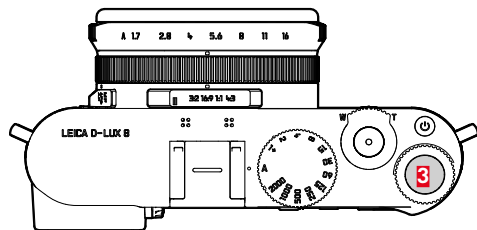
静止画画質		
ノイズが発生する。	露光時間が長い(1秒以上)。 ISO感度が高すぎる。	ノイズリダクション機能をオンにしてください。 低めのISO感度に設定してください。
画像の色が不自然。	ホワイトバランスが設定されていない、または光源に合っていない。	光源に合わせたホワイトバランスをプリセットから設定する、またはマニュアルで設定してください。
画像上に白い斑点が写っている。	暗い場所でフラッシュ撮影を行った場合：ほこりなどの大気中の粒子にフラッシュ光が反射した。	フラッシュを使用せずに撮影してください。
ピントが合っていない。	レンズが汚れている。	レンズをクリーニングしてください。
	レンズの前に障害物などがある。	障害物をどけて撮影をしてください。
	撮影中にカメラが動いた。	フラッシュを使用してください。
		カメラを三脚に固定して撮影してください。 シャッタースピードを速く設定してください。
露出オーバー	マクロ機能	マクロ機能をオン(被写体までの距離が近すぎる時)にする、またはマクロ機能をオフ(被写体までの距離が遠いとき)にしてください。
	明るい撮影環境下でフラッシュがオンになっている。	フラッシュモードを変更する、またはオフにしてください。
	画像内に明るい光源が写っている。	明るい光源が写りこまないように撮影して下さい。
	逆光での撮影	レンズフードを使用するか、構図を変えてください。
画像がブレている。	露光時間が長い。	露出時間を短く設定してください。
	暗い撮影環境下でフラッシュを使用していない。	三脚にカメラを固定し、フラッシュを使用して撮影してください。
画質が荒く、ノイズが発生している。	ISO感度が高すぎる。	低めのISO感度に設定してください。
横縞のノイズが発生する。	光源が蛍光灯やLEDランプの際の、電子シャッターを使用した撮影。	シャッタースピードを速く設定してください。
明るすぎる、または色が不自然。	明るすぎる環境下や、人工光源下での撮影。	適切なホワイトバランスをプリセットから選択するか、マニュアルで設定してください。
画像が表示されない。	メモリーカードが挿入されていない。	メモリーカードを入れてください。
	違うカメラで撮影された画像。	パソコンなど他のデバイスに移して再生してください。
画像が表示されない。	パソコン上で画像のファイル名が変更された。	パソコンへのデータ転送に適したソフトウェアを使用してください。
動画画質		
動画中にフリッカー(ちらつき)やノイズが見られる。	人工光源による干渉。	動画画質 / 記録形式で異なるフレームレートを選択してください。
動画に雑音が入っている。	動画撮影中のダイヤルやボタン操作による。	動画撮影中は、ダイヤル/ボタン操作をなるべく使用しないようにしてください。

動画再生時に音声が出ない。	再生音量が低すぎる。	再生音量を上げてください。
	撮影時にマイクが遮られていた。	動画撮影時にマイクが隠れないように、お気を付けてください。
	スピーカーが遮られている。	再生時にスピーカーが隠れないように、お気を付けてください。
	動画撮影時にマイクがオフになっていた。	マイクをオンにして、感度を設定してください。
動画中にフリッカー（ちらつき）が見られる。	LEDランプや蛍光灯などの人工光源による干渉。	マニュアルでシャッタースピードを（1/100秒など）設定してください。
スマートフォン/ワイヤレスLAN		
ワイヤレスLAN接続が中断された。	カメラがオーバーヒートした。	カメラが常温に戻るのを待ちください。
接続したいモバイル端末とペアリングできない。	他のカメラとペアリングされた。	モバイル端末上のBluetooth設定に登録されているカメラのリストから削除し、ペアリングしなおしてください。
モバイル端末と接続できない/画像を転送できない。	モバイル端末からカメラまでの距離が遠すぎる。	モバイル端末とカメラを近づけてください。
	磁気、静電気、電波障害が発生する機器が近くにある。	障害を起こす可能性のある電子機器の近くで使用しないでください。
	近くに他のモバイル端末がある。	接続しなおす、またはペアリングしないモバイル端末を遠ざけてください。
	モバイル端末が他の機器と接続されている。	接続状況を確認してください。
ワイヤレスLAN設定画面に、接続したいカメラ名が表示されない。	モバイル端末がカメラを検出していない。	モバイル端末のワイヤレスLANを接続しなおしてください。

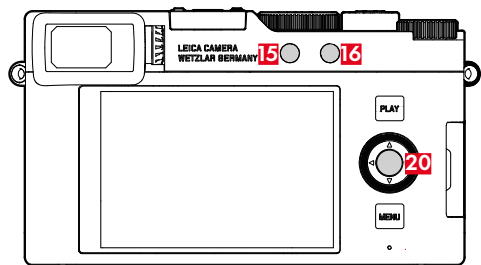
メニュー項目一覧

ファンクションボタン

以下の各種ボタン/ダイヤルをショートカット機能に使用することができます。設定方法についてはp.54をご覧ください。



3 サムホイールボタン



15 ファンクションボタン1

16 ファンクションボタン2

20 センターボタン

製図解説

◆ = ホーム画面から
設定可能

★ = お気に入りメニューに
登録可能

● = ファンクションボタンに
登録可能

● = ファンクションボタンの
初期設定

ショートカット

機能	静止画			動画		
	ホーム画面	ファンクションボタン		ホーム画面	ファンクションボタン	
静止画・動画*	◆	●	● (16)	◆	●	● (16)
情報画面切換		●	● (20)			
AEロック/AFロック						
AF-L + AE-L		●				
AE-L		●				
AF-L		●				
ドライブモード	◆	●				
インターバル撮影		●				
オートブラケット		●				
セルフタイマー						
フォーカス		●			●	
フォーカスモード	◆	●		◆	●	
AFモード	◆	●		◆	●	
MFアシスト		●			●	
自動拡大		●			●	
フォーカスビーキング		●			●	
AF補助光		●			●	
タッチAF		●			●	
EVF使用時にタッチAF		●			●	
測光モード ^②	◆	●		◆	●	
露出補正	◆	●		◆	●	
ISO	◆	●	● (3)	◆	●	● (3)
オートISO設定		●			●	

*ショートカットでのみ使用可能な機能があります。これらの機能は表の始めに記してあります。

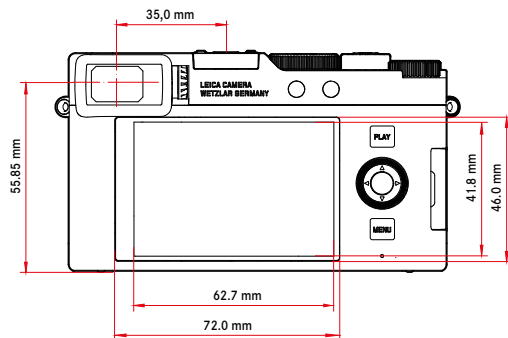
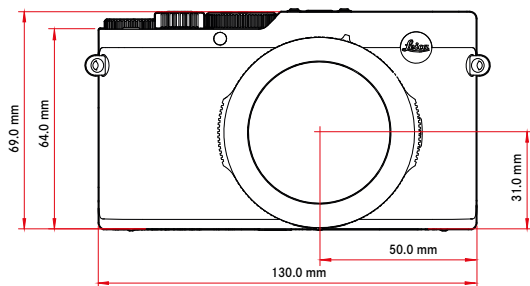
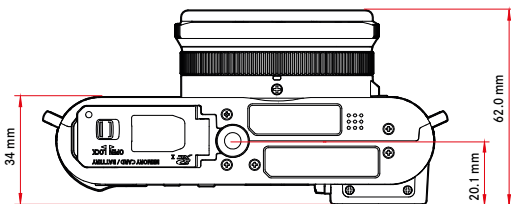
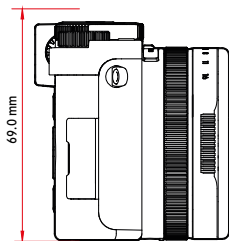
ホワイトバランス	◆	●		◆	●	
グレーカード		●			●	
色温度		●			●	
静止画記録形式	◆	●				
JPG設定						
JPG解像度	◆	●				
ノイズリダクション (JPG)	◆	●				
フィルムモード [※]		●			●	
ハイライトトーン / シャドウトーン		●			●	
iDR		●			●	
撮影モード (シーン)	◆	●		◆	●	
OIS						
シャッタータイプ		●				
フラッシュ設定		●				
フラッシュモード [※]						
露出プレビュー		●				
オートレビュー						
ノイズリダクション (長時間露光)		●				
サムホイル						
ユーザープロファイル	◆	●		◆	●	
プロファイル管理						
撮影アシスト						
モニター設定						
EVF <> LCD		●			●	
LCD輝度						
LCDカラー設定						
EVFカラー設定						
Leica FOTOS	◆	●		◆	●	
メモリーフォーマット				◆	●	

カメラ設定						
ファイル名変更						
画像番号リセット						
省エネ				◆	●	
電子音					●	
音量						
日付 & 時刻					●	
カメラ情報				◆	●	
ファームウェア						
ファームウェア アップデート		●	● 15		●	● 15
ライセンス情報		●				
カメラ情報		●			●	
Language						
設定リセット		●				

再生モード時のショートカット機能

機能	再生（静止画/動画）		
	再生メニュー	ファンクションボタン	
情報画面切換		●	● 20
マーク		●	● 3
EVF-LCD		●	● 15
1コマ消去	●	●	● 16
フィルター	●	●	
複数コマ消去	●	●	
★なしを全コマ消去	●	●	

テクニカルデータ



カメラ

名称

ライカ D-Lux 8

形式

コンパクトデジタルカメラ

型番

3952A

商品コード

19191

バッファメモリー

DNG™：14枚以上*、JPG: 100枚以上*

	DNG	DNG + JPG	JPG
11fps	12	12	100
7fps	13	13	100
2fps	23	14	100

*CIPA規格に準拠した高速（読み書き）メモリーカードを使用した場合バッファメモリーに保存可能な画像枚数は、フレームレート、画像フォーマットにより異なります

記録媒体

UHS-I/UHS Speed Class 3, SD-(≤2GB)/SDHC (≤32GB)-/SDXC (≤128GB)メモリーカード

材質

金属製：マグネシウムダイカスト、合皮外装

動作環境

0° C～+40° C

インターフェース

ライカフラッシュユニット用の追加制御接点を装備したISOアクセサリシュー、HDMI端子（タイプD）、USB3.1 Gen 1 タイプC

三脚用ねじ穴

A 1/4（1/4インチ、DIN4503に準拠）、合金製

質量

約397g/357g（バッテリー有/無）

撮像素子

センサーサイズ

4/3インチCMOSイメージセンサー、総画素数：2177万画素、有効画素数：1700万画素

フィルター

RGBカラーフィルター、UV/IRフィルター

記録形式

静止画：DNG™（RAWデータ）、DNG™ + JPG、JPG（DCF 2.0、Exif 2.31）

動画：MP4、h.264、AACステレオ

解像度（静止画）

	アスペクト比	記録画素数
DNG™	16:9	5152x2904 (15 MP)
	3:2	4928x3288 (16.2 MP)
	4:3	4736x3552 (16.8 MP)
	1:1	3552x3552 (12.6 MP)
L-JPG	16:9	5152x2904 (15 MP)
	3:2	4928x3288 (16.2 MP)
	4:3	4736x3552 (16.8 MP)
	1:1	3552x3552 (12.6 MP)

	アスペクト比	記録画素数
M-JPG	16:9	3840x2160 (8.3 MP)
	3:2	3504x2336 (8.2 MP)
	4:3	3360x2520 (8.5 MP)
	1:1	2528x2528 (6.4 MP)
S-JPG	16:9	1920x1080 (2.1 MP)
	3:2	2496x1664 (4.2 MP)
	4:3	2368x1776 (4.2 MP)
	1:1	1776x1776 (3.2 MP)

ファイルサイズ

DNG™：31 MB、記録画素数や被写体により異なる

静止画：記録画素数や被写体により異なる

動画：最長連続撮影時間：29分

色深度

DNG™：12 bit

JPG：8 bit

色空間

静止画：sRGB

動画画質

	記録画素数
4K	3840x2160
Full HD	1920x1080
HD	1280x720

フレームレート/ビットレート（動画）

4K 30p	29.97fps	4K 4:2:0 / 8bit	h.264	L-GOP	100Mbps
4K 24p	23.98fps	4K 4:2:0 / 8bit	h.264	L-GOP	100Mbps
FHD 60p	59.94fps	FHD 4:2:0 / 8bit	h.264	L-GOP	28Mbps
FHD 30p	29.97fps	FHD 4:2:0 / 8bit	h.264	L-GOP	20Mbps
HD 30p	29.97fps	HD 4:2:0 / 8bit	h.264	L-GOP	10Mbps

レンズ

名称

ライカ DC バリオ・ズミルックス10.9–34 f/1.7-2.8 ASPH.、35 mm判
換算：24-75 mm、絞り範囲：F1.7～F16（10.9mm時）、F2.8～F16（34mm時）

レンズフィルター取り付け部

E43

手ブレ補正

光学補正（静止画、動画）

絞り値

ズーム幅による異なる。広角：F1.7～F16、望遠：F2.8～F16（ステップ幅：1/3 EV）

ファインダー/モニター

電子ビューファインダー

OLED、解像度：236万ドット、60fps、倍率：0.74倍（アスペクト比：4:3の場合）、射出瞳：20mm、－4dpt～+4dptの範囲内で調整可能、ビューファインダーとモニターを自動的に切り換えるアイセンサー付（タイムラグ 約0.005秒）

モニター

3.0型 TFT 液晶モニター（タッチパネル）、画素数：184万3200ドット、384ppi、アスペクト比 3:2

シャッター

シャッター方式

電子シャッターまたはメカニカルシャッター

シャッタースピード

フォーカルブレンシャッター：60秒～1/4000秒

電子シャッター：1秒～1/16000秒

シャッターボタン

2段式

（1段目：カメラ起動、オートフォーカス、測光時、2段目：レリーズ）

セルフタイマー

カウントダウン：2秒または12秒

ドライブモード

1コマ、インターバル撮影、オートブラケット

連続撮影：

- コンティニユアス - 2 fps, 12 bit, AF
- コンティニユアス - 7 fps, 10 bit
- コンティニユアス - 11 fps, 10 bit

ピント合わせ

合焦範囲

50cm～∞

マクロ設定時：3cm（広角）～、30cm～（望遠）

フォーカスモード

オート、オート（マクロ）またはマニュアル

オートフォーカス

コントラスト検出方式

AFモード

インテリジェントAF（AFs↔AFc自動切換）、AFs、AFc

測距方式（オートフォーカス）

スポット（スポットの移動可）、フレーム（フレームの移動とサイズ変更可）、多点、ゾーン（フレームの移動可）、瞳 / 顔、トラッキング

AF測距点

49

露出

測光

TTL測光（レンズの実絞りによる測光）

測光形式

撮像素子による測光（すべての測光方式にて）

測光方式

スポット、中央重点、多点

露出モード

プログラムAE（P）

絞り優先AE（A）：絞りをマニュアルで設定

シャッター優先AE（S）：シャッタースピードをマニュアルで設定

マニュアル（M）：シャッタースピード、絞り共にマニュアルで設定

オートモード（撮影モード（シーン））：

オート、人物、風景、夜景、ジオラマ、ワンポイントカラー、HDR

露出補正

±3EV（1/3EVステップ）

オートブラケット

撮影コマ数：3枚、5枚または7枚、露出ステップ：最大1EV（ステップ幅：1/3EV）

露出補正も可：最大±3EV

ISO感度

	静止画	動画
オートISO	ISO 200–25 000	ISO 200–6 400
マニュアル	ISO 100–25 000	ISO 100–6 400

ホワイトバランス

オート（オート）、プリセット（晴天、くもり、日かげ（晴天時）、白熱灯、フラッシュ）、マニュアル設定（グレーカード）、色温度設定（色温度、2500K～10000K）

フラッシュ

フラッシュユニット

付属品：Leica CF D

照射角度

レンズの最短焦点距離10.9mm時

ガイドナンバー

10（ISO200設定時）/7（ISO100設定時）

フラッシュ光到達範囲

約0.6～14.1m（最短焦点距離）/0.3～8.5m（最長焦点距離）

フラッシュユニットの接続

ホットシュー接点

フラッシュ同調速度

⇐：1/4000秒より遅いシャッタースピードが使用可能

フラッシュ発光量調整

±3EV（1/3EVステップ）

その他

マイク

ステレオ

スピーカー

Mono

ワイヤレスLAN

専用アプリ「Leica FOTOS」接続用。Google Play Store™または、Apple App Store™でダウンロードできます。

IEEE802.11b/g/n チャンネル1–11（2412–2462MHz）、最大出力（e.i.r.p.）：5.9dBm、暗号化方式：ワイヤレスLAN対応WPA™/WPA2™

Bluetooth

Bluetooth 5.0 LE：チャンネル0–39（2402–2480MHz）、最大出力（e.i.r.p.）：1.2dBm

GPS

Leica FOTOS使用時、使用可能（各国の法律に基づき利用可能地域は限定されます。）データは、画像ファイルのExifヘッダーに書き込まれる

表示言語

英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、日本語、繁体中国語、簡体中国語、韓国語

電源

バッテリー（ライカ BP-DC15）

充電式リチウムイオンバッテリー、定格電圧：7.2V（DC）、容量：1025mAh、製造：Panasonic Energy（Wuxi）Co. Ltd.、中国製

USB充電

電源オフ時：5V/1500mA（2.5W以上）

公称入力電圧/電流

7.2V ≒ 0.9A（バッテリー）、5V ≒ 1.0A（USB）

ライカ カスタマーケア

お手持ちの製品のメンテナンスや修理が必要な場合は、下記のカスタマーケア、またはお近くのライカ正規販売店までご相談ください。

ライカカメラジャパン株式会社

カスタマーケア

東京都中央区銀座6-4-1 ライカ銀座店内

Tel.: 0570-055-844

Fax: 03-6215-7073

E-mail: info@leica-camera.co.jp

ライカカメラ本社 (ドイツ)

Leica Camera AG

Leica Customer Care

Am Leitz-Park 5

35578 Wetzlar

ドイツ

Telefon: +49 6441 2080-189

Fax: +49 6441 2080-339

E-mail: customer.care@leica-camera.com

<https://leica-camera.com>

各国のカスタマーサポートセンター

お客様の住まいの地域を担当するカスタマーケアについては、以下のホームページでご確認いただけます。

<https://leica-camera.com/ja-JP/contact>

ライカ アカデミー

ライカアカデミーでは写真撮影に役立つ各種セミナーやワークショップを開催しています。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

<https://leica-camera.com/ja-JP/raikaakatemi>

